

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 31 号 (2025 年度)

KPMNH Yearbook

No. 31

2025. 4 – 2026. 3

Web 版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Sept. 2026

ごあいさつ

2025 年度も皆様方のご支援、ご協力を賜り、無事 1 年間の博物館活動を行うことができましたことに、あらためて深く感謝申し上げます。

振り返りますと、2025 年度ほど世の中で博物館が注目された年はなかったように思います。全国の数多くの博物館が予算的な窮状に直面し、いくつかの博物館ではクラウドファンディングなどにその解決の糸口を求め、多くの事例が広く報道されたことはご記憶のとおりです。当館でも 2024 年度に寄附の呼びかけを行い、その寄附金を活用して 2025 年度には昆虫コーナーの展示更新を実施することができました。また、全国各地の博物館において収蔵スペースが逼迫していることも報道によって紹介されました。高度なデジタル技術を活用した没入型展示を取り入れてリニューアルした館がある一方で、さまざまな事情によって展示更新が進まない館も数多く話題として取り上げられました。当館もまったく同様の状況にあり、収蔵庫の狭隘化、展示更新の必要性について所管課である生涯学習課に現状を報告し、解決に向けてさまざまな可能性を模索しているところです。

さて、これまで当館は博物館法に基づき「集める（資料収集・保管）」「調べる（調査研究）」「伝える（展示・教育普及）」という 3 つの業務を活動の柱と位置づけ、30 年余にわたりひたむきにその活動を続けて参りました。このような方針のもとに進めてきた 2025 年度 1 年間の活動の結果を、ここに年報というかたちで利用者のみなさまにご報告できることを大変うれしく感じています。その概要を以下に簡単にお伝えします。

「集める」ことに関しては、約 40,000 点の資料を新たに収集することができました。その結果、資料総数は約 130 万点に達し、2025 年度にはそのうちの約 24,000 点が外部の方に利用されています。「調べる」ことに関しては、各学芸員が日頃の研究成果を国内外の学術誌や学会、当館の学術出版物で公表しました。「伝える」ことに関しては、常設展を約 275,000 人の方に、特別展「初三郎式、かながわの描き方—地形表現の科学—」および企画展「自然史アーカイブズをひらく」を約 65,000 人の方にご覧いただき、観察会や実習、講座などの行事には約 6,700 人の方にご参加いただき、約 3,700 人からのご質問にお答えすることができました。これだけではなく、のべ約 2,800 人のボランティア活動、友の会活動、職場体験やインターンシップ、博物館実習、神奈川県博物館協会の活動、神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会、箱根ジオパークの活動など、さまざまな活動を通じて、あわせて約 288,000 人の方にご利用いただくことができました。これに加えてウェブサイトのコンテンツの充実や SNS による発信にも力を注ぐことで、当館の知名度や好感度を向上させることができたと自負しています。

この年報は 2025 年度の活動の結果報告であると同時に、当館の歴史の 1 ページにも相当します。今後も 1 年 1 年と歴史を積み重ね、みなさまに愛され、信頼され、大切にされる博物館を目指し、たゆまぬ努力を続けて参ります。みなさまのより一層のご理解とご助言、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

2026 年 9 月

神奈川県立 生命の星・地球博物館

館 長

佐藤 武宏

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川県を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として地球

の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

シンボルマーク・ロゴタイプ

I 沿革.....	4	6. 刊行物.....	69
1. 沿革.....	4	6.1. 定期刊行物.....	69
2. 2025 年度の主な出来事	5	6.2. 不定期刊行物.....	70
II 機能.....	6	6.3. 刊行物販売状況	71
1. 運営管理機能.....	6	7. 情報システム.....	72
1.1. 事業体系	6	7.1. システムの概要	72
1.2. 組織	7	7.2. サブシステムの紹介	73
1.3. 職員名簿	8	7.3. インターネットの利用	74
1.4. 利用者	9	7.4. 情報提供	74
1.5. 歳入歳出決算	11	8. 連携機能.....	75
1.6. 事業評価	11	8.1. 友の会	75
2. 情報発信機能.....	12	8.2. サロン・ド・小田原	76
2.1. 常設展示	12	8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	76
2.2. 特別展示	14	8.4. 館内施設等の状況	78
2.3. その他の展示	16	III 資料.....	web
2.4. SEISA ミュージアムシアター.....	16	1. 条例・規則.....	web
2.5. ミューズ・フェスタ 2026.....	18	1.1. 神奈川県立の博物館条例	web
3. シンクタンク機能.....	20	1.2. 神奈川県立の博物館組織規則	web
3.1. 調査研究事業	20	1.3. 神奈川県立の博物館の利用に関する規則	web
3.2. 研究助成金による研究	23	2. 館年表.....	web
3.3. 著作活動・学会発表等	24	2.1. 再編整備決定から開館まで	web
3.4. レファレンス対応人数	33	2.2. 開館から 2025 年度末まで	web
3.5. 各種委員・役員・非常勤講師	34	3. 統計資料.....	web
3.6. 講師依頼等	36	3.1. 年度別利用者数の推移	web
3.7. 学術交流	37	3.2. 特別展・企画展開催実績	web
3.8. 他施設・団体への協力	38	3.3. 資料登録実績	web
3.9. 外部研究者の受け入れ	38	3.4. ウェブサイトアクセス実績	web
3.10. 名誉館員	46	3.5. 収蔵資料データベースのアクセス実績	web
4. データバンク機能.....	47	3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	web
4.1. 資料概況	47	3.7. FishPix のアクセス実績.....	web
4.2. 図書資料収集状況	54	3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録.....	web
4.3. 資料利用状況	54	4. 施設概要.....	web
4.4. 資料燻蒸	55	4.1. 土地・建物	web
5. 学習支援機能.....	56	4.2. 設備	web
5.1. 生涯学習への対応	56	4.3. 面積表	web
5.2. 学校教育への対応	60	4.4. 平面図	web
5.3. 博物館実習	61		
5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動..	62		
5.5. 学習指導員による学習支援活動	62		
5.6. 博物館のボランティア活動	64		
5.7. 広報	65		
5.8. 来館者アンケート.....	66		

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、濱田隆士館長就任。管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる
		生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
	10 月 7 日	天皇陛下下行幸
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
		斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達（4,863 日目）
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達（5,183 日目）
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達（5,716 日目）
	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
	4 月 1 日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015 年	8 月 29 日	入館者 600 万人到達（6,190 日目）
2017 年	5 月 3 日	入館者 650 万人到達（6,667 日目）
2018 年	10 月 26 日	入館者 700 万人到達（7,104 日目）
2020 年	3 月 4 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

2020 年	7 月 1 日	再開館
	11 月 5 日	入館者 750 万人到達 (7,594 日目)
2021 年	1 月 12 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
	3 月 22 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館を継続 (ただし事前に予約をされた方に限り入館可能)
2022 年	3 月 22 日	通常開館
2023 年	3 月 31 日	斎藤靖二名誉館長退任
	5 月 31 日	平田大二館長退任
	6 月 1 日	田中徳久館長就任
	7 月 26 日	入館者 800 万人到達 (8,220 日目)
2024 年	3 月 14 日	改正博物館法に基づく博物館登録
2025 年	6 月 7 日	入館者 850 万人到達 (8,752 日目)
2026 年	3 月 31 日	田中徳久館長退任

2. 2025 年度の主な出来事

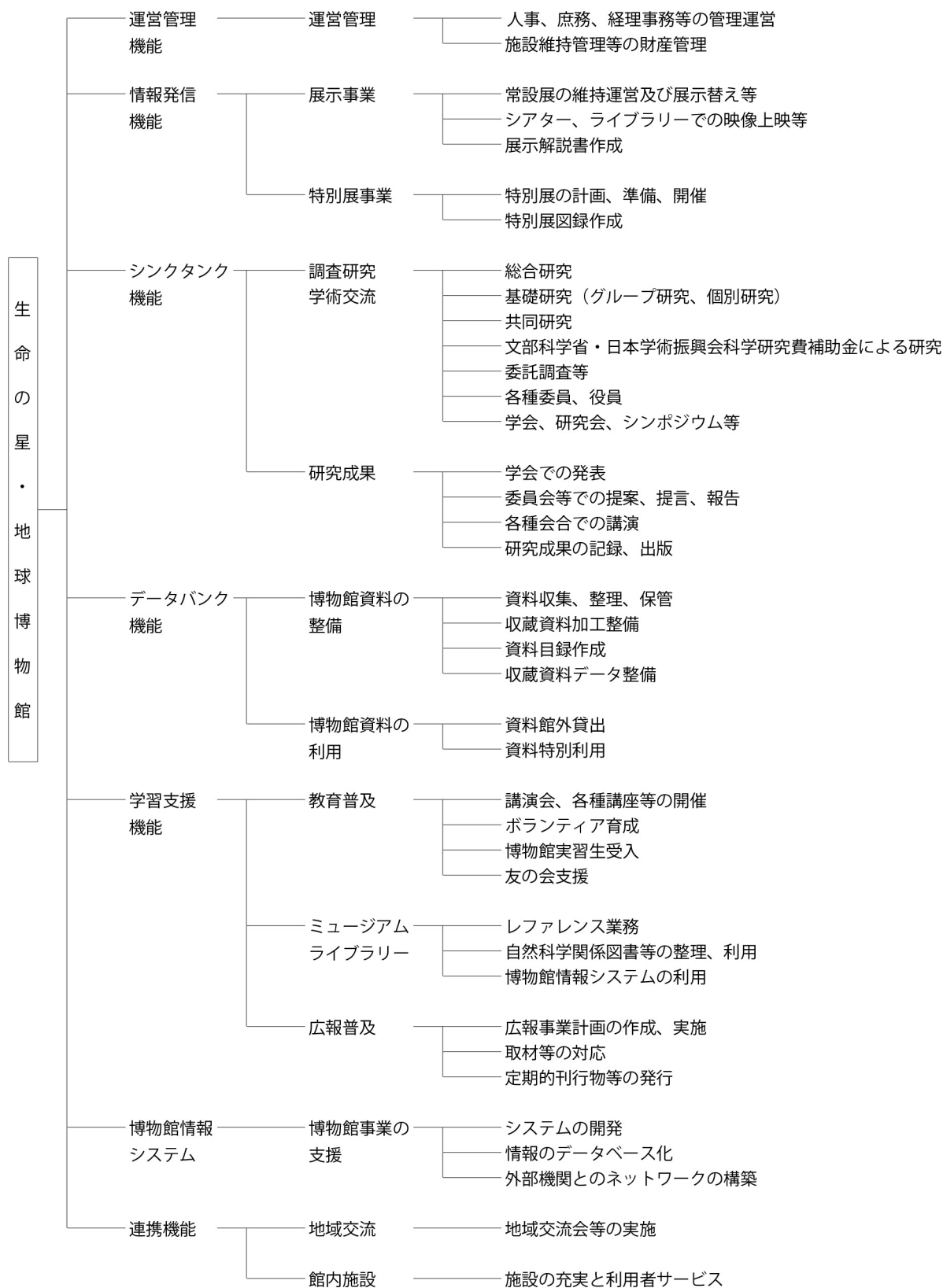
2025 年 2 月 22 日～2025 年 5 月 11 日	企画展「すな一ふしぎをみつけよう」
2025 年 4 月 1 日	定期人事異動
2025 年 5 月 12 日～2025 年 5 月 17 日	館内燻蒸
2025 年 7 月 19 日～2025 年 11 月 9 日	特別展「初三郎式、かながわの描き方 ―地形表現の科学―」
2026 年 2 月 21 日～2026 年 5 月 10 日	企画展「自然史アーカイブズをひらく」
2026 年 3 月 14 日～2026 年 3 月 15 日	ミューズ・フェスタ 2026 開催
2026 年 3 月 18 日～2026 年 3 月 31 日	公衆無線 LAN 試験運用

2025 年度 開館日数：287 日 業務日数：305 日

II 機能

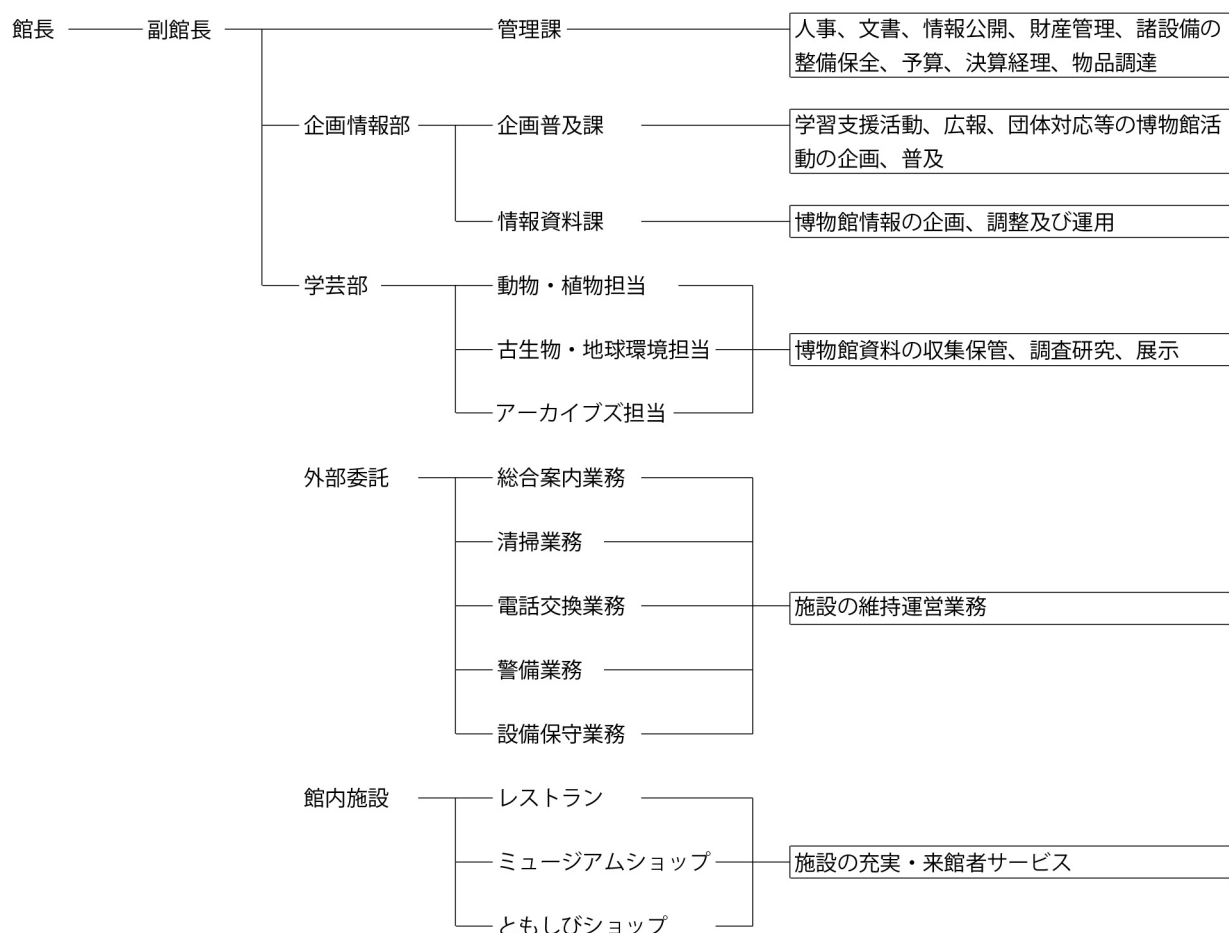
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

令和8年3月31日												
区分		常勤		再任用			会計年度任用職員					合計
		事務職	学芸員	事務職	学芸員	指導員	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員	
館長			1									1
副館長		1										1
管理課	課長	1										1
		6					7	1				14
	小計	7					7	1				15
企画情報部	部長	1										1
	企画普及課	課長	1									1
			1	3			1	3			4	12
	情報資料課	課長	1									1
			1	1				2		1	3	8
	小計	3	6			1	5		1	3	4	23
学芸部	部長		1									1
	動物・植物担当		6									6
	古生物・地球環境担当		6									6
	小計		13									13
合計		11	20	0	0	1	12	1	1	3	4	53

1.3. 職員名簿

掲載省略

1.4. 利用者

2025 年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は 33 ページ、それ以外の利用者状況詳細は 10 ページを参照のこと。

博物館利用者 288,817 人

2025 年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「ボランティア活動実施者」＋「学芸員への質問・相談者」＋「資料利用者」の合計。

入館者 275,110 人（959 人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

常設展入場者 235,492 人（821 人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

特別展・企画展等入場者 64,879 人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

ライブラリー利用者 90,170 人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

講座・観察会・講演会・研修等参加者 6,670 人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、大学生の博物館館園実習、インターンシップ、職場体験の参加者数。

ボランティア活動実施者 2,824 人

学芸ボランティア、ライブラリーボランティア、展示・普及ボランティアの活動実施者。

学芸員への質問・相談者 3,786 人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、現地確認などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

資料利用者 427 人

研究目的の利用、他館での展示利用やテレビ番組・新聞報道での利用など研究以外の利用の依頼者。

1.4.1. 常設展示室の入場者状況

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数			25	20	24	28	31	23	26	25	19	20	21	25	287
有料入場者数	個人	成年	7,856	8,730	7,630	9,900	19,605	8,986	8,810	7,270	5,076	6,131	6,638	7,731	104,363
		未成年・学生	301	343	277	314	921	605	248	352	346	203	526	727	5,163
		高校生	217	180	82	268	638	125	165	100	111	102	181	294	2,463
		65歳以上	1,515	1,264	1,101	1,638	3,039	1,245	1,748	1,291	920	917	802	1,385	16,865
	団体	成年	9	60	135	200	306	188	167	344	5	140	104	115	1,773
		未成年・学生	0	1	0	1	48	38	36	5	0	0	0	0	129
		高校生	0	0	131	0	7	0	11	0	0	1	0	0	150
		65歳以上	13	30	275	182	26	87	55	439	17	51	46	54	1,275
小　計		9,911	10,608	9,631	12,503	24,590	11,274	11,240	9,801	6,475	7,545	8,297	10,306	132,181	
無料入場者数	園児	1,800	1,893	1,859	2,673	4,819	2,126	2,103	2,170	1,184	2,077	2,426	2,926	28,056	
	小学生	2,977	4,095	3,751	3,302	7,719	4,524	5,073	4,885	2,637	2,924	1,551	2,801	46,239	
	中学生	636	1,005	432	666	1,673	396	457	612	484	172	205	493	7,231	
	障がい者	747	748	703	1,135	1,589	775	976	811	533	425	521	638	9,601	
	その他	1,485	593	919	1,171	1,102	882	1,302	1,168	594	519	543	1,906	12,184	
	小　計	7,645	8,334	7,664	8,947	16,902	8,703	9,911	9,646	5,432	6,117	5,246	8,764	103,311	
合　計		17,556	18,942	17,295	21,450	41,492	19,977	21,151	19,447	11,907	13,662	13,543	19,070	235,492	
1日平均（人）		702	947	721	766	1,338	869	814	778	627	683	645	763	821	
前年比（％）		114.4	110.8	118.6	95.8	108.6	85.1	110.1	99.5	122.2	122.4	80.3	89.0	102.8	

			2025 年度			一般公開開始からの累計（＊）		
			1 日平均	構成比(%)	前年比(%)	入場者	1 日平均	構成比(%)
有料入場者	個人	成年	363. 6	44. 3	107. 6	2, 756, 386	306. 7	35. 4
		未成年・学生	18. 0	2. 2	127. 5	108, 603	12. 1	1. 4
		高校生	8. 6	1. 0	110. 7	28, 428	3. 2	0. 4
		65 歳以上	58. 8	7. 2	102. 2	240, 048	26. 7	3. 1
	団体	成年	6. 2	0. 8	75. 3	228, 044	25. 4	2. 9
		未成年・学生	0. 4	0. 1	77. 7	9, 447	1. 1	0. 1
		高校生	0. 5	0. 1	93. 2	2, 196	0. 2	0. 0
		65 歳以上	4. 4	0. 5	79. 6	45, 722	5. 1	0. 6
小 計		460. 6	56. 1	106. 6	3, 418, 874	380. 4	43. 9	
無料入場者	園児	97. 8	11. 9	99. 4	758, 257	84. 4	9. 7	
	小学生	161. 1	19. 6	98. 4	1, 958, 953	218. 0	25. 1	
	中学生	25. 2	3. 1	96. 3	325, 736	36. 2	4. 2	
	障がい者	33. 5	4. 1	104. 3	237, 492	26. 4	3. 0	
	その他	42. 5	5. 2	92. 8	1, 095, 843	121. 9	14. 1	
	小 計	360. 0	43. 9	98. 4	4, 376, 281	486. 9	56. 1	
合 計		820. 5	100. 0	102. 8	7, 795, 155	867. 3	100. 0	

2025年度記録

最高：2025年8月10日 3,544人

最低：2025年4月16日 160人

* 1995年3月21日から 8,988日開館

1.4.2. 特別展示室入場者状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開場日数	25	10	0	13	31	23	26	8	0	0	7	25	168
有料	成年			1,611	4,661	2,062	2,174	785					11,293
	未成年・学生			69	340	215	102	47					773
	高校生			57	197	46	105	14					419
	65歳以上			412	1,071	606	701	321					3,111
	小 計			2,149	6,269	2,929	3,082	1,167					15,596
無 料		16,311	10,822		1,184	3,041	2,029	2,593	1,158	0	2,602	9,543	49,283
合 計		16,311	10,822	0	3,333	9,310	4,958	5,675	2,325	0	2,602	9,543	64,879

1.4.3. 講座・観覧会・研修会等参加者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	557	418	465	483	700	299	466	502	309	468	206	173	5,046
サロン・ド・小田原	0	0	28	0	0	32	0	0	0	16	0	0	76
研修・実習・学校	0	0	156	127	203	67	81	223	322	42	5	91	1,317
博物館館園実習	0	0	0	0	202	28	0	0	0	1	0	0	231
合計	557	418	649	610	1,105	426	547	725	631	527	211	264	6,670

1.5. 歳入歳出決算

[令和7年度歳入]

科目	金額（千円）	内訳		
教育財産使用料	1,753	レストランほか建物使用料		
博物館使用料	57,906	観覧料収入	常設展	55,217
			特別展	2,689
立替収入	1,963	レストランほか電気・ガス・水道料		
図録等売払収入	1,967	展示解説書等販売収入		
雑入	5,838	ライブラリー複写代等、科学研究費補助金間接経費		
合計	69,427			

[令和7年度歳出（社会教育費のみ）]

科目	金額（千円）	内訳		
維持運営費	224,800	館の維持管理及び事業運営		
博物館事業費	23,031	総合案内業務・特別展の開催・総合研究・基礎研究・調査研究報告書の作成・博物館資料収集・収蔵展示資料修繕および加工・各種講座・講演会等の開催・図書等資料整備・広報資料作成		
		データ入力等		
情報システム整備費	2,493			
合計	250,324			

1.6. 事業評価

「博物館法」、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び「かながわ教育ビジョン」に基づき、よりよい社会教育施設づくりを目指して、当館の事業概要を作成し公開するとともに、事業評価を行った。

概要の公開

令和7年4月1日版「神奈川県立生命の星・地球博物館の概要」を作成し、当館ウェブサイトで公開した。

社会教育施設評価書

神奈川県立の社会教育施設6館（県立図書館・県立川崎図書館・金沢文庫・近代美術館・歴史博物館・当館）では、共通評価項目を設定し、年度ごとの施設評価を実施している。

令和7年度には「令和6年度社会教育施設評価書」を作成し、過去のものを含めて当館ウェブサイトで公開している。

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。2024年10月から2025年3月まで昆虫展示の拡充を目的とした集った寄付をもとに、2026年2月に昆虫展示が更新された。新たな展示台を2台設置し、723種の昆虫が新たに追加された。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トuppクスアラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を繰り返し上映している。

この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚がい者への対応を行っているが、2006年7月より日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製や骨格、植物模型などで展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。

このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

情報展示パネル

友の会紹介コーナー

〔展示内容〕 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

〔展示更新〕 随時、特に活動報告など

〔担当〕 生命の星・地球博物館友の会広報部

ミニ企画展示コーナー

最大2ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的として次の8タイトルの「ミニ企画展示」を開催した（前年度に計画され、開催期間が今年度に及んでいるものを含む）。

友の会の皆さまと共に—学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんか—

〔展示内容〕 友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回は、「植物グループ」「地学グループ」「菌学事始め自主勉強会」「友の会講座『地図を楽しもう』」「友の会よろずスタジオグループ」の5つの活動の様子をポスターで紹介した他、友の会役員の活動を写真パネルにした展示等を行った。

〔展示期間〕 2025年3月15日～2025年5月6日

〔担当〕 博物館友の会

自然史の「記録」をひもとく

〔展示内容〕 2025年度企画展「自然史アーカイブズをひらく」のプレ展示として、自然史博物館や研究者らの活動の過程で生まれたさまざまな記録資料について、当館収蔵の5つの資料群から紹介した。

〔展示期間〕 2025年5月24日～2025年7月13日

〔担当〕 大坪 奏

匠の技—恐竜の歯のレプリカ工房—

〔展示内容〕 この展示では、ご自身の仕事の技術と大好きな恐竜を結びつけ、実物と見間違えるほどの恐竜の歯のレプリカ製作の技術を極めた小畑朗（おばた あきら）さんのご自宅のレプリカ工房と作品を紹介した。

※レプリカ標本とは：実物と全く同じ形になるように樹脂や石膏で製作した標本。化石は壊れやすく取り扱いが難しい物も多いため、精巧なレプリカは展示や研究のために必要不可欠な標本である。

〔展示期間〕 2025年7月26日～2025年9月6日

〔担当〕 松本涼子

消える魚たち

〔展示内容〕 現在、世界各地で多くの魚類が生息環境の悪化などによる深刻な危機に直面している。また、絶滅危惧の評価や保全が追いつかず、すでに姿を消してしまった魚種も存在する。国際自然保護連合（IUCN）レッドリストによれば、近絶滅種・絶滅危惧種に指定された魚類は2,350種にのぼる（2025年8月現在）。かつては大衆魚として親しまれたものの、漁獲量の極端な減少により、私たちの生活から姿を消しつつある魚もある。このミニ企画展示では、こうした危機に瀕している魚類や、すでに絶滅した魚類について実物標本を展示し、その脅かされた背景を理由とともに紹介した。

〔展示期間〕 2025年9月13日～2025年10月13日

〔担当〕 和田英敏

博物館周辺の身近な自然

〔展示内容〕 『自然を楽しむみち』のコース及び解説1～9の紹介

STOP! クリハラリス 特定外来生物の分布拡大を止めるために

〔展示内容〕 神奈川県内では、特定外来生物クリハラリスの分布が北および西へと広がりつつある。当館のある小田原市内でも目撃情報があり、このままでは、在来種のニホンリスの分布域に到達する可能性がある。生物多様性の危機を回避しようと、行政と研究者、高校や大学が手を組み、「クリハラリス情報ネット」を立ち上げた。同ネットの全面協力のもと、クリハラリスの特徴、分布の現状、生態系や私たちの生活への影響などについて紹介した。

〔展示期間〕 2025年10月18日～2025年11月29日

〔担当〕 鈴木 聡・クリハラリス情報ネット（協力）

押し葉標本が紡ぐ物語—神奈川県立西湘高等学校寄贈標本展示—

〔展示内容〕 昨年度（令和6年度）に寄贈があった神奈川県立西湘高等学校の維管束植物さく葉標本を展示した。戦前・戦中のさく葉標本2点、西湘高等学校生物部が作製した1960年代のさく葉標本9点の合計11点のほか、写真3点、朝顔の造花2点、古新聞3点などを解説パネルと共に展示し、当時の校長や生物教員、生徒達の自然史に向き合う姿を、標本整理を通じて明らかになったエピソードと共に紹介した。

〔展示期間〕 2025年12月6日～2026年2月8日

〔担当〕 石田祐子・田中徳久

第7回箱根ジオパークフォトコンテスト作品展

〔展示内容〕 『「ならでは」の恵みや営み』をテーマに、箱根ジオパークの魅力を表現した作品を募集するフォトコンテスト（募集期間：令和6年8月22日～令和7年1月10日）で入賞した作品11点及び佳作15点を展示した。

〔展示期間〕 2026年2月18日～2026年3月11日

〔担当〕 西澤文勝・箱根ジオパーク推進協議会事務局（協力）

友の会の皆さまと共に—学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんか—

〔展示内容〕 友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回は、「植物グループ」「地学グループ」「サロン・ド・小田原」「菌学事始め勉強会」「友の会講座『地図を楽しもう』」「友の会よろずスタジオグループ」の6つの活動の様子をポスターで紹介した他、友の会通信等のバックナンバーの展示を行った。

〔展示期間〕 2026年3月14日～2026年4月26日

〔担当〕 博物館友の会

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2025年度は特別展を1回、企画展を1回開催した。

2.2.1. 特別展

「初三郎式、かながわの描き方 ―地形表現の科学―」

[開催期間] 2025年7月19日(土)～11月9日(日)

[開催日数] 101日間

[入場者数] 25,601人

[会場] 1階特別展示室

[共催] 神奈川県立歴史博物館

[後援] 日本地図学会、箱根ジオパーク推進協議会、
神奈川新聞社、t v k (テレビ神奈川)

[協力] 小田原市郷土文化館、箱根町立郷土資料館、
(公財) 徳富蘇峰記念塩崎財団

[展示協力] 加賀玲子・木村洋子・草山清美・下出
朋美・長山武夫・長山高子・谷 圭司

[写真撮影協力] 長山武夫

[ポスター・チラシデザイン] 本杉弥生

[特別展実行委員会] 新井田秀一・西澤文勝・夏目
樹・山下浩之・石浜佐栄子・田口公則・八幡珠恵・
佐伯有紀

[展示担当] 新井田秀一・武田周一郎

[科研費助成] JSPS 科研費 19K01149「歴史的な鳥
瞰図に対する博物館学的な視点から観た数値標
高モデルによる再構築」(新井田秀一・武田周一
郎)、19K13451「近代東アジアにおける地図製図・
印刷技術の展開過程に関する基礎的研究」(武田
周一郎)、23K00965「歴史的鳥瞰図と衛星画像に
よる宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブ
ズの構築」(新井田秀一・武田周一郎)

[展示点数] 絵画(肉筆画)4点、絵地図(肉筆画
の複製出力)3点、絵地図(印刷物)46点、地
形図(印刷物)8点、CG鳥瞰図6点、書籍4点、
PC1点。

[展示内容] 吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」(昭
和7年、神奈川県立歴史博物館・蔵)、「箱根名
所図絵」(大正7～昭和8年)、「鎌倉江ノ嶋名所
図会」(大正6～10年)、「横浜市鳥瞰図」(昭和
10年)など大正から昭和初期に描かれた鳥瞰図
は、航空機が一般的ではなかった時代に高いと
ころから見る視点を与えてくれた。これらでは
名所旧跡を外観再現した挿し画として絵解きし
ているが、それだけではなく立体的に表現され
た山水などの地形も見どころとなっている。こ
の特別展では、鳥瞰図という題材について、生
み出された時代背景を人文科学的、地形表現を
自然科学的なアプローチで迫った。

[展示構成]

1. 初三郎式鳥瞰図とは

吉田初三郎の人物紹介(肖像画・肖像写真・年表)

2. 「かながわ」を描く―鳥瞰図の再現―

コンピュータ・グラフィックスによって構図を推
定・再現することで鳥瞰図の表現力の確認

3. 昭和初期の「かながわ」

3-1 神奈川県鳥瞰図

原寸大の出力

3-2 神奈川県観光絵図

3-3 昭和10年ごろの「かながわ」

3-4 弟子が描いた「かながわ」

4. 「かながわ」を旅する

4-1 熱海

4-2 湯河原

4-3 真鶴

4-4 明治20年ごろの西湘地域

4-5 小田原

4-6 南足柄

4-7 箱根名所図絵

4-8 「名所図絵」を名乗らない箱根

4-9 国立公園への指定

4-10 横浜

4-11 鎌倉・江ノ島

4-12 三浦半島

4-13 大山

4-14 関東大震災

5. 地形表現の変化

5-1 饅頭のような表現

5-2 ケバと等高線

5-3 コンピュータによる表現

5-4 地形模型による表現

【初三郎こぼれ話】

・初三郎が頼まれて描いた阿蘇

・神奈川県鳥瞰図の原型かも?

・巻末付録の鳥瞰図

・新千円札に描かれた富士山

・令和の初三郎式鳥瞰図: 叡山電鉄の新作「花洛遊
覧図絵」(ドウノヨシノブ・作)

【図録】

4色刷 オールカラー A4判 88ページ 1,500部
(販売分は1,000部)

【関連展示・行事】

○講座: あなたのパソコンで地形を見る

日時: 8月5日(火) 10:00～15:00 (教員優先)

10月5日(日) 10:00～15:00 (一般向け)

会場: 当館実習実験室

講師: 新井田秀一

○神奈川県文化財協会研修会

日時: 8月20日(水)

会場: 当館講義室・特別展示室

講師: 新井田秀一

○ミュージアム・リレー (神奈川県西部地域ミュー
ジウムズ連絡会)

日時: 8月22日(金)

会場: 当館特別展示室

講師: 新井田秀一

○地図学会定期大会関連特別ギャラリートーク「鳥
瞰図の世界: 初三郎絵画を読み解く」

日時: 8月30日(土) 11:40～12:10

会場: 当館特別展示室

講師: 森田 喬 (法政大学)・新井田秀一

- 地図学会定期大会関連講演会「地図で見る箱根火山と伊豆半島沖海底火山」
日時：8月31日（日）14：10～16：10
会場：当館 SEISA ミュージアムシアター
講師：萬年一剛（神奈川県温泉地学研究所）・南宏樹（海上保安庁海洋情報部）
- 第144回サロン・ド・小田原（神奈川県立生命の星・地球博物館友の会）
日時：9月13日（土）14：00～15：30
会場：当館西側講義室
講師：新井田秀一
- 講座：地形地質と鳥瞰図の観察会 南足柄
日時：9月28日（日）10：00～15：00
場所：南足柄市周辺（大雄山～大口橋）
講師：新井田秀一・石浜佐栄子・西澤文勝・武田周一郎（神奈川県立歴史博物館）
- 講演会：吉田初三郎の鳥瞰図を語る（神奈川県立歴史博物館との共催）
日時：10月13日（月・祝）13：00～15：00
会場：当館講義室
講師：大澤真理子（府中市美術館）・新井田秀一・武田周一郎（神奈川県立歴史博物館）
- 講座：地形地質と鳥瞰図の観察会 横浜・桜木町

- 日時：10月18日（土）10：00～15：00
場所：横浜・桜木町（野毛山公園周辺）
講師：新井田秀一・田口公則・夏目 樹・武田周一郎（神奈川県立歴史博物館）
- 講座：小田原景勝鳥瞰図に書かれた建造物の石材の見学会
日時：11月2日（日）13：00～15：00
場所：小田原城周辺
講師：新井田秀一・山下浩之・夏目 樹・武田周一郎（神奈川県立歴史博物館）
- 展示解説
日時：9月23日（火・祝）、10月11日（土）、25日（土）、11月8日（土）、9日（日）
11：00～11：30、14：00～14：30
会場：当館特別展示室
講師：新井田秀一
- [サテライト展示]
小田原合同庁舎の展示コーナーにて、特別展「初三郎式、かながわの描き方」の概略と大正から昭和初期に描かれた小田原・南足柄・箱根・湯河原・真鶴それぞれのエリアの鳥瞰図を紹介した。
期間：2025年7月11日（金）～11月7日（金）
展示物：ポスター、鳥瞰図の拡大複製

2.2.2. 企画展

自然史アーカイブズをひらく

- [開催期間] 2026年2月21日（土）～5月10日（日）
- [開催日数] 65日間
- [入場者数] 25,807人
- [会場] 1階 特別展示室
- [後援] 神奈川新聞社、t v k、デジタルアーカイブ学会
- [協力] 東京大学総合研究博物館、大阪市立自然史博物館、川島逸郎、佐久間大輔、内田啓子
- [企画展実行委員会] 大坪 奏※、田口公則※、石浜佐栄子※、西村双葉※、和田英敏※、松本涼子※、鈴木 聡※、八幡珠恵、齋木杏里紗
※展示担当
- [ポスター・チラシデザイン] 本杉弥生
- [資料点数] アーカイブ資料 120点、写真・画像 55点、映像 13点、標本 12点、図鑑 10点、インスタレーション 1点、模型 1点、解説パネル 44点
一部の展示資料は会期中に展示替えを行った。
- [展示内容] 自然史科学の調査研究の過程では、動植物や化石、岩石鉱物などの標本を採集し保存するかたわらで、スケッチ・フィールドノート・写真・原稿・文献類といった記録資料が生み出されてきた。こうした記録資料は、博物館の収蔵庫で半永久的に保存・活用される標本と異なり、研究室や自宅で保管され、場合によっては廃棄され、あるいは博物館の収蔵庫に残されてはいても資料として活用されることは少なかった。本企画展は、自然史研究者やナチュラリストらが生み出したこれらの記録資料に焦点をあてたものである。記録資料の読み解きによって分かる標本の特徴や由来などの情報、失われた過去の自然の情報、研究の経緯や歴史を理解する史料としての情報といった多面的な要素を紹介し、その魅力を伝えることを目的とした。

[展示構成]

- プロローグ
- シンボル展示 ナチュラリストの部屋 ―アーカイブズ以前―
古い資料は「宝」の山？ ―自然史アーカイブズとは―
- 第1章 研究者の「知」をひらく
図譜から繋がる物語 ―今関六也菌類資料―
新たな世代に託された学者の情熱 ―魚類スケッチコレクションズ―
黎明の魚類学を支えた日本画の技巧 ―岸上鎌吉のサバ科図譜―
昭和のトンボ研究者のまなざし ―奥村定一資料―
どう記すか、何を記すか ―さまざまな調査記録―
- 第2章 資料の「記憶」をひらく
巨大岩盤展示の舞台裏
クジラ全身骨格展示までの道のり ―鯨類標本にまつわる記録―
- 第3章 アーカイブズへの道をひらく
教育、研究、保全、AI学習まで ―魚類写真資料データベース―
標本を取り巻く情報の整理と公開 ―地層はぎ取りアーカイブズ―
先端技術で甦る露頭 ―記録が拓く3Dアーカイブズへの道―
学芸員コラム デジタルで化石の発掘 ―現在の「記録資料」のかたち―
学芸員コラム 「デジタルな標本」からはじまる新たな活用
- エピローグ、その他コーナー
おわりに
本企画展「自然史アーカイブズをひらく」の記録
教えて！あなたの「アーカイブズ」
企画展で謎解きに挑戦！
スタンプコーナー
映像コーナー

[関連展示・行事]

(1) ミュージアム・リレー 企画展「自然史アーカイブズをひらく」を学芸員が解説します！

[開催日] 2026年2月27日(金) 13時15分から14時45分

[開催場所] 西側講義室・特別展示室

[内容] 学芸員による企画展「自然史アーカイブズをひらく」の案内・解説を行った。

(2) 座談会「ラウンドテーブル・どうする？自然史アーカイブズ」

[開催日] 2026年2月28日(土) 13時から16時20分

[開催場所] 東西講義室

[内容] 自然史の調査研究の過程で生み出されてきたスケッチ、ノート、写真などの記録資料には、貴重な情報が含まれている一方で、その受け入れ・整理・公開ではさまざまな難しさがある。これらの記録資料の管理と活用について、佐藤崇範氏(能登里海教育研究所)による全国的な現状報告、参加者同士のフラッシュトークとグループトーク、佐久間大輔氏(大阪市立自然史博物館)のコーディネートによるディスカッションを通じて、その課題や可能性を多角的に共有する参加型イベントを実施した。

(3) 記念写真&ギャラリートーク in ミューズ・フェスタ 2026

[開催日] 2026年3月14日(土)、3月15日(日) 11時30分から12時30分

[開催場所] 特別展示室

[内容] ミューズ・フェスタ 2026 内のイベントとして、以下の2つの催しを実施した。記念

写真：企画展のシンボル展示の中で特別に記念撮影を行い、写真を印刷してプレゼントした。ギャラリートーク：企画展の案内・解説を行った。

(4) 講座 自然史のアーカイブズを見てみよう

[開催日] 2026年4月26日(日) 10時から15時30分

[開催場所] 西側講義室

[内容] 博物館に収蔵されている昔の研究者が書いたフィールドノートやスケッチ等、標本以外の資料について紹介し、資料の読み解きのほか、企画展の解説を行った。

(5) ミニ企画展示 フィールドノートの向こう側ーナチュラリスト青柳昌宏の軌跡ー

[開催日] 2026年4月29日(水)から7月12日(日)

[開催場所] 情報コーナー

[内容] 企画展関連展示として、ナチュラリスト・青柳昌宏の記録資料に焦点を当てたミニ企画展示を開催した。

(6) 第146回 サロン・ド・小田原 自然史アーカイブズー書いて描いて撮った探究者の記録ー

[開催日] 2026年5月9日(土) 14時から15時30分

[開催場所] 西側講義室

[内容] 展示だけでは語り切れない自然史アーカイブズの世界をリレー形式で紹介した。

(7) ワンポイント解説

[開催日] 2026年5月10日(日) 10時30分から11時45分

[開催場所] 特別展示室

[内容] それぞれの展示の担当学芸員4名が解説を行った。

2.3. その他の展示

世界最大級の花

[開催期間] 2026年1月17日(土)～3月15日(日)

[開催日数] 58日間

[会場] 1階 生命展示室(エスカレーター下・ラフレシア模型周辺)

[協力] 武田薬品工業株式会社京都薬用植物園

[企画担当] 石田祐子

[展示担当] 石田祐子・田中徳久・大島光春・西澤文勝

[資料点数] 額装標本1点、写真パネル1点、解説パネル5点

[展示内容] ショクダイオオコンニャクの額装押し葉標本(武田薬品工業株式会社京都薬用植物園所蔵)および原寸大写真パネルを展示し、当館の常設展のラフレシアの模型と共に、解説パネルや生態写真とともに紹介した。ショクダイオオコンニャクは、ラフレシアとともに世界最大級の花といわれているが、それぞれの花の構造は異なる。本展示では、それぞれの花の構造について解説した。また、ショクダイオオコンニャクの開花記録等についてのパネルの展示も行った。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像(番組)3本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像(番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像)を上映している。また、学会や講演会開催時においては主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011年4月1日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

座席は308席。車椅子用のスペースは5席。中央部にある115席(車椅子用5席を含む)に、インタラクティブ・クイズ回答用の5選択押しボタンスイッチを設置している。照明設備は、場内の明るさ

を簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を3本と、インタラクティブ・クイズ映像を1本の計4種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は15分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013年8月3日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、

なお、映像機器については2013年にデジタルハイビジョン対応機器に、音響機器については、2016年に更新した。プロジェクターの液晶と基盤については、2023年に交換した。

江戸時代に訪れた外国人によって世界で紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は20分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。最初に、どのテーマを行いたいのか来館者が選択し、1位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。2025年度の上映は次表のとおりである。

インタラクティブ・クイズのコース別利用状況

		選択者数	選択率	選択により1位になった数＝上映回数													上映割合
				合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	地球は生きている	3,386	15.3%	21	0	1	0	4	4	0	2	1	1	3	1	4	4.2%
2	植物は変身の天才だ!	2,029	9.1%	8	1	0	0	0	0	1	0	2	1	0	1	2	1.6%
3	魚のサバイバル	6,182	27.9%	218	18	9	15	29	39	17	17	14	9	15	13	23	43.7%
4	動物の足跡捜査隊	5,792	26.1%	175	16	13	11	19	27	11	14	15	9	10	12	18	35.1%
5	ヒトの謎を科学する!	4,730	21.3%	75	1	4	6	9	17	6	7	2	2	5	4	12	15.0%
6	どうぶつの親子全員集合!	69	0.3%	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.4%
	合 計	22,188	100.0%	499	36	27	32	61	87	35	40	34	22	33	31	61	100.0%

※選択率は、小数点以下2位で四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。

学校休業期と重なる多客期（ゴールデンウィーク、学校夏季休業期間等）については、インタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

SEISA ミュージアム・シアター上映プログラム

通 常 期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:00～13:20	インタラクティブ・クイズ映像
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

多 客 期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	12:30～12:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:30～13:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズの通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。

2.5. ミューズ・フェスタ 2026

「開かれた博物館」としての活動の充実といったその発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

[日時] 2026年3月14日(土)、15日(日)の2日間
[場所] 講義室、実習実験室、ジャンボブック編集室、SEISA ミュージアムシアター、エントランスホール、特別展示室、常設展示室、前庭ほか
[運営体制] 小田原市入生田自治会、小田原市郷土文化館、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

[関連会議] ミューズ・フェスタ2026実行委員会
2025年10月23日(木) 西側講義室
参加団体の確認と各団体の取り組み、開催までのスケジュールなど

2.5.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー

[日時] 3月14日(土) 9時30分～10時
[場所] SEISA ミュージアムシアター
[内容] フェスタ2026の開催を祝って、地元の「クレヨンの森保育園」による合唱。
[参加人数] 90人

2. 折り紙プレゼント

[日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～11時30分
[場所] エントランスホール(タイムスケール前)
[内容] 学習指導員が日ごろから折りためた恐竜等を題材とした折り紙を配布。
[担当] 水嶋 淳・柚原 章・吉成美香子・川島 祐輔・大谷 一
[参加人数] 870人

3. 企画展ギャラリートーク

[日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 15時10分～15時40分
[場所] 特別展示室
[内容] 開催中の企画展を学芸員が解説。
[担当] 大坪 奏・田口公則
[参加人数] 20人

4. 記念写真でアーカイブ!

[日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 11時30分～12時30分
[場所] 特別展示室
[内容] 企画展のシンボル展示にて、特別に記念撮影。
[担当] 大坪 奏・西村双葉・石浜佐栄子・田口公則
[参加人数] 180人

5. スタンプラリークイズでGO!

[日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～11時, 13時30分～14時30分
[場所] 特別展示室
[内容] 3問のクイズに答えてスタンプを集める。
[担当] 松本凉子・大坪 奏・加藤ゆき・西村双葉
[参加人数] 440人

6. 化石ランド

[日時] 3月14日(土)10時～12時, 13時～15時, 3月15日(土) 10時～12時
[場所] 西側講義室
[内容] 化石に親しむことを目的として、クイズやゲーム、お絵かきの手法を使用した体験コーナーを展開。
[担当] 田口公則
[参加人数] 141人

7. 郷土文化館出張展示「あれもこれも小田原のたからもの」

[日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] 西側講義室
[内容] 郷土文化館の資料を用いた、縄文時代から昭和時代にかけての「すりつぶして食べる」道具を体験できるコーナーと、展示にまつわるクイズ。
[担当] 小田原市郷土文化館
[参加人数] 277人

8. 実物岩石図鑑をつくろう
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時, 13時～15時
 [場所] 東側講義室
 [内容] 石ころを貼って自分だけの岩石図鑑を作る。
 [担当] 石浜佐栄子・夏目 樹・山下浩之
 [参加人数] 192人
9. 箱根ジオパークの「ミニ成層火山作製実験」
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時, 13時～15時
 [場所] 東側講義室
 [内容] 軽石やスコリアをパラフィンで固めながら成層火山を作製する実験。
 [担当] 箱根ジオパーク
 [参加人数] 178人
10. 噴火のしくみ
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時(2回), 13時～15時(2回)
 [場所] 前庭芝生
 [内容] 炭酸飲料を発泡させて噴火を再現。火山の噴火を理解し、防災を考えるヒントが詰まった実験。
 [担当] 西澤文勝
 [参加人数] 257人
11. 友の会コーナー
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～15時
 [場所] 2階ライブラリー前&ミニ企画展示コーナー
 [内容] 友の会の活動紹介と刊行物の無料配布、きのこスタンプ体験。
 [担当] 生命の星・地球博物館友の会・樽 創
 [参加人数] 340人
12. 魚のからだの不思議
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時, 13時～15時
 [場所] 実習実験室
 [内容] 標本を手にとって魚のからだのつくりを観察する。
 [担当] 和田英敏
 [参加人数] 508人(同一場所で開催していた催し物12から14までの合算)
13. 昆虫標本整理作業の実演
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時, 13時～15時
 [場所] 実習実験室
 [内容] 昆虫標本作製と同定作業を実演。顕微鏡による標本の観察体験のほか、参加者のレファレンスにも対応。
 [担当] 渡辺恭平
14. 共和のもりの工作コーナー
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～12時, 13時～15時
 [場所] 実習実験室
 [内容] 間伐材を用いて木工品の作製体験を実施。
 [担当] 神奈川県政策局政策部土地水資源対策課・NPO法人 共和のもり
15. 射的で学ぶ環境問題
 [日時] 3月14日(土) 10時～12時, 13時～15時
 [場所] ジャンボブック編集室
 [内容] 環境にやさしい選択肢を遊びながら学ぶ射的を実施。
 [担当] 石田祐子・富山県立大学 石田知子
 [参加人数] 91人
16. ともしびショップ「喫茶あーす」
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 11時～16時
 [内容] 2日間の限定のお菓子を販売。
17. ミュージアムショップ
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 9時～16時30分
 [内容] 1,000円以上お買い上げの方(書籍・宙瞰図を除く)に、オリジナルグッズを進呈。
18. レストラン「フォーレ」
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～16時
 [内容] その場で当たるスピードくじを実施。
19. 入生田山車保存会太鼓の演奏
 [日時] 3月14日(土)・3月15日(日) 10時～16時
 [場所] 1階 特設本部(券売機横)
 [内容] CD音源による小田原囃子の演奏。

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館は、県内はもとより国内外のシンクタンクとして、学芸員が様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的に当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。そのため取り上げていない活動も多い。2025 年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて成果報告を掲載した。なお、ここに報告書の掲載のない外部研究助成（科学研究費助成事業、環境研究総合推進費、全国博物館活動助成事業等）については、それぞれの研究助成機関から報告書が web 公開されるため、そちらを参照されたい。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要綱に基づき、総合研究 1 テーマ、個別研究 20 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

加藤ゆき・鈴木 聡・西村双葉・広谷浩子・秋山幸也・味埜真理：神奈川県の下山環境における哺乳類及び鳥類相解明の試み

個別研究

佐藤武宏：相模湾の潮下帯における底生生物の分布と変化について

加藤ゆき：神奈川県におけるカワウ集団営巣地の現状
荻部治紀：絶滅危惧種キバネツノトンボの生態と分布
渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究（Ⅴ）

松本涼子：絶滅四肢動物から解明する現生両生類の首の進化

鈴木 聡：哺乳類骨格標本の作製、収蔵および利用可能性に関する研究

西村双葉：鯨類標本を活用した教育プログラムの開発と実践

和田英敏：100 年単位の日本の海産魚類相の変遷・その 2

大西 亘：植物標本室のための保存科学の実践的導入

石田祐子：神奈川県の花と環境要因

折原貴道：シクエストレート菌寄生性菌類の実体とそれらが宿主の形態に及ぼす影響の解明

大島光春：古生物標本の 3D データ化とデータの活用に関する研究

樽 創：パレオパラドキシアの古生態（食性を考える）

田口公則：古鎌倉湾周辺における貝化石群集の再評価：松島コレクションを用いて

新井田秀一：デジタル標高モデル（DEM）や地球観測衛星画像を用いた関東・東海地域の地形解析

山下浩之：南部マリアナ海域産斑れい岩類の岩石学的検討

石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔殻の安定同位体組成変動に基づく過去数 10 万年の日本海の海洋環境の復元

西澤文勝：箱根火山東麓におけるテフラ層の分布について

夏目 樹：細粒斜長石組織のレオロジー研究

大坪 奏：即時活用を見据えた学術資料（研究者資料）のデジタル・アーカイブ

3.1.1. 博物館基礎研究（グループ研究）

2025 年度に完了したグループ研究はない。

3.1.2. 博物館基礎研究（個別研究）

絶滅四肢動物から解明する現生両生類の首の進化

[研究期間] 令和 5 年～令和 7 年

[研究担当者] 松本涼子

[研究内容]

脊椎動物の中から登場した四肢動物は、水から陸へと生活圏を移行する過程で、四肢とともに頸部（首）を獲得した。頸部は体幹に対する頭部の自由度を高め、陸上における捕食や知覚行動に重要な役割を果たしと考えられる。しかし、両生類における頸部の可動性がどのように進化したのかについては、十分に解明されていない。現生両生類の系統進化についても多くの謎が残されているが、絶滅両生類であるアルバノペトン類は現生両生類に近い系統として重要視されている。アルバノペトン類は頸椎を 2 個有し、比較的高い頸部可動性を有していたと推定される。一方、現生両生類では頸椎は 1 個であることから、進化の過程で頸部の可動域が制限され

た可能性が示唆される。本研究では、現生両生類の筋骨格モデルを構築し、それに基づいてアルバノペトン類の頸部可動性を検討するとともに、生息環境に応じた頸部可動性の増大と制約の意義を議論することを考察することを目的とした。

アルバノペトン類の頸部の筋の復元には、系統ブラケット法（Phylogenetic bracketing）を用いた。現生両生類（有尾類・無尾類・無足類）の複数種をヨウ素固定後に CT 撮像し、デジタル解剖を行うことで頸部の筋肉を比較し、基本的な筋配置を明らかにした。その結果、現生両生類の筋構成に大きな差異は認められず、主要な筋の付着部位の多くは骨格に痕跡が残ることが確認された。このことから、絶滅種においても筋復元が可能であると判断された。次に、アルバノペトン類の頭骨および頸椎を 3D プリンターで出力し、筋付着部位を確認したうえで、現生両生類における基本的な筋配置に基づ

いて筋復元を行った。

その結果、腹側筋の頭骨への付着位置は現生両生類と大きな差異は認められなかったが、背側筋は頭部背側の前方に位置し、より複雑な配置を示す事が明らかになった。また頭骨と第1頸椎の間では背屈運動に適した構造であったと考えられる。アルバノペトン類は、近年発見された舌骨の形態から、カメレオンのように舌で獲物を捕獲していたと考えられている。本研究で示された頸部の背屈運動の特殊化は、このような捕食様式と整合的である。頸部の運動様式と捕食様式との密接な関係を示す一例として、今後は骨格形状に基づく可動域の定量的評価が必要である。

哺乳類骨格標本の作製、収蔵および利用可能性に関する研究

[研究期間] 令和5年～令和7年

[研究担当者] 鈴木 聡

[研究内容]

哺乳類標本の作製は、他分類群のそれと比べて長い時間を要するだけでなく、その工程が複雑であるために、作製の過程において様々な問題が生じやすい。その1つが骨格の一部（特に指骨や種子骨等の細かい骨）の散逸や破損である。本研究では、標本作製過程におけるこの問題を回避し、より効率的に骨格標本作製する方法を検討した。

上記の問題点を解決するための方法として、これまでも除肉（骨格の周囲の軟組織の除去）の際に、骨と骨をつなぐ腱や軟骨などの軟組織を残した状態で乾燥させる方法が取られてきた。この手法は小型哺乳類でしばしば適用されているが、カビや虫による残した軟組織の食害リスクや、乾燥による軟組織の収縮などにより関節部が外れて散逸するリスクがある。

本研究では中大型哺乳類の手部および足部を材料として、軟組織に低分子ポリエチレングリコール(PEG)を含浸し、その後乾燥させた。関節部などの軟組織は柔軟性が保たれており、動かすことが可能であった。PEG含浸した軟組織に対するカビや虫の食害の可能性については、今後の検討課題である。また、軟組織を多めに残した場合、柔軟性は著しく下がることが分かった。PEGを含浸し乾燥した後にも除肉は可能だが、PEG含浸処理前にできるだけ除肉をしておくことが望ましい。

100年単位の日本の海産魚類相の変遷・その2

[研究期間] 令和7年

[研究担当者] 和田英敏

[研究内容]

相模湾は、黒潮と親潮という二大海流の影響を受けつつ、多様な海洋環境がモザイク状に広がる特異な海域であり、古くから日本の魚類相研究における

重要なフィールドとして位置づけられてきた。本研究では、こうした相模湾の魚類相を長期的視点から再評価するため、前年度までに古標本や文献資料を基盤とした1940年以前の魚類相の復元を進め、温帯性魚類が優占しつつも冷温帯性魚類から亜熱帯・熱帯性魚類まで幅広い種が出現していた歴史的状況を明らかにした。一方で、近年の海水温上昇や黒潮流路の変動などの環境変化を背景として、相模湾産魚類相が南方化の傾向を示すことも確認され、これらの変化を裏付けるためには、現存標本の精査と分類学的再検討が不可欠であった。

本年度は、こうした背景を踏まえ、相模湾産魚類標本のうち未同定のまま残されていた個体群について、形態分類学的手法を用いた詳細な再検討を進めた。その結果、いくつかの分類群では分布情報の更新や分類学的再評価に関する成果がまとまり、論文としてすでに出版されたもの、あるいは現在出版待ちの段階にあるものが複数生じた。これらの成果は、相模湾における魚類相の長期的変遷を理解する上で、基盤情報を強化するものであり、古標本から現代標本へと連続する時間軸の中で、種の出現状況や分布の変遷をより精密に把握するための重要な資料となった。

特に本年度の大きな成果として、ハゼ亜目を中心とした複数の分類群において、未記載種と考えられる個体群が新たに確認された点が挙げられる。具体的には、ハゼ科シロクラハゼ属およびミミズハゼ属、さらにオオメワラスボ科において、既知種とは明確に異なる形態的特徴を示す個体群が複数認められた。また、ハナダイ科においても、従来の分類体系では説明しきれない特徴をもつ標本が確認され、未記載種候補として検討を進めている。

また、ハゼ亜目の再検討にあたっては、魚類部門所属の外来研究員との共同研究体制を強化し、標本の比較観察や文献調査を分担しながら効率的に作業を進めた。これにより、形態的特徴の検証精度が向上し、未記載種候補の抽出や既知種の再評価が迅速に進んだ。なお、未記載種候補については、現時点では論文執筆には至っていないものの、形態データの整理や比較対象種の選定など、種記載に必要な準備作業は概ね整いつつある。来年度中の論文出版を目標として、引き続き詳細な形態比較と記載原稿の作成を進める予定であり、相模湾産魚類相の全体像をより精密に描き出すための重要なステップとなる見込みである。

パレオパラドキシアの古生態（食性を考える）

[研究期間] 令和5年～令和7年

[研究担当者] 樽 創

[研究内容]

近年、束柱目は、テチス獣類から奇蹄目に近いとされている。*Desmostylus*（デスモスチルス）の歯

の咬柱（咬頭の柱状のもの）は「柱」として機能したのに対し、*Paleoparadoxia*（パレオパラドキシア）の歯の咬柱の機能については、明らかにされていない。本研究では、これまで食性を明らかにする方法でパレオパラドキシアの食性が明らかになると思われたが、実際に何を食べていたか（例えば水棲無脊椎動物や水棲植物など）までは明らかにできなかった。これは比較する標本が少なく、それに足りなかったことにも理由がある。特に、パレオパラドキシアがどのようにして食物を口に移動したかについては、依然不明な点が多い。

採餌の方法については、パレオパラドキシアは口を大きく開け、食物を獲ると推測した。少なくとも、パレオパラドキシアはデスモスチルスとは異なり下顎切歯が平たく、上顎切歯がそれを覆うような形にほぼ垂直に立っている。また、下顎骨の側部が立ちあがり、側面から食物が口腔内に入るのを防ぐような形をしている。これらの状態から、海棲哺乳類であるパレオパラドキシアは陸上哺乳類のように下顎を側方運動せず上下運動し、また下顎結合は内転運動し、その左右の歯を同時に使うためにも上下運動が適した運動をした、と推察された。このような予想される動きは従来の通りである。

パレオパラドキシアは前肢にロック機能（橈骨の遠位端）があり、かつ前肢の尺骨の近位端が大きく発達するが、それらが採餌に関係あるかどうかは明確にできなかった。パレオパラドキシアとデスモスチルスの採餌方法が異なるのに対し、どちらも同じロック機能があることから、異なった動きは考えにくい。また、パレオパラドキシアの尺骨の近位端は遠位に発達することから、むしろ体の移動にかかわり、特に前腕を用いない方法で採餌していたと推察された。

南部マリアナ海域産斑れい岩類の岩石学的検討

〔研究期間〕 令和5年～令和7年

〔研究担当者〕 山下浩之

〔研究内容〕

2023年11月にフィリピン海の南に位置するマリアナ海溝周辺海域において、上部地殻からマントルまでをターゲットとしたドレッジによる岩石採集調査が実施された（KH23-09 航海）。この調査航海で採集された、深成岩類の岩石学的検討を行った。採集された深成岩類は、トロクトライト、含橄欖石斑れい岩、輝石角閃石斑れい岩、角閃石輝石斑れい岩、細粒斑れい岩、オキサイドガブロ、トーナル岩などであった。これらのうち、苦鉄質な斑れい岩類については、少量サンプル内でも岩相変化が激しいため、岩石薄片を作成し、全岩化学分析し、基礎データを抽出するにとどめた。トーナル岩については、同様に岩石薄片を作成し、全岩化学分析し、比較検討を行った。

トーナル岩に関する岩石学的性質は以下の通り。

- ・構成鉱物は、角閃石、黒雲母、斜長石、石英、磁鉄鉱で、まれに燐灰石を含む。モード組成は、有色鉱物が8-12 vol. %、斜長石が64-66 vol. %、石英が23-26 vol. %、オキサイド鉱物が2 vol. %未満であった。Streckeisen（1976）による花崗岩類の区分では、狭義のトーナル岩に区分される。
- ・地球化学的には、 SiO_2 含有量が70-73 wt. %に対し、 K_2O 含有量が0.7-0.8 wt. %しか含まれず、花崗岩類にしては極めて低い K_2O 含有量で特徴づけられる。
- ・伊豆一小笠原-マリアナ弧におけるトーナル岩の分布は、今回の調査地点の近傍のマリアナトラフ、九州パラオ海嶺の駒橋第二海山、伊豆諸島の新島の堆積物および流紋岩中の捕獲岩、そして伊豆弧が露出した考えられている丹沢山地などで確認されている。これらのトーナル岩類と、地球化学的比較検討を行ったところ、マリアナ海溝近傍のマリアナトラフではなく、丹沢のトーナル岩に近い組成を持つことが確認できた。ただし、丹沢のトーナル岩のデータは膨大にあるのに対し、マリアナトラフのトーナル岩のデータは乏しいため、今後マリアナトラフのトーナル岩のデータを追加して、さらなる検討を行いたい。

底生・浮遊性有孔殻の安定同位体組成変動に基づく過去数10万年の日本海の海洋環境の復元

〔研究期間〕 令和4年～令和7年

〔研究担当者〕 石浜佐栄子

〔研究内容〕

日本海は周囲を浅い海峡で囲まれていることから、第四紀後半には汎世界的な海水準変動の影響によって、劇的な海洋環境の変化を受けている。現在の日本海は、対馬暖流の流入と、対馬暖流を起源とする日本海独自の底層水（日本海固有水）の存在が特徴的であるが、過去の海水準変動はこの対馬暖流の強弱や日本海固有水の形成にも影響を及ぼしてきたと考えられる。

有孔虫は、水塊の変化を反映して群集が変化し、また殻の炭酸カルシウム中に当時の海水組成の情報を記録していることから、海洋環境の復元に有効である。これまで、日本海における有孔虫殻の同位体比に関する研究は数多く行われてきたが、最終氷期以降の変動に焦点を当てた研究事例が多く、10年以上の長期にわたって底生・浮遊性有孔虫の双方を対象に研究を行った事例はあまりない。そこで今回、日本海東縁で採取された4本のコアを用いて浮遊性・底生有孔虫殻の酸素・炭素同位体組成の変動を明らかにし、表層および底層の海洋環境を水深ごとに対比しながら日本海の海洋環境と成層構造の変遷を三次元的に復元することを目的に研究を行った。

有孔虫の同位体組成および群集の特徴は4本のコアで良く対比され、それぞれ海洋同位体ステージ(MIS) 1-9、MIS 1-5e、MIS 1-5c、MIS 1-2に相当すると推定された。MIS 1, 5e, 9の間氷期のピークに相当する層準では、いずれのコアにおいても津軽暖流の流入を示唆する温暖種が産出するとともに、浮遊性有孔虫殻の $\delta^{18}\text{O}$ 値が減少し、底生有孔虫殻の $\delta^{18}\text{O}$ および $\delta^{13}\text{C}$ 値がやや減少する。これらの3層準は現在と同様の高海水準期であり、対馬海峡を通して津軽暖流が流入し、津軽暖流起源の表層水が沈み込むことによって酸素に富む日本海固有水が底層に形成され、酸化的な底層で有機物の分解が活発に行われたことを示唆している。MIS 3, 5a, 5cの亜間氷期には浮遊性有孔虫殻の $\delta^{18}\text{O}$ および $\delta^{13}\text{C}$ 値はやや軽くなるものの底生有孔虫殻の同位体組成には影響を及ぼしておらず、低塩分の東シナ海沿岸水が対馬海峡を通じて流入するものの底層には日本海固有水が十分に発達しなかったと考えられる。

MIS 2, 6の氷期極相期においては、全てのコアで浮遊性有孔虫の $\delta^{18}\text{O}$ 値が $\Delta = -3\text{‰}$ ほど減少するが、底生有孔虫の同位体組成はコアによって特徴が異なる。表層水の低塩分化による水塊の成層化の影響は、水深によってそのタイミングが異なり、深層から徐々に影響が広がったこと、浅海ではその影響が及ばなかったことが同位体組成変動から明らかになった。

細粒斜長石組織のレオロジー研究

[研究期間] 令和6年～令和7年

[研究担当者] 夏目 樹

[研究内容]

岩石は地下浅部の比較的圧力の低い領域では破壊による脆性的な変形する一方で、温度の高い地下深部では破壊はせず、塑性的に変形する。塑性変形のメカニズムの一つである粒界すべりでは、粒子どう

しが粒界で滑り合あって変形する。この過程で4粒子が面上の1点で交わる四重点が形成されるモデルが提案されており、変形実験や、天然で強く塑性変形を受けたウルトラマイロナイトからも四重点は観察されている。しかし、四重点の数や分布などについては着目されておらず、その実態は明らかになっていない。そこで、本研究ではオマーンオフィオライト北部フィズ岩体に発達するハンレイ岩ウルトラマイロナイトを対象とし、細粒斜長石組織から四重点の自動検出を試みた。

対象としたウルトラマイロナイトは主に斜長石と角閃石から構成される。斜長石はほとんど基質部のみに存在し、斜長石と角閃石の相混合の程度は弱い。本研究ではこのウルトラマイロナイト試料から、面構造に垂直、線構造に平行な面(XZ面)で研磨薄片を作成し、走査型電子顕微鏡を用いて電子線後方散乱回折法(EBSD)による分析を行った。取得したマップデータから鉱物粒子マップを作成し、斜長石粒子の形態や結晶方位を解析した。斜長石粒子マップから、四重点を十分に距離が近い二つの三重点の中間点とみなすとともに、薄片上での粒子の欠損や四重点を構成する4つの粒子の大きさなど考慮して四重点を検出した。

解析の結果、斜長石の結晶方位パターンはランダムで平均粒径は約 $5\text{ }\mu\text{m}$ であった。四重点は細粒斜長石組織上に満遍なく分布し、斜長石粒子の30-55%が自身の粒界に四重点を持つことが明らかになった。ランダムな結晶方位パターンと数 μm 程度の平均粒径は粒界すべりによって形成された組織の特徴と類似しており、四重点も普遍的に見られることから、対象のウルトラマイロナイトの斜長石組織は粒界すべりによって変形したと考えられる。また、本研究にて用いた四重点の検出法により、四重点の数や分布について定量的に議論できるようになった。今後のデータの蓄積により、四重点に関するさらなる理解が期待される。

3.2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金)をはじめとする外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者(研究代表者を除く当館の分担者*、研究協力者**):研究テーマ、研究課題番号等」の順に掲載した。

3.2.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究(A)

吉田圭一郎(石田祐子*):高精細な地表面・植生情報を用いた山地植生の境界移動プロセスの解明(24H00126)

基盤研究(B)

岸田拓士(樽 創*):日本の動物相の原風景—集団ゲノミクスと古代DNAによる在来動物の集団史の解明(22H02693)

佐久間大輔(大西 亘*・大坪 奏*):市民科学者参加型きのこ「デジタル拡張標本」整備は新たなニーズを掘り起こすか?(24K00475)

末吉昌宏(渡辺恭平*):土着天敵寄生蜂を用いたシイタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発(23H02261)

小川義和(田口公則*):科学系博物館における来館者のウェルビーイングを検証する博物館活用モデルの提案(25K00861)

基盤研究 (C)

佐藤武宏 (田口公則*) : (小学校・幼稚園に身近な自然を持ち込むためのプッシュ型支援に関する研究 (20K02753))
加藤ゆき (大島光春*・田口公則*・石浜佐栄子*・大坪 奏*) : 発話採集によるハンズオン展示の再評価の試み—展示の再構築を目指して (22K01024) —
大島光春 (田口公則*・加藤ゆき*・松本涼子*・鈴木 聡*) : 自然史標本の 3D データ化とそのオープンデータ化に関する研究 (22K01025)
松本涼子 : 四肢動物における頭骨構造と捕食様式の進化—縫合様式の機能について— (22K03802)
折原貴道 : 「地下生菌ノアの方舟仮説」の検証—海洋島への菌類移入メカニズムの解明— (22K06381)
田中徳久 (石田祐子*) : 博物館所蔵植物標本の新規活用手法開発—標本価値の再認識とボランティアの持続的発展 (23K00966)
山下浩之 (田口公則*・西澤文勝*・夏目 樹*) : 地域地質資源の発掘と調査、普及を通じたプログラムの開発と試行 (23K02805)
新井田秀一 : 歴史的鳥瞰図と衛星画像による宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブズの構築 (23K00965)

3.2.2. 各種助成金による研究

環境研究総合推進費

矢原徹一 (大西 亘*) : ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発

3.2.3. 外部資金助成等・共同研究等

なし

3.3. 著作活動・学会発表等

田中徳久 (たなか のりひさ) 植物学 (植物生態) [論文]

田中徳久, 2026. 2019 年にコマロフ植物研究所・国立科学博物館・東京都立大学牧野標本館で見出した神奈川県地域植物相の重要な記録となる標本. 神奈川自然誌資料 (47): 97-104.

田中徳久, 2026. 標本データベースを用いた神奈川県における帰化植物の増加率の変遷. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (55): 9-22.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

勝山輝男・田中徳久, 2025. 高橋秀男氏が 1979 年に採集した台湾玉山・雪山のスゲ属植物. 横浜植物会年報, (54): 5-13.

田中徳久, 2025. 国立科学博物館で見出した伊達健夫氏が採集した植物標本 (付: 『神奈川県植物誌 2018』の引用標本). 横浜植物会年報, (54): 36-39.

田中徳久, 2025. 年報に報告した植物標本の誤り. 横浜植物会年報, (54): 39.

佐々木廣海・田中徳久, 2026. 横須賀のホンゴウソウ. Flora Kanagawa, (97): 1159.

[普及的著作等]

田中徳久, 2025. 吉田さんとの思い出. 横浜植物会年報, (54): 71-73.

田中徳久, 2025. 長老、死す. 横浜植物会年報,

渡辺恭平: ハバチ類に寄生するヒメバチ科寄生蜂の種多様性と寄生生態の解明 (23K05915)

大坪 奏 (田口公則*) : 「研究者資料」は魅力的な博物館資料となるか—死蔵と散逸を防ぐ整理手法の検討と公開 (24K04395)

藤原慎一 (松本涼子*) : 四肢動物の骨格形態のジレンマ: 動く機能と、食う・産む機能をどう両立させるか (22K03796)

若手研究

西村双葉: 鯨類におけるプラスチック汚染の実態解明—誤飲特性と体内残留率の分析から (25K21390)

西澤文勝: 記載岩石のデータセットの構築による箱根火山の中・後期更新世テフラ層序の高精度化 (24K16213)

和田英敏: “古標本” から読み解く 100 年単位の日本の海産魚類相の変遷 (24K16204)

学術変革領域研究 (A)

荒谷邦雄 (荏部治紀*) : 流域圏生態系におけるヒトと自然の共生 (21H051812)

公益財団法人発酵研究所 2025 年度一般研究助成

折原貴道: シクエストレート菌寄生性菌類の探索・分類と、宿主の形態に及ぼす影響の解明

(54): 75-76.

田中徳久, 2025. 博物館は開館 30 周年を迎えました. 友の会通信. (128): 2.

佐藤武宏 (さとう たけひろ) 動物学 (無脊椎動物) [論文]

佐藤武宏・高橋京子・高橋博行・田口公則, 2026. 自然科学に関する講演聴講が幼児教育者の意識に与える効果. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (55): 71-80.

佐藤武宏・貞家遼平, 2026. 伊豆半島初記録となるカクレイワガニ *Geograpsus grayi* (H. Milne Edwards, 1853) (十脚目: イワガニ上科: イワガニ科). 神奈川自然誌資料, (47): 89-92.

加藤ゆき (かとう ゆき) 動物学 (鳥類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

加藤ゆき・姉崎智子・秋山幸也・岩見恭子・小林さやか, 2025. 日本鳥学会 2024 年度大会自由集会報告 W011 第 6 回標本集会「博物館施設の標本製作の現状と課題」, 日本鳥学会誌 74(1): 142-145.

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2025. 放鳥から 20 年 コウノトリ. 自然科学のとびら, 31(4): 25.

[学会発表等]

葉山久世・加藤ゆき・篠田授樹・菊池 博, 2025 (September 13-14). 山中湖のコブハクチョウ個体識別管理の取組み. 日本鳥学会2025年度大会, 北海学園大学豊平キャンパス.

重永明生・加藤ゆき, 2025 (September 13-14). 西日本におけるツル類の越冬期域について. 日本鳥学会2025年度大会, 北海学園大学豊平キャンパス.

岩見恭子・小林さやか・加藤 ゆき, 2025 (September 12). 第7回標本集会「博物館施設の生き残り戦略－ひいては標本を後世に残すために」. 日本鳥学会2025年度大会, 北海学園大学豊平キャンパス.

加藤ゆき・葉山久世・篠田授樹・菊池 博, 2025 (November 6). 山梨県山中湖におけるコブハクチョウ個体識別管理の取組み. 令和7年度自然系調査研究機関ネットワーク(NORNAC)会議, 一般財団法人人材開発センター富士研修所.

苅部治紀(かるべ はるき) 動物学(昆虫類)

[論文]

Karube, H. R. Futahashi & I. Kawashima, 2025. A taxonomic revision of the genus *Anotogaster* (Anisoptera: Cordulegastridae) from central Ryukyu Islands, with descriptions of a new species *amamensis* and its subspecies *yamabarensis*. *Tombo*, 68: 1-17.

苅部治紀・加賀玲子, 2025. 衰退する対馬のトンボ類の現況2－2024年の調査から－. *TOMBO*, 68: 56-62.

苅部治紀・渡部哲史・加賀玲子, 2025. 衰退する対馬のトンボ類の現況3－温暖化に伴うアキアカネの衰退とその要因の推定－. *TOMBO*, 68: 63-69.

苅部治紀, 2025. イイジマルリボシヤンマの北限記録とその群飛行動. *TOMBO*, 68: 99-101.

Sato N., R. Nakashita, T. Sasaki, H. Kato, H. Karube, H. Mori & K. Kawakami, 2025. The distinctive material cycle associated with seabirds and land crabs on a pristine oceanic island: a case study of Minamiwoto, Ogasawara Islands, subtropical Japan. *Oecologia*, (207), article number 88.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

苅部治紀・嘉納秀明・渡辺恭平, 2025. 神奈川県未記録のスジゲンゴロウを含む1950～1960年代の湘南地域の水生甲虫の記録. さやばねニューシリーズ, (59): 10-13.

苅部治紀, 2025. 大楠山麓でサラサヤンマを確認. かまくらちょう, 102: 9-10.

苅部治紀, 2026. 相模原市緑区(旧津久井町)からのサラサヤンマの記録. 神奈川虫報, 218: 70-71.

苅部治紀, 2026. 神奈川県初記録のサメハダマルケシゲンゴロウとニセコウベツブゲンゴロウ. 神奈川虫報, 218: 71-72.

苅部治紀, 2026. 神奈川県緑区旧城山町からのクロサワヒメコバネカミキリの記録. 神奈川虫報, 218: 72-73.

苅部治紀, 2025. 域内保全の事例③ 南西諸島. ゲンゴロウ類の生態学, pp. 147-155, 北隆館,

東京.

[普及的著作等]

苅部治紀, 2025. 絶滅危惧水生昆虫を守るため土木屋さんに期待すること. 土木学会誌, 110(7): 22-23.

[学会発表等]

苅部治紀・加賀玲子, 2025 (November 9). 対馬のトンボ相とその現況. 日本トンボ学会東北大会, 東北大学.

苅部治紀, 2026 (January 25). 気候変動とくに温暖化と干ばつがトンボ類に及ぼす影響について. トンボ研究会大会, ウイル愛知.

苅部治紀・今藤夏子・伊藤 洋・加賀玲子・吉田勝彦, 2026 (March 11). 小笠原諸島のヒメカタゾウムシ類の遺伝子解析－新たな“反復適応放散”の可能性－. 日本生態学会京都大会, 京都大学.

渡辺恭平(わたなべ きょうへい) 動物学(昆虫類) [論文]

Watanabe, K. & M. Sueyoshi, 2025. New distribution data of the genus *Orthocentrus* Gravenhorst, 1829 (Hymenoptera: Ichneumonidae) in Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 31(2): 345-349.

渡辺恭平・伴 光哲・嶋本習介, 2025. 絶滅危惧種ゴミアシナガサシガメ(半翅目, サシガメ科)の神奈川県からの再発見と, 若干の生態観察. 昆虫ニューシリーズ, 28(4): 140-143.

Riedel, M. & K. Watanabe, 2025. Contribution to the Ichneumoninae (Hymenoptera, Ichneumonidae) of the Ryukyu Archipelago, Japan. *Zootaxa*, 5719(1): 1-48.

Shinohara, A., K. Watanabe & T. Mita, 2025. *Hyperxiphia ogasawara* n. sp. from Haha-jima Island, discovery of the family Xiphydriidae (Hymenoptera) in the Ogasawara Islands. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 31(1): 1-5.

Watanabe, K., 2026. Taxonomic study of Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with descriptions of six new species. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (55): 23-47.

田邊結太・渡辺恭平, 2026. 神奈川県内の河川敷でヤナギ類に訪花するハナバチ相. 神奈川自然誌資料, (47): 35-48.

渡辺恭平・田邊結太・小林 駿, 2026. 希少なハナバチ類の生息が示唆する「仙石原すすき草原」の保全上の重要性. 神奈川自然誌資料, (47): 11-17.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

渡辺恭平, 2026. 山北町三国峠でエゾアカヤマアリを採集. 神奈川虫報, (218): 57.

渡辺恭平・田邊結太・加藤優羽・江釣子真幸・野口蒼真・伊藤 新・宮本雄介, 2026. 神奈川県内で採集したハナバチ類の記録 その3: ムカシハナバチ科とハキリバチ科. 神奈川虫報, (218): 43-56.

渡辺恭平, 2026. 湘南ヘルスイノベーションパーク(神奈川県藤沢市)の敷地内緑地に生息する昆虫. 神奈川虫報, (218): 35-42.

渡辺恭平, 2026. 昆虫愛好家が心得ておきたい分布や生態記録の報告の仕方について: 引用しやすく, 引用されやすい報文とするために. 神奈川虫報, (218): 5-11.

渡辺恭平, 2025. 日本産 Cryptini (ヒメバチ科トガリヒメバチ亜科) の同定資料: 6. *Cryptus* group (II). すがれおい, (9): 35-48.

渡辺恭平, 2025. 神奈川県産チビコハナバチ類の種への検索表(試作版). 神奈川虫報, (217): 44-59.

渡辺恭平・田邊結太・加藤優羽・江釣子真幸・野口蒼真・宮本雄介, 2025. 神奈川県内で採集したハナバチ類の記録 その2: コハナバチ科. 神奈川虫報, (217): 27-40.

渡辺恭平, 2025. 同定ラベルの重要性和利用の仕方. 神奈川虫報, (217): 1-5.

荏部治紀・嘉納秀明・渡辺恭平, 2025. 神奈川県未記録のスジゲンゴロウを含む1950~1960年代の湘南地域の水生甲虫の記録. さやばねニューシリーズ, (59): 10-13.

渡辺恭平, 2025. 南足柄市で採集されたソボツチスガリの記録と近似種ナミツチスガリとの区別点について. 神奈川虫報, (216): 79-80.

渡辺恭平・川島逸郎, 2025. 逗子市でソボツチスガリとウスギギングチを採集. 神奈川虫報, (216): 77.

渡辺恭平・田邊結太・加藤優羽・江釣子真幸・野口蒼真・廣濱一穂・伊藤 新・宮本雄介, 2025. 神奈川県内で採集したハナバチ類の記録 その1: ヒメハナバチ科. 神奈川虫報, (216): 12-24.

渡辺恭平, 2025. ミナミキバチヒメハナバチに関する若干の観察. すがれおい, (8): 124-130.

米田洋斗・渡辺恭平, 2025. セイヨウキマダラハナバチ *Nomada guttulata* Schenck, 1861 はキアシヒメハナバチ *Andrena* (*Poecilandrena*) *fukuokensis* Hirashima, 1952 の労働寄生者か? すがれおい, (8): 119-123.

渡辺恭平, 2025. 日本産 Cryptini (ヒメバチ科トガリヒメバチ亜科) の同定資料: 5. *Mesostenus* group (II). すがれおい, (8): 27-44.

渡辺恭平, 2025. 日本産ツノヤセバチ科の覚書. すがれおい, (8): 7-26.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト: 生命の星・地球博物館 30 周年記念. 展示学, (70): 46-47.

[普及的著作等]

渡辺恭平, 2026. ポータブル電源を用いたライトトラップについての注意喚起. 花蝶風月, (191): 2-3.

渡辺恭平, 2026. ゴミアシナガサシガメの成虫. 自然科学のとびら, 32(1): 1.

渡辺恭平, 2025. 与那国島・西表島採蜂記(前編). すがれおい, (9): 171-181.

渡辺恭平, 2025. キタテハ. 広報おおい(大井町広報誌), 721: 24.

渡辺恭平, 2025. タイワンタケクマバチ. 広報おおい(大井町広報誌), 719: 24.

渡辺恭平, 2025. 文献紹介若干. すがれおい, (8): 157-159.

渡辺恭平, 2025. 神奈川県にいた! 珍虫クサレダマバチ. 自然科学のとびら, 31(2): 12-13.

渡辺恭平, 2025. ニッポンヒゲナガハナバチ. 広報おおい(大井町広報誌), 715: 24.

[学会発表等]

渡辺恭平, 2025 (September 15). 日本産 *Lissonota* (膜翅目, ヒメバチ科, ウスマルヒメバチ亜科) の多様性. 日本昆虫学会第85回大会, 東京農業大学厚木キャンパス.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 日本展示学会 第44回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

松本涼子(まつもと りょうこ)

動物学(両生・爬虫類)

[論文]

Matsumoto, R., Manabe, M., Evans, SE. 2025. Cranial elements of *Shokawa ikoi*, and new records of choristoderes from the Lower Cretaceous Okurodani Formation, Tetori Group, Japan. *Cretaceous Research*. 181. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.cretres.2025.106283>

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 展示学, (70): 46-47.

[普及的著作等]

松本涼子, 2025. ハコネサンショウウオの成体(雄) *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn, 1782), 自然科学のとびら. 31(1) 17.

松本涼子, 2025. 匠の技—恐竜の歯のレプリカ工房—, 自然科学のとびら. 31(4) 30-31.

[学会発表等]

松本涼子・藤原慎一, 2025 (June 28). 四肢動物における頭骨の縫合様式パターンと機能. 日本古生物学会 2025 年年会, 北海道大学.

松本涼子, 2025 (December 5). 標本作りから学ぶ海洋プラスチック問題. 日本古生物学会第175回例会シンポジウム, SS プラザさんだい.

George, H, H. Dutel, E. Panettieri, R. Yu, A. T. Wilken, R. Matsumoto, A. Herrel, A. Ballell, L.B. Porro & E.J. Rayfield, 2025 (October 31). UHP, ESEF Berrechid, Morocco Mandible function across the vertebrate water-to-land transition is underpinned by cartilage and soft tissue architecture. *ISELV*, 対面.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 日本展示学会 第44回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

鈴木 聡(すずき さとし) 動物学(哺乳類)

[論文]

立脇隆文・西澤 柚・中嶋靖男・宮西 葵・炭山大輔・安原伶香・村上あぐり・鈴木 聡, 2026. 愛知県岡崎市におけるニホンイタチの生息地へのシベリアイタチの侵入. *哺乳類科学*, 66(1): 11-20.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 展示学, (70): 46-47.

[普及的著作等]

- 鈴木 聡, 2025. 哺乳類学の歴史. 日本哺乳類学会編, 哺乳類学の百科事典, pp.2-5. 丸善, 東京.
- 鈴木 聡, 2025. 哺乳類とは何か. 日本哺乳類学会編, 哺乳類学の百科事典, pp.8-9. 丸善, 東京.
- 鈴木 聡, 2025. 種とは何か. 日本哺乳類学会編, 哺乳類学の百科事典, pp.28-29. 丸善, 東京.
- 鈴木 聡, 2025. 種内形態変異と可塑性. 日本哺乳類学会編, 哺乳類学の百科事典, pp.38-39. 丸善, 東京.
- 鈴木 聡, 2025. 食肉目. 日本哺乳類学会編, 哺乳類学の百科事典, pp.56-57. 丸善, 東京.
- 鈴木 聡, 2025. フィールドサインから見えてくる野生動物たちの生活. 森林技術, (998): 33-35.

[学会発表等]

- 鈴木 聡・安原伶香・村上あぐり・山川颯太・三谷奈保・對馬孝治・炭山大輔・立脇隆文, 2025 (August 23). 炭素・窒素安定同位体比に基づくイタチ属2種の食性比較. 日本哺乳類学会2025年度大会, 酪農学園大学.
- 代田圭吾・金子弥生・鈴木 聡, 2025 (August 22-25). カメラトラップデータの性判別を目的としたニホンアナグマの性的二型に関する検討. 日本哺乳類学会2025年度大会, 酪農学園大学.
- 大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト ―生命の星・地球博物館30周年記念―. 日本展示学会 第44回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

西村双葉 (にしむら ふたば) 動物学 (哺乳類)

[学会発表等]

- 西村双葉, 2025 (July 29). クジラのかたち―パズルと触察で知る鯨類の特徴―. 日本視覚障害理科教育研究会第45回研究大会, 筑波大学附属視覚特別支援学校.
- 三岡夏美・岡村太路・西村双葉・菊地デイル万次郎, 2025 (June 8). スジイルカとスナメリのヒレ形態と流体力の特性比較. 日本セトロロジー研究会第35回 (豊橋市)・勇魚会2025年度 合同大会, 豊橋市自然史博物館.
- 藤原慎一・西村双葉・岡村太路, 2025 (December 7). 二次的水生適応哺乳類の肋骨の胸郭被覆域, 骨密度, 肋骨の厚みは慣性モーメントにどの程度影響するか. 日本古生物学会第175回例会, SS プラザさんだい.
- 三岡夏美・岡村太路・西村双葉・菊地デイル万次郎, 2026 (March 14). イルカの胸ビレの部分的欠損が流体力に及ぼす影響. 第73回日本生態学会大会, 国立京都国際会館.

和田英敏 (わだ ひでとし) 動物学 (魚類)

[論文]

- 伊藤 玄・川瀬成吾・和田英敏・藍澤正宏, 2025. 田中茂穂コレクションから発見された絶滅地域・長崎県産のオヤニラミ標本. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 54: 22-26.
- 和田英敏・篠田将太郎・谷 新菜・松尾 怜・加藤 晃・棟方航平・本村浩之・工藤孝浩・瀬能宏, 2025. アゴアマダイ科オオメアゴアマダイの北限更新を含む追加記録および形態学的記載.

Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 57: 28-33.

- Hata, E., H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto, R. Ueshima & H. Motomura, 2025. Specimens of Platyrrhinidae and Myliobatiformes deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 1-8.
- Mochizuki, K. H. Wada, T. Matsumoto, S. Kawase, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. Specimens of the genus *Gnathopogon* (Cypriniformes: Cyprinidae) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 9-24.
- Yuki, D., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. A list of syngnathid (Teleostei) specimens deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 31-46.
- Matsunuma, M., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Fujiwara, D. Oyama, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the families Neosebastidae and Scorpaenidae (Actinopterygii: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 47-64.
- Higuchi, J., H. Wada, T. Kawai, M. Aizawa, K. Sakamoto and R. Ueshima, 2025. A list of specimens of Triglidae (Actinopterygii: Teleostei) in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo with comments on type specimens of Triglidae deposited in the museum's Department of Fisheries. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 65-84.
- Okamoto, M., H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the family Epigonidae (Actinopterygii: Teleostei) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 89-92.
- Motomura, H., H. Wada, M. Aizawa, K. Fujiwara, D. Oyama, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the family Polynemidae (Actinopterygii: Perciformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 93-98.
- Dewa, Y., H. Motomura, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the family Tripterygiidae

- (Actinopterygii: Blenniiformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 99-104.
- Hata, H., K. Koeda, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. Specimens of the family Icosteidae (Actinopterygii: Teleostei) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 105-108.
- Oyama, D., S. Mabuchi, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. Report on specimens of the subfamily Sicydiinae (Teleostei: Gobiidae) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 119-132.
- Sonoyama, T., H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the families Triacanthodidae and Triacanthidae (Actinopterygii: Tetraodontiformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 133-136.
- Sonoyama, T., H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the families Aracanidae and Ostraciidae (Actinopterygii: Tetraodontiformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 137-146.
- Sonoyama, T., H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. List of specimens of the families Diodontidae and Molidae (Actinopterygii: Tetraodontiformes) deposited in the Department of Zoology, The University Museum, The University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 147-152.
- 山川宇宙・和田英敏・碧木健人, 2025. 神奈川県鶴見川で採集されたテンジクカワアナゴ. 相模・武蔵の自然探検, 1: 5-9.
- 和田英敏・棟方航平・手良村知功・前田達郎・松山侑樹・西川士朗・本村浩之, 2025. 御蔵島産魚類目録. Mikurensis, 14: 5-54.
- 本田康介・和田英敏, 2025. 宮古諸島初記録のイトウダイ科魚類ホソエビス. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 57: 40-43.
- 佐々木麻衣・和田英敏, 2025. 伊豆諸島八丈島から得られた北限記録のナミダフグ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 59: 14-17.
- 本田康介・和田英敏, 2025. 琉球列島から得られたハナダイ科イブナハナダイ属魚類 *Plectranthias inermis* レンガハナダイ (新称) の日本初記録および *P. altipinnatus* チゴハナダイとの形態比較. 魚類学雑誌, 72(2): 215-222.
- 望月健太郎・藍澤正宏・小林健二・和田英敏, 2025. 関東地方におけるシナイモツゴの分布記録の整理およびそこから推測されるかつての本種の生息状況. 魚類学雑誌, 72(2): 251-264.
- 藤田温真・園山貴之・和田英敏, 2026. 相模湾から得られた北限記録のワタユキウツボ (ウナギ目: ウツボ科) および本種の成長にともなう色彩変化に関する新知見. 神奈川自然誌資料, (47): 49-54.
- 加登岡大希・和田英敏, 2026. マルバラユメザメ (ツノザメ目: オンデンザメ科) の相模湾からの記録および日本における分布と生息状況. 神奈川自然誌資料, (47): 55-63.
- 福地伊芙映・田中翔大・本田康介・和田英敏, 2026. 相模湾から得られたタイワンメナダ. 神奈川自然誌資料, (47): 105-107.
- 日比野友亮・緒方悠輝也・松重一輝・栗原 巧・是枝伶旺・和田英敏・星野和夫, 2026. 九州におけるカマキリ *Rheopresbe kazika* (スズキ目カジカ科) の分布. 九州大学総合研究博物館研究報告, (23): 79-92.
- 和田英敏・棟方航平・西川士朗, 2026. 伊豆諸島御蔵島と伊豆大島から確認された日本初記録のアカマユトラギス (新称) *Parapercis rubromaculata* (ワニギス亜目トラギス科). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (55): 49-58.
- Ogata, Y., H. Wada & H. Saito, 2026. Northernmost and third Japanese records of *Kuhlia sandvicensis* (Perciformes: Kuhliidae) from Chichi-jima island, Ogasawara Islands. Biogeography, 29: 14-20.
- 中村潤平・和田英敏・藤原昌高・本村浩之, 2026. 九州西部から得られた日本初記録のハタ科魚類ミナミクエ *Epinephelus randalli*. タクサ: 日本動物分類学会誌, 60: 54-59.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 藤原恭司・和田英敏・上島 励, 2025. 標本資料報告第139号 東京大学総合研究博物館動物部門所蔵 魚類標本リスト (4). 東京大学総合研究博物館, 東京. v + 200 pp.
- [学会発表等]
- Wada, H., Y. Kai and H. Motomura. 2025 (June 12). Revision of the circumglobal deepwater scorpionfish family Setarchidae. 2025 Joint Conference of the Asian Society of Ichthyologists Annual Meeting and the 12th Indo-Pacific Fish Conference, National Taiwan University.
- 和田英敏・有年由貴子・瀬能 宏・本田康介・藍澤正宏・畑 晴陵, 2025 (November 23). 1940年以前に得られた古標本および文献資料に基づく相模湾産魚類目録および近年の魚類相との比較. 2025年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学.
- 斉藤洪成・和田英敏・森下 修・森田康弘・森田康平・小林修一・内野啓道・瀬能 宏, 2025 (November 23). 小笠原諸島沿岸の魚類相研究の現状と課題. 2025年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学.
- 秋山瑠輝・和田英敏・瀬能 宏・手良村知功, 2025. (November 22-23). 北海道から得られた両顎に歯のないミズウオダマシ属魚類の同定と形態

変化. 2025 年度日本魚類学会年会, 東京海洋大学.
松永 翼・尾山大知・和田英敏・藍澤正宏・遠藤広光, 2025 (November 22-23). 東京大学総合研究博物館動物部門に所蔵されているイトウダイ科魚類標本. 2025 年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学.

大西 亘(おおにし わたる) 植物学(維管束植物)[普及的著作等]

大西 亘, 2026. 真鶴町貴船神社のマナズルザクラ 同定類末記. 自然科学のとびら, 32(1) 6-7.

[学会発表等]

吉川ひとみ・岩崎貴也・大西 亘・黒沢高秀・首藤光太郎・柘浩一郎, 2026 (March 8). 博物館に収蔵されていたコセンダングサ *Bidens pilosa* L. var. *pilosa* のゲノムワイド塩基配列分析. 日本植物分類学会第 25 回大会(熊本), 口頭発表.

尾形 灯・加藤 将・佐藤妙子・矢野興一・大西 亘・志賀 隆, 2026 (March 6). カヤツリグサ科の標本種子は生きているか: 絶滅危惧種 36 種における発芽可能性と収蔵量の評価. 日本植物分類学会第 25 回大会(熊本), ポスター発表.

矢原徹一・廣田 峻・鈴木まほろ・尾関雅章・大西 亘・布施健吾・佐藤広行・夫婦石千尋・杜川武徳・高野温子・長谷川匡弘・永濱 藍・志賀 隆・田金秀一郎・松元颯紀・末次健司・陶山佳久, 2026 (March 6). 1 種から 14 種へ: 日本におけるニワトコ複合体の MIG-seq による解析と形態比較. 日本植物分類学会第 25 回大会(熊本), ポスター発表.

折原貴道(おりはら たかみち) 菌類学

[論文]

石原 峻・折原貴道・山本好和, 2025. 卓上 SEM による天然地衣体と継代組織培養物の微細構造の比較. *Lichenology*, 24 (1): 80.

Lemmond B., G. Bonito, R. Healy, J. Van Wyk, H. A. Dawson, C. R. Noffsinger, R. Stephens, A. Sow, J. M. Trappe, T. Orihara, P. Mleczko, V. Kaounas & M. E. Smith, 2025. Phylogenomics, trophic ecology, and systematics of the truffle-forming Morchellaceae. *Persoonia*, 55: 59-91.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 展示学, (70): 46-47.

Hosono A., M. Ohmae, M. Uzawa, T. Furuki, Y. Degawa & T. Orihara, 2026. Bryophilous Pezizales in Japan: First records of three rare species, *Lamprospora dicranellae*, *Neottiella ricciae*, and *Octospora humosa* agg. *Ascomycete.org*, 18: 3-12.

Orihara T., 2026. *Rosssbeevera subalbida* (Boletaceae, Boletales), a new, rare truffle-like species from Japan. *Truffology*, 9: 17-23.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

折原貴道, 2025. 小田原市いこいの森周辺野外勉強会 (R6-10-20) から二題. くさびら(神奈川県キノコの会 会報), (47): 25.

折原貴道・佐々木廣海, 2025. 日本地下生菌研究

会第 7 回地下生菌観察会で採集された地下生菌. *Truffology*, 8: 11-13.

折原貴道, 2025. 国産トリュフ類の基礎知識および採集の指針. *Truffology* 8: 15-18.

折原貴道, 2026. 表紙写真・表紙解説・編集後記. 神奈川県博物館協会会報, (97).

折原貴道・佐々木廣海・平野知也, 2026. 日本地下生菌研究会第 8 回地下生菌観察会で採集された地下生菌. *Truffology*, 9: 41-44.

[普及的著作等]

折原貴道, 2025. 世界のトリュフと日本のトリュフ、それらの採集の心得. 自然科学のとびら, 31 (3): 20-21.

[学会発表等]

石原 峻・折原貴道・山本好和, 2025 (April 19). 低真空卓上 SEM による地衣体の微細構造の観察とアセトン洗浄の効果. 日本菌学会関東支部令和 7 年度年次大会, 東京農業大学世田谷キャンパス.

和田匠平・伊東永三郎・占部愛依理・黒田裕樹・折原貴道・保坂健太郎・糟谷大河, 2025 (May 18). 日本において“ナガエノホコリタケ”および“アラナミケシボウズタケ”として知られるケシボウズタケ属菌の分類学的再検討. 一般社団法人日本菌学会第 69 回大会, 千葉大学西千葉キャンパス.

森 紀翔・折原貴道・阿部寛史・奈良一秀, 2025 (May 18). 海洋島御蔵島に多産する地下生菌 *Hymenogaster* sp. の分類と栄養獲得様式. 一般社団法人日本菌学会第 69 回大会, 千葉大学西千葉キャンパス.

大前宗之・折原貴道, 2025 (May 18). ハマカキランと共生する *Wilcoxina* 属菌(チャワソウ目ピロネマキン科)の形態的特徴. 一般社団法人日本菌学会第 69 回大会, 千葉大学西千葉キャンパス.

折原貴道, 2025 (May 18). 実体不明のトリュフ型菌、「ニカワショウロ」の再発見とその系統分類. 一般社団法人日本菌学会第 69 回大会, 千葉大学西千葉キャンパス.

細野天智・鶴沢美穂子・折原貴道, 2025 (May 18). 子囊殻様の特異な形態を持つコケ植物生菌 *Octosporaella brevibarbata* (チャワソウ目、ピロネマキン科)の日本新産報告. 一般社団法人日本菌学会第 69 回大会, 千葉大学西千葉キャンパス.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 日本展示学会第 44 回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

折原貴道, 2026 (January 24). きこの類の絶滅危惧種選定にあたって心がけるべき点とは? 日本菌学会関東支部 第 40 回菌学シンポジウム「菌類の絶滅危惧性を見直す」, 茨城県県南生涯学習センター(土浦).

折原貴道・嶋崎 拓・保坂健太郎・oso・岩間杏美・山本航平, 2026 (March 21). 国内から新たに見出されたスッポンタケ亜綱地下生菌の複数の希少系統(予報). 日本地下生菌研究会 2026 年度講演会, 川崎市教育文化会館.

石田祐子 (いしだ ゆうこ)

植物学 (植物生態学・植生学)

[論文]

石田祐子・吉田圭一郎・比嘉基紀・瀬戸美文・若松伸彦, 2025. 青葉山丘陵のモミイヌブナ林における林分構造の長期変化. 季刊地理学, 77(2): 49-69.

石田祐子, 2025. コシロノセンダングサとアイノコセンダングサの中間型. Flora Kanagawa, (96): 1151.

石田祐子, 2026. ミニ企画展示 押し葉標本が紡ぐ物語—神奈川県立西湘高等学校寄贈標本展示—実施報告. Flora Kanagawa, (97): 1159-1160.

伊藤晁逸・中山博子・石田祐子, 2025. 2019年4月～2025年12月の西湘シダ勉強会の調査活動. Flora Kanagawa, (97): 1161-1164.

藤田淳一・星山耕一・野口 健・大塚孝一・井浦和子・蛭間 啓・中村千賀・石田祐子・佐藤利幸, 2025. 長野県植物誌パイロット版V. 長野県植物研究会誌, (58): 73-80.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子, 2026. 企画展「すな—ふしぎをみつけよう—」開催報告—インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践—. 神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (55): 59-69.

石浜佐栄子・田口公則・石田祐子・広谷浩子, 2025. 見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践. 2024年度全国科学博物館活動等助成事業実施内容報告書, 8p.

[普及的著作等]

石田祐子, 2025. みんなに伝わる展示を目指して. 自然科学のとびら, 31(2): 10-11.

石田祐子, 2025. 西湘高校寄贈標本に秘められたストーリー. 自然科学のとびら, 31(3): 22-23.

[学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・石田祐子・広谷浩子, 2025 (June 8). 見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践. 日本ミュージアム・マネジメント学会第30回記念大会, 国立科学博物館.

田口公則・小華和あおい・石浜佐栄子・石田祐子・広谷浩子, 2025 (July 29). 手のひらの上のサハラ砂漠—触って気づく「自然のふり分け」—日本視覚障害理科教育研究会第45回研究大会, 筑波大学附属視覚特別支援学校.

澤田佳美・石田祐子, 2025 (December 13) リモートセンシングと現地調査とでみる北上山地薬師岳の植生変化. 植生学会オンラインシンポジウム「近接リモートセンシングによる植生研究」, オンライン.

石田祐子・澤田佳美・吉田圭一郎・比嘉基紀, 2026 (March 8-April 5) 北上山地薬師岳における植生帯境界における47年間の植生変化. 日本生態学会第73回全国大会, 京都大学. ハイブリッド開催.

澤田佳美・吉田圭一郎・石田祐子, 2026 (March 8-April 5) 北上山地薬師岳における落葉広葉樹林から亜高山針葉樹林への林分構造の変化. 日本生態学会第73回全国大会. 京都大学, ハイブリッド開催.

大島光春 (おおしま みつはる) 古生物学 (哺乳類)

[論文]

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館30周年記念—. 展示学, (70): 46-47.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則, 2025. 企画展「すな」で試みたコーナー見出しの多層化と展示体感の共有. 展示学, (70): 52.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大島光春, 2025. 日本展示学会第44回研究大会開催報告. 展示学, (70): 58.

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子, 2026. 企画展「すな—ふしぎをみつけよう—」開催報告—インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践—. 神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (55): 59-69.

[学会発表等]

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館30周年記念—. 日本展示学会第44回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則, 2025 (June 22). 企画展「すな」で試みたコーナー見出しの多層化と展示体感の共有. 日本展示学会第44回研究大会 (ポスター発表), 神奈川県立生命の星・地球博物館.

樽 創 (たる はじめ) 古生物学 (哺乳類)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中 猛・樽 創, 2026. 静岡県伊豆市下白岩の中新統湯ヶ島層群下白岩層より産出した板鰐類化石の概要. 東海自然誌 (19): 27-35.

[普及的著作等]

樽 創, 2025. 長鼻目. 日本哺乳類学会 編, 哺乳類学の百科事典, pp. 48-49, 丸善, 東京, 516pp.

[学会発表等]

樽 創, 2026 (February 22). あきる野市のパレオパラドキシア・タバタイ (Paleoparadoxia tabatai (Tokunaga, 1939)), 「化石が語るあきる野市の魅力」あきる野市の二つの宝, あきる野市の二つの宝・講演会実行委員会, フレア五日市.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)

[論文]

大島光春・石浜佐栄子・田口公則, 2025. 企画展「すな」で試みたコーナー見出しの多層化と展示体感の共有. 展示学, (70): 52.

佐藤武宏・高橋京子・高橋博行・田口公則, 2026. 自然科学に関する講演聴講が幼児教育者の意識に与える効果. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (55): 71-80.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田口公則, 2026. 「カオス」から学びは生まれる: 収蔵庫の解放・足場かけ・知の循環が描く博物館の新しいかたち. 子ども博物館楽校, (8): 42-46.

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子, 2026. 企画展「すな—ふしぎをみつ

けようー」開催報告—インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践．神奈川県博物館研究報告（自然科学），（55）：59-69.

田口公則，2026. どうしたら巻貝の螺旋のイメージをもたせることができるだろうか—サザエの殻の内型を寒天で型取りする方法—．日本視覚障害理科教育研究会会報，（44）：6-12.

石浜佐栄子・田口公則・石田祐子・広谷浩子，2025. 見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践．2024 年度全国科学博物館活動等助成事業実施内容報告書，8p.

[普及的著作等]

田口公則，2026. 天然記念物「諸磯の隆起海岸」を未来へ：露頭整備と見学会の開催報告．神奈川地学，（87）：45-48.

田口公則，2026. 貝化石の崖に隠れていた「名もなき石切り場」．自然科学のとびら，31（2）：15.

田口公則，2026. 企画展の保存記録—展示のかたちと記憶をデジタルで繋ぐ—．自然科学のとびら，31（2）：14.

[学会発表等]

田口公則，2025（April 12）. 松島旧蔵別刷群：自然史博物館における研究者アーカイブズの可能性．神奈川地学会 2025 年度「神奈川の地学広場」，神奈川県立生命の星・地球博物館．

田口公則，2025（May 25）. 地域資源の再発見、コミュニティ主体のアプローチの評価—戸川砥を例として—．日本地球惑星科学連合 2025 年大会，幕張メッセ．

石浜佐栄子・田口公則・石田祐子・広谷浩子，2025（June 8）. 見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践．日本ミュージアム・マネジメント学会第 30 回記念大会，国立科学博物館．

大島光春・石浜佐栄子・田口公則，2025（June 22）. 企画展「すな」で試みたコーナー見出しの多層化と展示体感の共有．日本展示学会第 44 回研究大会（ポスター発表），神奈川県立生命の星・地球博物館．

千葉 毅・芳賀文絵・八巻 聡・田口公則，2025（July 5-6）. 南九州市所在のアジア・太平洋戦争期コンクリート製トーチカの調査．日本文化財科学会第 42 回大会，日本文化財科学会，九州大学伊都キャンパス．

田口公則・小華和あおい・石浜佐栄子・石田祐子・広谷浩子，2025（July 29）. 手のひらの上のサハラ砂漠—触って気づく「自然のふり分け」—．日本視覚障害理科教育研究会第 45 回研究大会，筑波大学附属視覚特別支援学校．

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝・夏目 樹，2025（September 15）. 石材の再発見は、地域の何を掘り起こすのか？：文化地質学の視点から見た参加型調査の可能性．日本地質学会第 132 年学術大会，熊本大学黒髪キャンパス 熊本県熊本市．

田口公則・谷 圭司，2026（March 7）. 東丹沢・七沢石および日向石の岩相と利用に関する予察的検討—伊勢原市上粕屋の石垣に見られるセラドン石礫を含む岩石に着目して．文化地質研究会第 9 回学術大会，大谷大学．

山下浩之（やました ひろゆき）地学（岩石学）

[論文]

Nishimoto, S., M. Inui, T. Nakazawa, A. Hiraga & H. Yamashita, 2025. Non-destructive identification of gabbroic building stone using portable X-ray fluorescence (pXRF) analysis. npj Heritage Science, 13: 497.

K. Michibayashi, S. Inoue, V. Basch, M. Cuffaro, Y. Harigane, S. Katagiri, T. Moriguchi, I. Natsume, K. Nimura, K. Okino, T. Okuwaki, R. Oyanagi, A. Sanfilippo, J. E. Snow, H. Yamashita & Y. Ohara, 2026. Amagmatic Mylonitic Deformation of Mantle Peridotites from the Tosa Megamullion in the Shikoku Basin, Philippine Sea. Minerals, 16(2), 154.

西澤文勝・山下浩之，2026. 箱根町宮城野林道沿いにおける箱根火山明神ヶ岳溶岩グループの一記載．神奈川自然誌資料，（47）：19-27.

山下浩之・西澤文勝，2026. 箱根火山由来の火山岩類の全岩化学組成．神奈川県立博物館研究報告（自然科学），（55）：1-8.

楠 賢司・山下浩之，2026. 西浦立保長津崎石丁場遺跡における矢穴石の岩石学的特徴．静岡県埋蔵文化財センター研究紀要，（10），11-24.

[学会発表等]

乾 睦子・平賀あまな・西本昌司・中澤 努・山下浩之，2025（September 12）. ポータブル型蛍光 X 線分光分析装置を用いた花崗岩石材の産地推定の試み．2025 年度日本建築学会大会，九州大学．

増田俊明・田阪美樹・松本拓巳・大嶽良太・倉科萌・楠 賢司・酒井瑞帆・山下浩之・中村俊文・谷 圭司・夏目 樹，2025（September 15）. ホルンフェルスの面構造・線構造解析：丹沢山地の変成岩．日本地質学会第 132 年学術大会，熊本大学黒髪キャンパス．

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝・夏目 樹，2025（September 15）. 石材の再発見は、地域の何を掘り起こすのか？：文化地質学の視点から見た参加型調査の可能性．日本地質学会第 132 年学術大会，熊本大学黒髪キャンパス．

乾 睦子・西本昌司・中澤 努・山下浩之・平賀あまな，2025（September 15）. ポータブル型蛍光 X 線分光分析装置を用いた花崗岩建築石材の産地推定に向けて．日本地質学会第 132 年学術大会，熊本大学黒髪キャンパス．

西本昌司・乾 睦子・山下浩之・松原典孝，2025（September 15）. 旧兵庫農工銀行豊岡支店の外壁に使われている由良石の岩石学的同定．日本地質学会第 132 年学術大会，熊本大学黒髪キャンパス．

大嶽良太・田阪美樹・増田俊明・山下浩之・夏目樹・中村俊文・谷 圭司・倉科 萌，2026（March 17）. 丹沢山地の角閃岩ゼノリスの微細構造観察．変成岩などシンポジウム，東北大学青葉山キャンパス．

新井田秀一（にいだ しゅういち）環境科学

[普及的著作等]

新井田秀一，2025. 2「かながわ」を描く—鳥瞰図の再現—．新井田秀一・西澤文勝・夏目 樹編，2025 年度特別展図録初三郎式、かながわの描き

方—地形表現の科学—, pp. 7-14.; 3 昭和初期の「かながわ」, ibid., pp. 15-27.; 4 「かながわ」を旅する, ibid., pp. 28-74.; 5 地形表現の変化, ibid., pp. 75-80. コラム: 初三郎こぼれ話, ibid., pp. 81-82. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

新井田秀一, 2025. 特別展「初三郎式、かながわの描き方—地形表現の科学—」への招待. WESKAMS voice, 神静民報社, 2025 年 8 月 16 日発行.

新井田秀一, 2025. 「初三郎式、かながわの描き方」こぼれ話. 自然科学のとびら. 31(3): 18-19. [学会発表等]

森田 喬・新井田秀一, 2025 (August 30). 特別展「初三郎式、かながわの描き方」を見る—地形表現の科学—. 日本地図学会 2025 年度定期大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

石浜佐栄子 (いしはま さえこ) 地学 (堆積学)
[論文]

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 展示学, (70): 46-47.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則, 2025. 企画展「すな」で試みたコーナー見出しの多層化と展示体感の共有. 展示学, (70): 52. [著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子, 2026. 企画展「すな—ふしぎをみつこう—」開催報告—インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践—. 神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (55): 59-69.

石浜佐栄子・田口公則・石田祐子・広谷浩子, 2025. 見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践. 2024 年度全国科学博物館活動等助成事業実施内容報告書, 8p.

石浜佐栄子, 2025. 企画展「すな」におけるインクルーシブな視点を取り入れた展示. 神奈川県博物館協会第一回研修会資料, 1p. [普及的著作等]

石浜佐栄子, 2025. きれいになって鳴きました—サハラ砂漠の鳴き砂?—. 自然科学のとびら, 31(2): 9. [学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・石田祐子・広谷浩子, 2025 (June 8). 見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践. 日本ミュージアム・マネジメント学会第 30 回記念大会, 国立科学博物館.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則, 2025 (June 22). 企画展「すな」で試みたコーナー見出しの多層化と展示体感の共有. 日本展示学会第 44 回研究大会 (ポスター発表), 神奈川県立生命の星・地球博物館.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 日本展示学会第 44 回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

田口公則・小華和あおい・石浜佐栄子・石田祐子・広谷浩子, 2025 (July 29). 手のひらの上のサ

ハラ砂漠—触って気づく「自然のふり分け」—. 日本視覚障害理科教育研究会第 45 回研究大会, 筑波大学附属視覚特別支援学校.

西澤文勝 (にしざわ ふみかつ) 地学 (火山地質学)
[論文]

Vineberg, S.O., P.G. Albert, D. McLean, T. Suzuki, Y. Miyabuchi, H. Hoshizumi, H. M. Buckland, G. Jones, F. Nishizawa, R.A. Staff, K. Yamada, I. Kitaba, J. Kitagawa, C. J. Manning, SG14 Project Members, T. Nakagawa, & V. C. Smith, 2025. Revealing the timing and dispersal of large explosive eruptions at Aso volcano (Japan) by integrating proximal and distal tephra records over the last 130 kyrs. Journal of Volcanology and Geothermal Research, 468: 108436. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.jvolgeores.2025.108436>

西澤文勝・山下浩之, 2026. 箱根町宮城野林道沿いにおける箱根火山明神ヶ岳溶岩グループの一記載. 神奈川自然誌資料, 47: 19-24.

山下浩之・西澤文勝, 2026. 箱根火山由来の火山岩類の全岩化学組成. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 55: 1-8.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025. 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 展示学, 70: 46-47. [著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子, 2026. 企画展「すな—ふしぎをみつこう—」開催報告—インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践—. 神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (55): 59-69. [普及的著作等]

西澤文勝, 2025. 先代学芸員が切り取った「自然」. 自然科学のとびら, 122: 4-5. [学会発表等]

西澤文勝・鈴木毅彦, 2025 (May 29). 鹿児島地溝における過去 300 万年間の大規模火砕流堆積物の火山ガラス主成分化学組成. 日本地球惑星科学連合 2025 年大会, 幕張メッセ.

西澤文勝・鈴木毅彦・山田圭太郎, 2025 (August 30). 中部九州、阿蘇野層中に挟在する白まるバンドの広域対比の再検討. 日本第四紀学会 2025 年大会, 島根大学松江キャンパス.

野崎 篤・塩井宏幸・笠間友博・西澤文勝・柴田健一郎, 2025 (September 15). 三浦半島南部に分布する上総層群林層 (下部更新統) から見いだされた大峰-SK110 テフラ. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学黒髪キャンパス.

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝・夏目 樹, 2025 (September 15). 石材の再発見は、地域の何を掘り起こすのか?: 文化地質学の視点から見た参加型調査の可能性. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学黒髪キャンパス.

大島光春・松本涼子・折原貴道・西澤文勝・渡辺恭平・石浜佐栄子・鈴木 聡・広谷浩子, 2025 (June 22). 幻の展示更新プロジェクト—生命の星・地球博物館 30 周年記念—. 日本展示学会 第 44 回研究大会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

夏目 樹（なつめ いつき）地学（鉱物学）

[論文]

Michibayashi, K., S. Inoue, V. Basch, M. Cuffaro, Y. Harigane, S. Katagiri, T. Moriguchi, I. Natsume, K. Nimura, K. Okino, T. Okuwaki, R. Oyanagi, A. Sanfilippo, J. E. Snow, H. Yamashita & Y. Ohara, 2026. Amagmatic Mylonitic Deformation of Mantle Peridotites from the Tosa Megamullion in the Shikoku Basin, Philippine Sea. Minerals, 16(2): 154

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子, 2026. 企画展「すな－ふしぎをみつけよう－」開催報告－インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践－. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (55): 59-69.

[学会発表等]

夏目 樹・道林克禎・伊神洋平, 2025 (May 26). ハンレイ岩ウルトラマイロナイトの斜長石四重点～オマーンオフィオライト・フィズ岩体の延性剪断帯の例－. 日本地球惑星科学連合 2025 年大会, 幕張メッセ / オンライン.

道林克禎・夏目 樹・片山郁夫・藤江 剛, 2025 (September 14). 小笠原前弧母島海山のテクトニクス（予察）. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学.

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝・夏目 樹, 2025 (September 15). 石材の再発見は、地域の何を掘り起こすのか? : 文化地質学の視点から見

た参加型調査の可能性. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学.

増田俊明・田阪美樹・松本拓己・大嶽良太・倉科 萌・楠 賢司・酒井瑞帆・山下浩之・中村俊文・谷圭司・夏目 樹, 2025 (September 15). ホルンフェルスの面構造・線構造解析: 丹沢山地でのケーススタディー. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学.

夏目 樹・道林克禎・岡本 敦, 2025 (September 16). 地殻－マントル境界に発達した含水延性剪断帯における物質移動. 日本地質学会第 132 年学術大会, 熊本大学.

夏目 樹, 2025 (December 5). 母島海山の火山岩の再分析. ハードロック掘削科学ワークショップ Winter 2025 ～母島海山を探る～, 名古屋大学.

大嶽良太・田阪美樹・増田俊明・山下浩之・夏目樹・中村俊文・谷 圭司・倉科 萌, 2026 (March 18). 丹沢山地の角閃岩ゼノリスの微細構造観察. 変成岩などシンポジウム 2026, 千葉大学.

大坪 奏（おおつぼ かなで）アーカイブズ

[普及的著作等]

大坪 奏, 2025. 記録資料を残そうー自然史のアーカイブズとは?ー. 自然科学のとびら, 31(4): 26-27.

大坪 奏, 2025. 古い記録資料を「博物館資料」にするためにーボランティアが支える整理作業ー. 自然科学のとびら, 32(1): 2-3.

3.4. レファレンス対応人数

2025 年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レファレンス合計	同定標本数	マスコミ掲載数	マスコミ放送・放映
	メール	電話	手紙	来館	出張	小計	メール	電話	手紙	来館	出張	小計				
昆虫類	222	8	5	27	47	309	315	16	5	230	260	826	1,135	3,420	1	1
魚 類	242	23	0	39	59	363	264	23	0	122	100	509	872	3,395	2	3
両生・爬虫類	37	1	0	1	0	39	46	12	2	18	1	79	118	27	0	4
鳥 類	11	0	1	0	0	12	53	40	0	13	0	106	118	113	1	0
哺乳類	5	0	0	6	2	13	23	4	0	42	15	84	97	19	0	0
その他動物	21	0	0	1	0	22	46	4	0	29	27	106	128	93	0	7
植 物	7	0	0	2	0	9	57	35	1	2	1	96	105	45	0	0
菌 類	264	46	32	52	82	476	80	34	4	32	46	196	672	596	2	3
古生物	132	10	2	19	2	165	48	22	1	13	91	175	340	89	0	0
地 学	11	1	0	4	2	18	47	19	0	68	1	135	153	271	0	2
地球環境	7	2	0	4	0	13	17	9	0	9	0	35	48	2	4	2
合 計	959	91	40	155	194	1,439	996	218	13	578	542	2,347	3,786	8,070	10	22

マスコミ等の問い合わせ元（掲載未確認のものを含む）

	主な問い合わせ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	NHK/こどもタウンニュース/フジテレビ/神奈川新聞	「ワイルドロンдон」
魚 類	NHK/小学館/講談社/読売テレビ/日本経済新聞社/テレビ朝日/毎日放送/日本テレビ/TBS テレビ/毎日放送/朝日小学生新聞	「ダーウィンが来た!」/「ワイルドアジア」/「有吉のお金発見 突撃! カネオくん」/「ワイルドライフ「ハワイ」」/「親と子 いのちの物語～Parenthood」/「ギョギョッとサカナ★スター」/「ワイルドヨーロッパ 水と命が描く果てなき旅」/「サタプラ」/「くりいむクイズ ミラクル9」/「相葉マナブ」/「ザ! 鉄腕! DASH!!」/「ワイルドライフ」
両生・爬虫類	NHK	「親と子 いのちの物語」/「ワイルドヨーロッパ 水と命が描く果てなき旅」
鳥 類	タウンニュース藤沢版/NHK	「ワイルドロンдон」/「イギリスで一番美しい庭ダルメイン」

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

	主な問い合わせ元(放送局・出版社等)	主な番組等
哺乳類	NHK	「親子 いのちの物語〜Parenthood」 / 「ワイルドライフ」 / 「ワイルドロンドン」
その他動物	NHK/日本テレビ/テレビ朝日/NHK Eテレ/NHK 富山放送局/NHK BS	「ワイルドアジア」 / 「ザ! 鉄腕! DASH!!」 / 「相葉マナブ」 / 「出川哲朗のクイズはぁ〜スクール」 / 北陸スペシャル「北陸アンダー・ザ・シー」 / 「ワイルドロンドン」
植 物		
菌 類	京都新聞/BS 朝日/フジテレビ/ダイヤモンドオンライン(ダイヤモンド社) /NHK	「そこに山があるから」 / 「超ド級! 世界のありえない映像大賞」 / 「首都圏ネットワーク「オシたび」」
古生物		
地 学	タウンニュース藤沢/NHK/日本テレビ	「プラタモリ」 / 「せっかち勉強」
地球環境	NHK 横浜/FM ヨコハマ/東京新聞/神静民報/時事通信/ゼンリン/朝日新聞/ニュースサイト「湘南人」	

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「学校名・科目名」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

田中徳久

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

神奈川県植物誌調査会運営委員

横浜植物会運営委員

大和市文化財保護審議会委員

茅ヶ崎市環境審議会委員

大磯町環境審議会委員

大磯町文化財専門委員

箱根町文化財保護委員

IGES 国際生態学センター運営委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」

桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」

桜美林大学非常勤講師（後期）「自然環境調査法」

佐藤武宏

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会委員（川崎市）

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「科学の世界 地域の自然史」

日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期）「博物館概論」

[査読]

神奈川自然誌資料

加藤ゆき

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）

苅部治紀

[委員・役員]

日本トンボ学会会長

日本トンボ学会編集委員会委員長

日本トンボ学会自然保護委員長

日本甲虫学会自然保護委員

小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会委員

環境省令和7年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会昆虫分科会検討委員

環境省希少野生生物推進員

環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員

環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ委員

林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域修復計画業務検討委員会委員

東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員

東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会・行文線未整備区間の整備に係る専門家会議委員

渡辺恭平

[委員・役員]

一般社団法人日本昆虫学会 代議員

一般社団法人日本昆虫学会 和文誌編集副委員長

一般社団法人日本昆虫学会 将来問題検討委員

一般社団法人日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員

神奈川昆虫談話会 幹事

膜翅目研究会 幹事

地球規模生物多様性情報機構日本ノード運営委員会作業部会委員

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

[査読]

Academia Journal of Biology

Journal of Hymenoptera Research

Entomological Science

ZooKeys

Annales Zoologici

昆虫ニューシリーズ

小笠原研究

松本涼子

[委員・役員]

アメリカ古脊椎動物学会 (Society of Vertebrate Paleontology) 学会要旨選考委員

日本古生物学会「化石」編集委員

白山市恐竜パーク運営委員会委員（石川県白山市）

相模原市環境影響評価審査会委員（神奈川県相模原市）
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
Zoological Journal of the Linnean Society
Assistant Editor
[査読]
Biological Journal of the Linnean Society
化石
Paleontological Research
Universitat Rovira i Virgili 博士論文審査
[非常勤講師]
神奈川大学非常勤講師「博物館実習 I・II」

鈴木 聡

[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会委員長
日本哺乳類学会大会企画・将来構想委員会委員
日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会小型食肉目保護管理検討作業部会員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」
[査読]
哺乳類科学
Mammal Study
神奈川自然誌資料

和田英敏

[委員・役員]
日本魚類学会幹事会 筆頭庶務幹事
日本魚類学会若手の会 副会長
日本動物分類学会 編集幹事（和文誌編集委員長）
Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員
Ichthyological Research・魚類学雑誌 編集委員
東京大学総合研究博物館 研究事業協力員
[査読]
Biogeography
Cybium
魚類学雑誌（編集委員として 1 編）
Ichthy, Natural History of Fishes of Japan（編集委員として 2 編・レビューアとして 1 編）
Ichthyological Research（編集委員として 3 編）
Journal of Fish Biology
神奈川自然誌資料（2 編，編集委員として 9 編）
神奈川県立博物館資料目録（自然科学）（編集 1 件）
Kuroshio Biosphere
Natural History Bulletin of the Siam Society
Raffles Bulletin of Zoology
タクサ：日本動物分類学会（編集委員として 1 編）

大西 亘

[委員・役員]
日本植物分類学会植物データベース専門委員会委員長
種生物学会幹事（関東地区）
デジタルアーカイブ学会評議員
デジタルアーカイブ学会誌編集委員

日本すげの会副会長
莎草研究編集委員
ニッチェ・ライフ編集委員
神奈川県植物誌調査会運営委員
小田原市郷土文化館協議会委員
相模原市デジタルアーカイブ推進協議会委員
東京都自然環境デジタルミュージアム情報基盤検討会委員
日本生物多様性情報イニシアチブ運営委員会作業部会委員

折原貴道

[委員・役員]
日本地下生菌研究会 会長
日本地下生菌研究会 事務局
日本地下生菌研究会 Truffology 編集委員
日本地下生菌研究会 総会・講演会・シンポジウム担当
一般社団法人日本菌学会 代議員
一般社団法人日本菌学会 Mycoscience 編集委員
一般社団法人日本菌学会 2025 年度菌類観察会（静岡フォーレ）実行委員会委員
一般社団法人日本菌学会 2026 年度菌類観察会（横浜フォーレ）実行委員会委員
神奈川県博物館協会 自然科学部会幹事
神奈川県博物館協会 協会報編集委員長
生命の星・地球博物館 入生田菌類誌調査グループ代表
東京都「東京都の保護上重要な野生生物種（伊豆諸島）」改定に向けた専門部会 非維管束植物分科会専門委員
[非常勤講師]
日本大学生物資源科学部森林学科（後期；分担）「きのこの学」
[査読]
Mycoscience（一般社団法人日本菌学会）（2 編）
Tropical Natural History
Lichenology（日本地衣学会）
New Zealand Journal of Botany

石田祐子

[委員・役員]
神奈川県植物誌調査会運営委員
長野県植物誌改訂委員
[非常勤]
東京都立大学都市環境科学研究科地理環境学域・環境地理学研究室客員研究員
[査読]
植生学会誌
その他 1 誌

大島光春

[委員・役員]
茅ヶ崎市博物館協議会 委員
日本展示学会理事
公益財団法人東京地学協会 行事委員
[非常勤講師]
日本女子大学（前期）「博物館実習」
帝京科学大学（後期分担）「博物館経営論」
帝京科学大学（後期分担）「博物館展示論」

樽 創

[委員・役員]
神奈川地学会幹事
あきる野市文化財保護審議会委員（あきる野市教育委員会）

田口公則

[委員・役員]
日本地質学会 生涯教育委員会委員
日本共生科学会理事
日本共生科学会編集委員
愛川町資料館運営協議会構成員
神奈川地学会幹事
[非常勤講師]
明治大学非常勤講師（前期）「博物館資料保存論」
日本女子大学非常勤講師（後期）「博物館実習（3年）B」

山下浩之

[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員（熱海市教育委員会）
小田原市郷土文化館協議会委員（小田原市教育委員会）
一般社団法人日本地質学会 関東支部地区代議員
一般社団法人日本地質学会 ジオパーク支援委員
[非常勤講師]
学校法人玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学」
学校法人玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学実験」

新井田秀一

[委員・役員]
日本地図学会評議員
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」
日本大学生物資源科学部非常勤講師（前期集中）「博物館展示論」

石浜佐栄子

[委員・役員]
東京地学協会専門家紹介委員会委員
東京地学協会アドバイザー委員
全科協ニュース編集委員会委員

西澤文勝

[委員・役員]
日本第四紀学会行事委員会委員
日本第四紀学会選挙管理委員会委員
箱根ジオパーク推進協議会幹事会役員
神奈川地学会幹事
[非常勤講師]
東京都立大学都市環境科学研究科地形・地質学研究室客員研究員
島嶼火山・都市災害研究センター学外メンバー

夏目 樹

[委員・役員]
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
[査読]
神奈川県立博物館研究報告（自然科学）
神奈川自然誌資料

大坪 奏

[委員・役員]
一般社団法人日本菌学会 庶務幹事
一般社団法人日本菌学会日本分類学会連合連絡委員

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所（館内・館外）の区分で一覧表に示した。
行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。（延べ件数集計のため、複数日にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。独立行政法人は行政機関に含め集計した。）なお、学校（小・中・高・大・養護等および教員研修）からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」（60 ページ）「5.3. 博物館実習」（61 ページ）に記載した。

講師依頼元の内訳

		小学校	中学校	高校	大学(短・院含む)	教員研修	行政機関	各種団体	その他	合計
館内	件数	7	2	1	13	1	1	10	3	38
	人数	387	185	25	319	12	8	262	119	1,317
館外	件数	4	2	0	1	4	26	17	2	56
件数合計		11	4	1	14	5	27	27	5	94

行政機関・各種団体の依頼（館内実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数
6/11(水)	小田原ガイド協会 ガイド養成講座ジオパーク I	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之	17
6/28(土)	箱根火山の成り立ちや特徴といったジオパークに関わる内容	小田原・箱根 SGG クラブ	西澤文勝	15
8/5(火)	海外姉妹都市青年交流事業	小田原市文化部文化政策課	夏目 樹	8
8/11(月祝)	「地図から見えてくる箱根ジオパーク」	箱根ジオパーク推進協議会	新井田秀一	138
8/20(水)	特別展見学会	神奈川県文化財協会	新井田秀一	35
9/15(月祝)	「海洋研究 3D スーパーサイエンスプロジェクト」	合同会社吉本アートファクトリー 海洋研究 3D スーパーサイエンスプロジェクト運営事務局	和田英敏	12
9/20(土)	展示見学	神奈川理科サークル	田口公則・石浜佐栄子	15
12/13(土)				3
12/16(火)	バックヤードツアー	益田一顕彰委員会	和田英敏	3
1/14(水)				1
1/24(土)	展示解説	長野県山岳総合センター	山下浩之	23
合計				270

行政機関・各種団体の依頼（館外実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
4/5(土)	仙石原モニタリング調査	箱根町企画観光部企画課	渡辺恭平	仙石原湿原
6/2(月)				
6/28(土)				
7/30(水)				
8/28(木)				
9/17(水)				
10/12(日)				
4/30(水)	鳩ヶ原昆虫調査	蒜山自然再生協議会	渡辺恭平	鳩ヶ原地区
5/1(木)				
5/24(土)	「すわのはら昆虫きょうしつ きれいな虫さがし」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
5/27(火)	「地域の植物調査と標本データの活用」	公益財団法人地球環境戦略研究機関 国際生態学センター	田中徳久	IGES 本部
5/31(土)	「箱根パークボランティア研修会」	一般社団法人自然公園財団	大西 亘	環境省箱根ビジターセンター・湖尻園地
6/4(水)	小田原ガイド協会 ガイド養成講座ジオパークⅡ	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之	石垣山一夜城
6/29(日)	初夏のキノコ観察	神奈川県立 21 世紀の森（指定管理者 株式会社アグサ）	折原貴道	神奈川県立 21 世紀の森
7/31(木)	夏休み自然科学講座&ワークショップ 葉っぱの形のひみつ	小田原市立小田原駅東口図書館	石田祐子 山下浩之	小田原駅東口図書館
8/3(日)	第 32 回小田原みなとまつり「ワークショップ 貝がらフロッタージュートバッグ作り」	小田原みなとまつり実行委員会	佐藤武宏 田口公則	小田原市公設水産地方卸売市場
8/6(水)	砂に関する体験学習	特定非営利活動法人 Laulea	石浜佐栄子 田口公則 石田祐子	茅ヶ崎リノア事業所
8/11(月祝)	箱根虫塾	箱根自然解説活動連絡協議会	渡辺恭平	箱根ビジターセンター館内・周辺自然散策路・周辺広場
8/13(水)	仙石原モニタリング調査	箱根町企画観光部企画課	石田祐子	仙石原湿原
9/29(月)				
10/17(金)				
10/23(木)				
11/4(火)				
11/11(火)				
8/16(土)	「夜の昆虫かんさつ会」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
9/7(日)	平塚新港「海のお魚調べ（岸壁採集）」	NPO 法人暮らし・つながる森里川海	和田英敏	ひらつかタマ三郎漁港（平塚新港）内
9/13(土)	「丹沢の成り立ちと地質的特徴」	丹沢大山ボランティアネットワーク	山下浩之	自然環境保全センター
9/13(土)	大谷まや展『生きるかたち』のギャラリートーク	日本画家 大谷まや	折原貴道	トキアートスペース
9/21(日)	「カメラがとらえた里山のけものたち」	秦野市立堀川公民館	鈴木 聡	秦野市立堀川公民館
9/27(土)	「すわのはらバッタ観察会」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	県立諏訪の原公園
9/27(土)	Web 市民シンポジウム サカナ×？？？ “魚類学”の多彩なアプローチ 7!! 「自然のタイムカプセルー“古標本”で甦る、100 年前の日本の海」	日本魚類学会・若手の会	和田英敏	オンライン
10/5(日)	秋のキノコ観察	神奈川県立 21 世紀の森（指定管理者 株式会社アグサ）	折原貴道	神奈川県立 21 世紀の森
10/7(火)	はだのエコスクール「はだのの砥石から地球を感じる」	秦野市環境共生課	田口公則	秦野市立鶴巻小学校
10/25(土)	植物記録講座・観察会	伊豆大島ジオパーク推進委員会	大西 亘	伊豆大島ミュージアム
10/26(日)	海洋サイエンスカフェ	観音崎自然博物館	西村双葉	観音崎自然博物館
10/26(日)	箱根西麓森林塾 森づくり講座	NPO 法人三島フォレストクラブ	折原貴道	三島市箱根の里とその周辺の森
11/15(土)	おだわら市民学校専門課程「自然を守り育てる」小田原の自然を学ぶ③～小田原の地質を学ぶ～	小田原市	夏目 樹	小田原市生涯学習センターけやき
12/3(水)	「火山の噴火と災害についてー富士山と箱根火山ー」	秦野市立堀川公民館	西澤文勝	秦野市立堀川公民館
12/14(日)	「伊勢原の日向石を訪ねる～自然の露頭から石造物、石工による石割り実演まで～」	神奈川地学会	田口公則	伊勢原市内
1/23(金)	初三郎式かながわの描き方～地形表現の科学	パークウェルステイト湘南藤沢 SST	新井田秀一	パークウェルステイト湘南藤沢 SST
1/24(土)	招待講演「きのこ類の絶滅危惧種選定にあたって心がけるべき点とは？」	国立科学博物館植物研究部	折原貴道	茨城県県南生涯学習センター
2/1(日)	「冬のいきものさがし～冬に虫はどこにいるのかな～」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
2/7(土)	「相模湾タイムトラベル～生きているハマグリがいるところ 化石になったハマグリがいたところ」	箱根ジオパーク推進協議会	佐藤武宏 田口公則	南足柄市文化会館
2/23(月祝)	境川遊水地「貝化石掘り体験」	県立境川遊水地公園（指定管理者 神奈川県公園協会・サカタのタネグリーンサービスグループ）	田口公則	県立境川遊水地公園

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会・講演会等について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある一般に公開した講演会は 56 ページに詳細を記載のため省略した。

実施団体	実施日	開催内容	講師等	参加人数
神奈川県植物誌調査会	4/6(日)	役員会・総会・講演会	田中徳久・大西 亘・石田祐子・夫婦石千尋（九州大学大学院）	50 名
神奈川地学会	4/12(土)	総会・地学広場	中村俊文（神奈川地学会）・野田啓司（神奈川地学会）ほか	総会 30 名 地学広場 34 名
日本展示学会 関東地域研究会	4/12(土)	企画展見学・討論会	石浜佐栄子・大島光春	14 名
魚の会	5/11(日)	総会	—	20 名
神奈川県博物館協会	5/21(水)	役員会・総会・研修会	—	役員会 19 名 総会 51 名 研修会 83 名

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

実施団体	実施日	開催内容	講師等	参加人数
箱根ジオパーク	5/23(金)	総会	—	48 名
日本展示学会	6/22(日)	第 44 回研究大会・総会	大島光春 (実行委員長)	90 名
神奈川昆虫談話会	8/24(日)	例会	中村 涼 (東京大学大学院)	40 名
日本地図学会	8/30(土) 8/31(日)	定期大会	新井田秀一	130 名
菌類懇話会	8/31(日)	例会 (菌類ボランティアと合同)	—	15 名
神奈川昆虫談話会	12/7(日)	総会・例会	柳澤静磨 (磐田市竜洋昆虫自然観察公園)	40 名
神奈川昆虫談話会	3/29(日)	例会	齋藤孝明 (神奈川昆虫談話会)	40 名

3. 8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、期間、内容、担当者等を記載した。(開催日初日順)

協力先団体名	実施日	協力内容等	担当者	実施場所等
箱根ジオパーク推進協議会幹事会	5 月 1 日 (木) 6 月 24 日 (火)	幹事会への出席	山下浩之 新井田秀一 西澤文勝 夏目 樹	小田原合同庁舎
	7 月 15 日 (火) 7 月 28 日 (月) 8 月 13 日 (水) 8 月 28 日 (木) 9 月 11 日 (木) 10 月 1 日 (水) 10 月 16 日 (木) 11 月 11 日 (火) 11 月 28 日 (金) 2026 年 2 月 3 日 (火)			オンライン
	5 月 23 日 (金)	総会への出席	田中徳久 芳賀洋一 山下浩之 新井田秀一 西澤文勝 夏目 樹	神奈川県立生命の星・地球博物館
株式会社 UMIGO	7 月 19 日 (土)	田子漁港イベント「レア魚釣り & クルージング」の講師・運営協力	和田英敏	田子漁港 (静岡県)
日本魚類学会・若手の会	7 月 26 日 (土)	Web シンポジウム「サカナ×???? 魚類学の多様なアプローチ」Part 6 の運営	和田英敏	オンライン
	9 月 27 日 (土)	Web シンポジウム「サカナ×???? 魚類学の多様なアプローチ」Part 7 の運営		
東京大学総合研究博物館	7 月 27 日 (日)～8 月 1 日 (金)	ミニ企画展示『東京大学で見つかった田沢湖産クニマスの標本』の展示構成協力	和田英敏	東京大学総合研究博物館
日本魚類学会	8 月 2 日 (火) 9 月 6 日 (金)	代議員総会・幹事会への出席	和田英敏	オンライン
	11 月 23 日 (日)	2025 年度日本魚類学会中・高生発表優秀賞審査		東京海洋大学
特定非営利活動法人日本地学オリンピック日本委員会	9 月 1 日 (月)～11 月 15 日 (土) 12 月 21 日 (日) 2026 年 1 月 25 日 (日) 3 月 15 日 (日)～3 月 17 日 (火)	後援名義使用	企画普及課	ポスター・チラシの配架
日本動物分類学会幹事会	2026 年 1 月 15 日 (木)	幹事会への出席	和田英敏	オンライン
	2026 年 2 月 2 日 (月)	幹事会の運営・出席		
平塚市漁業協同組合・平塚市農水産課	2026 年 2 月 13 日 (金)	浅海生物生息調査	佐藤武宏	平塚市

3. 9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。2025 年度は外来研究員 22 名を受け入れた。2025 年度の研究成果を以下に掲載する。

ハゼ科セジロハゼ属魚類の分類学的研究

[研究担当者] 尾山大知

[研究内容]

本研究では、相模湾で採集されたハゼ科セジロハゼ属魚類の未同定種 10 標本について、分類学的検討を行いその同定を試みた。今年度は、上記 10 標本、および生命の星・地球博物館をはじめとする国内外の研究機関に所蔵されている本属の標本について、生命の星・地球博物館の機材 (実体顕微鏡、ソフトウェア等) を用いて外部形態と内骨格を観察し、それらの特徴を比較した。また、本属およびその近縁属の標本を新たに採集し、表在感丘を 4-Di-2-ASP を用いて染色・観察し、側線系の特徴に關する

データを蓄積した。その結果、相模湾から得られた 10 標本は未記載種である可能性が高いと判断された。しかし、本属魚類にはこれまでに報告されてきた知見が著しく乏しい種がいるほか、上述の側線系のデータを未取得の種もいるため、次年度以降も引き続きこれらの不足するデータの収集に努める所存である。

なお、本研究に関連して実施した野外調査や博物館所蔵標本調査の過程で、ハゼ目魚類を中心に分類学・生物地理学上の新知見となるものが多数得られたため、これらについて 24 編の論文にまとめて報告した。

【発表論文 (抜粋)】

・Oyama, D., S. Mabuchi, H. Wada, M. Aizawa, K. Sakamoto & R. Ueshima, 2025. Report on specimens of the subfamily Sicydiinae (Teleostei: Gobiidae) deposited in the Department of Zoology, the University Museum, the University of Tokyo. The University Museum, The University of Tokyo Material Reports, (139): 119-132.

・Oyama, D., H. Saito, M. Fukatani, K. Arao, T. Suzuki & H. Senou, 2026. *Rhinogobius brunneus* collected from Hachijo-jima island: first specimen-based records of the genus *Rhinogobius* (Teleostei: Gobiidae) in the Izu Islands, Tokyo Metropolis, Japan. Aquatic Animals, 2026: AA2026-11.

・Fukatani, M., D. Oyama and M. Aizawa, 2026. Historical museum specimens reveal the identity of “Kuchiguromasu” in Lake Tazawa, Japan, as immature Kunimasu *Oncorhynchus kawamurae*. Ichthyological Research. DOI: 10.1007/s10228-026-01061-2
(ほか 21 編)

外来種オガサワラリクヒモムシ *Geonemertes* sp. の小笠原の昆虫類に与える影響研究

[研究担当者] 加賀玲子

[研究内容]

小笠原に生息し、近年その捕食影響が顕在化している外来の陸生のヒモムシ（和名をムシクイリクヒモムシへの改称が提案されている）は対策が検討される中、その生態についてはほとんど何も解明されていない。そこで今年度は、リクヒモムシを飼育下での食性について観察し知見を得ることを研究の目的とした。

方法：小笠原父島にて捕獲（採集許可取得済）したリクヒモムシを持ち帰り、自宅（神奈川県）屋内のプラスチックケース内で単独飼育。これまでの経験から、ケース内は湿度を保ち、脱出防止のため不織布ではなくストック式排水ネットを蓋として使用した。

結果：ケース内で4月中旬～6月下旬まで生存した。飼育当初4～5cmだった個体が7～8cmまで成長。その間、生きている昆虫類を採取してケース内に与えたところ、ほぼ毎日、特に直翅類（神奈川県で容易に採集できるオンブバッタ、クビキリギスなど）の幼虫は好んで捕食することがわかった。考察：新たに得られた知見として、これまで捕食対象として、主にワラジムシやダンゴムシなどの陸上等脚目が挙げられていたが、直翅類幼虫が捕食対象となりやすいことがわかった。また、リクヒモムシは乾燥には極めて弱い。捕食方法として、餌とする昆虫を捕獲する際には何らかの化学物質を分泌し、この物質に触れると直翅類の幼虫、等脚類は動きが鈍り、次の段階で鎌状の口器を突き刺し、体液を吸う。一方で、ハシムシ、ハムシなどの甲虫の成虫には動きが鈍る反応は見られず、捕食対象とはなりにくいこともわかった。

今後の課題：まだまだ生態は未解明であり、今後は特に複数個体を同時に飼育し、生殖活動についても観察し、いずれは防除方法の開発へとつなげていきたい。

ミミズハゼ属魚類の分類に関する研究

[研究担当者] 斉藤洪成

[研究内容]

ハゼ科ミミズハゼ属の多様化は適応放散の一例とみなされている一方、各種の記載研究は進んでおらず、より発展的な研究を行う際の障害となっていた。この課題について、本年度は新たに標本約900点を当館へ寄贈した。これらと昨年度までの収蔵資料、文献を取りまとめ、日本国内に既知の16種に加え少なくとも23未記載種の存在を確認した。当館にはこのうち12種と19未記載種が収蔵されており、これらは鰭の形状や脊椎骨数、色彩といった特徴により互いに識別が可能である。次いで、神奈川県内には8種と6未記載種が産することが確認された。各種の県内における分布は様でなく、県の東部、中部、西部でそれぞれ出現する種が異なっていた。こうした生息状況をまとめた資料は存在しないため、次年度以降の解決を目指す。

また、伊豆地域の地史に関連して、ナガミミズハゼと、近縁の未記載種ミズヒキナガミミズハゼの分布に着目し情報の整理を行った。結果、前者は日本列島に広く分布する一方、後者は伊豆半島と伊豆諸島の周辺に限定的に分布し、両者の分布域は重複しないことが明らかとなった。日本国内においてフィリピン海プレート上にのみ分布する魚類は複数知られる一方、ミズヒキナガミミズハゼの分布パターンはその中でも特殊であり、本種の分化には伊豆地域が辿った地史が関与している可能性が高い。

これらの研究成果を元に、年度後半には東京海洋大学動植物研究会と協力して小冊子を作成・頒布した。しかし、この冊子は引用に足る体裁が整っておらず、学術的な出版物としては不完全であった。次年度は正式な書籍化に向けた準備を進める所存である。

【発表論文（抜粋）】

・Ogata, Y., H. Wada & H. Saito, 2026. Northernmost and third Japanese records of *Kuhlia sandvicensis* (Perciformes: Kuhliidae) from Chichi-jima island, Ogasawara Islands. Biogeography, 29: 14-20.

(ほか 3 編)

【学会発表】

・斉藤洪成・和田英敏・森下 修・森田康弘・森田康平・小林修一・内野啓道・瀬能 宏, 2025. 小笠原諸島沿岸の魚類相研究の現状と課題. 2025年度日本魚類学会年会, 東京.

日本産ジョウカイボン科昆虫の分類学的研究

[研究担当者] 高橋和弘

[研究内容]

現地調査を以下の通り実施した。論文については、本年度の調査結果に加えて過去の調査によって得られた資料を中心に作成し、以下のとおり投稿し、受理された。

現地調査（いずれも令和7年）

4月3～6日 与那国島

新種の可能性がある個体が見られている与那国島で調査を行った。その結果、記載に必要な標本が得られ、中村涼氏との共著で論文を発表することができた。

4月23～26日 御蔵島

ジョウカイボンのファウナに関して未知の部分が

多い、御蔵島について御蔵島村の調査許可を得て行った。結果は2種の確認にとどまったが、そのうちホンシュウチビジョウカイは、本島新記録となる。6月12～13日 岐阜県

本年度も岐阜県のビボソジョウカイについて追加調査を行った。新たな発見は無かったが、ファウナの特徴について理解することができた。

7月2日 山梨県筑が岳

南アルプス東部に位置する筑が岳で亜高山帯の調査を行った。

これ以外に、レッドデータ調査に協力して、丹沢山地で3回の調査を行った。

【発表論文】

Takahashi, K. & M. D. Mahadimenakbar, 2025. Notes on the genus *Asiosilis* Wittmer, 1977 (Coleoptera, Cantharidae, Silinae) in northern Borneo. *Zootaxa*, 5737(1): 67-95.

Nakamura, R. & K. Takahashi, 2025. A new species of the genus *Malthinellus* (Coleoptera: Cantharidae: Malthininae) from Yonaguni-jima Island, the Ryukyus, Japan. *Japanese Journal of systematic Entomology*, 31(2): 310-312.

高橋和弘, 2025. 北海道を除く日本産 *Rhagonycha* 属の解説と新分布記録. さやばねニューシリーズ, (57): 43-46.

大陸アジアに生息する霊長類の行動生態

[研究担当者] 吉川 翠

[研究内容]

本年度は主にイヌの威嚇に対して、サルはどういう反応を示すかについて研究した。タイ北部のタム・パ・タ・ボン野生生物保護区には準絶滅危惧種のアッサムモンキー (*Macaca assamensis*) が生息している。保護区の周辺地域では民家等でイヌ (*Canis lupus familiaris*) が飼育されており、イヌはサルに近づき威嚇をすることがある。そこで、本地域のアッサムモンキーのA0群を乾季に終日追跡して、イヌがサルの群れへ近寄り威嚇をしたときに、イヌの5 m以内にいたサルの反応をビデオに記録し、これを分析した。サルの反応とその頻度については、イヌから威嚇を受けている間、各々のおとなのサルが5秒毎にどういった行動をしていたか (サンプル数943回) を整理して算出した。

イヌの威嚇に対するサルの反応としては、イヌの様子を観察するといった行動の頻度が最も高かった。次に、樹上から身体を乗り出しイヌを注視する、イヌへ襲い掛かるような仕草をする、イヌへ近寄る、逃げる、樹上の移動といった行動をよくしていた。また、イヌを叩く、叩こうとする、木揺すり、イヌを観察しながら採食を続ける、声を出すといった行動もあった。このようにサルの反応には対抗的な行動、逃避的な行動、その他の行動がみられた。また、イヌが接近を開始した時に、サルがしていた主な行動は、ゴミ捨て場を漁る、地面を移動する、サル同士の喧嘩で騒ぐなどだった。イヌがサルの5 m以内に近づき、威嚇を始めてから威嚇をやめるまでは平均1分以下だった。

これらゴミ漁りや地面の移動等がきっかけで始まった威嚇では、威嚇時間は短く、サルには怪我はなかった。一方で、本地域周辺で2022年にアッサムモンキーの若いオスが民家へ侵入し、3匹のイヌに襲われて亡くなった事例がある。また、ネパー

ルやインドの寺院でもイヌがアカゲザルを殺した報告がある (小川ら 2024, Chakraborty et al., 2014)。そのため、集落が近くにある地域に生息するサルにとって、イヌとの関係は時には大きな危険も含むと考えられる。本研究結果については第41回日本霊長類学会大会で発表をした (吉川翠、小川秀司: タイ北部ピサヌロークにおけるイヌの威嚇に対するアッサムモンキーの反応)。今後、イヌの威嚇に対するサルの反応について性別や年齢層における行動を更に分析し研究を進めていく予定である。

生命の星・地球博物館に収蔵されている東京都島嶼部 (伊豆七島・小笠原) のタケ・ササ類標本の再検討

[研究担当者] 支倉千賀子

[研究内容]

生命の星・地球博物館に収蔵されているタケ亜科植物標本のうち、東京都島嶼部 (伊豆七島・小笠原) 産の標本は、本調査で計14シートを確認した。これらはすべて大場達之博士による採集標本であり、八丈島産1シート、神津島産2シート、御蔵島産11シートから構成されていた。分類群はスズダケ属ハチジョウスズダケ、およびササ属ミクラザサ・ミヤマクマザサの計3種で、採集年は1953年、1963年、1967年と比較的古い年代に集中していた。最も多くの標本が確認された御蔵島には、ミクラザサの基準産地であることに加え、今回確認された3種すべてが含まれていた点が注目される。

本研究では、収蔵庫内の標本およびデータベースを用いて探索を行ったが、神奈川県産標本が圧倒的に多く、それ以外の地域産標本は著しく少ないことが明らかとなった。特に東京都島嶼部のような限定された産地の標本探索は困難であり、収蔵標本の偏在が標本情報の把握を難しくしている。また、神奈川県産以外のタケ亜科標本には特殊環境に由来するものも多く、日本の植物相を理解する上で貴重な資料が含まれている。

今後は、収蔵庫内の標本を丹念に調査し、東京都島嶼部産標本の探索を継続するとともに、得られた標本情報をデータベースに反映させることで、標本の利用性向上を図ることが重要である。

野外で採集されたアカハライモリの死体の記録

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

広島県東広島市の広島大学構内の菖蒲園におけるアカハライモリ死体の1999年4月1日の確認事例の中で、アカハライモリの死体の付近に無脊椎動物の死体が確認された。同じ捕食者が吐き出した死体群と考えられた。そのうち、頭部等が欠落したコウチュウ目幼虫は残存する胸部、腹部と尾突起の形状からオサムシ科幼虫の可能性が考えられた。そこで、オサムシ科幼虫の全形と比較するため、現在丸野内に居住する伊豆大島で幼虫の採集を試みた。

2025年3月24日に魚の内臓による腐肉トラップを試みたが、オサムシ科幼虫は確認されなかった。4月7日にマイマイカブリ成虫が確認された。以降、同種幼虫が歩行しているのを確認することはなかった。

その後、文献から、オサムシ科幼虫はピットフォールトラップによって採集され、種によって異なる分

類群の生き餌を捕食することを確認した。腐肉に誘引される性質のものではなく、ピットフォールトラップも規模が必要となるため、当方による採集は困難と考えられた。改めて、文献の検索、識者への問合せを行い、結論を出したい。

日本産ヒゲナガハバチ亜科（ハチ目、ハバチ科）の分類学的研究

〔研究担当者〕加藤優羽

〔研究内容〕

農林業害虫として知られている種が比較的多く、応用研究上重要な亜科である日本産のヒゲナガハバチ亜科のハバチ類を対象に、分類学的な研究を進めた。特に今年度は、本亜科の1属であるミハバチ属 *Hoplocampa* を主要な研究対象とした。本属の種は様々なバラ科の樹木の実に幼虫が穿孔することが知られており、ナシなどの果樹に穿孔する種は農業害虫とみなされている。日本国内からは3種が知られているが、国内では半世紀以上分類学的な研究が行われておらず、ファウナは未解明である。今年度は神奈川県、千葉県、兵庫県で主に4月に野外調査を行うと共に、研究機関に収蔵されている標本の調査を行った。その結果、既知種の他、未記載種を5種確認し、国内には本属の種が少なくとも8種存在することが明らかとなった。

今年度は本属に関する論文の投稿・出版には至らなかったが、現在これらの結果をまとめた論文を執筆中である。

タカハシショウジョウバエの関東平野における季節的な移動Ⅱ

〔研究担当者〕新井健太

〔研究内容〕

タカハシショウジョウバエ (*Drosophila takahashii*) は、分布域を急速に北上させており、その動向が注目されている。関東平野における本種の分布と分散を解明する上で、比較的温暖な神奈川県沿岸部は重要な地域である。本研究では、関東沿岸部から内陸部にかけてサンプリングを行い、本種の季節消長を明らかにすることを目的とした。従来、本種の採集には飲料用紙容器 (1L) 製のバナナトラップが用いられていた。しかし、2024年春以降、野生動物によると考えられるトラップへの攻撃 (鳥獣被害) が顕著となり、最悪の場合にはトラップが全滅することもあり、生態調査が困難になった。そこで、2024年に新たな採集方法を確認し、2025年にはその方法が通年で安定して利用できるかを確認した。

具体的には、前年調査で安定的に採集が可能だったポイントにバナナトラップを設置し、これらを周回して昆虫を採集し、液浸標本を作製した。神奈川県、東京都、埼玉県において、毎月13個のトラップを約1週間設置し、2025年1月から12月までに合計156個のトラップを設置した。その結果、トラップの紛失は神奈川県で6月に1件のみであり、年間被害率は1%未満であった。これにより、硬いプラスチック製トラップへの変更および設置方法の工夫が (令和6年度研究成果報告書)、安定的な採集に有効であることが確認された。

今後は、この方法を基礎としてデータ量の充実を

図ることが課題である。特に、個体数が少ない低温期の対策が求められる。横浜市沿岸部では、2025年3月に採集できたショウジョウバエは177頭であり、春先の種構成を論じるには不足であった。また、採集日によって収量の変動も大きかった。低温期でも十分なサンプルを確保できる方法の検討が、季節消長の解明に不可欠である。

平山断層周辺の断層とクラック

〔研究担当者〕中村 俊文

〔研究内容〕

山北町平山には左横ずれ逆断層で有名な平山断層がある。これまで数多くの報告がなされてきたが、今回、平山断層周辺で断層及びクラックを発見したので報告する。山林を抜け高さ約10 mの急崖を下ると酒匂川の川原に着く。川原は上空から見ると北に開いた幅約50 m・U字形の河食崖である。崖は下位から第四紀更新世の足柄層群、その上位に巨礫からなる河床堆積物、火山灰・土壌が堆積している。足柄層群は主に薄い砂岩層を挟む砂質泥岩層で日向層に属し、地層の走向・傾斜はN20°E～NS～N24°W・16°～71°Wで、東から西に向かい傾斜が大きくなる。

U字形の川原の左 (西) 側には、川原から山に伸びる長さ約20 mの平山断層が見られる。平山断層の上盤は足柄層群瀬戸層、下盤は日向層及び河床堆積物・火山灰の地層で、瀬戸層が日向層・河床堆積物・火山灰と断層の関係で接している。なお、瀬戸層は日向層よりも新しく、数万年前の河床堆積物よりも古い。断層の走向・傾斜はN27°～37°E・55°～65°W (ピッチ47°～50°) の左横ずれ逆断層で、厚さ数cmの断層ガウジが見られる。

今回の報告は、U字形川原の崖に見られる断層と多数のクラックである。主な断層は足柄層群日向層中に見られるもので、層理に沿って入ったように見える。断層の走向・傾斜はN10°～20°W・20°～40°Wである。厚さ約1 cmの断層ガウジが入り、断層ガウジを挟み最大幅20 cmで泥岩が角礫状に破碎されている。また、日向層中には本断層に切られる断層が見られ、その走向・傾斜はN10°～40°E・28°～75°Wである。この断層は上方に伸びて上位の河床堆積物を切っているように見える。日向層中にはクラックが多数見られ、クラックに沿って水の浸み出しが顕著で、上位の河床堆積物を切り、約20 m上方の地表付近までクラックが達している可能性がある。これらの断層とクラックの関係は不明瞭であるが、断層の延長がクラックに変化するように見え、平山断層の発生に伴い生じた断層・クラックの可能性はある。

本研究にあたり、山林に入り調査する許可をいただいた地主の小瀬政一氏、また、神奈川県立生命の星・地球博物館で岩石薄片の作成や全岩化学組成分析をお願いすると共に、適時に指導・助言をいただいた山下浩之学芸員に感謝申し上げる。

領家変成岩のジルコン U-Pb 年代測定

〔研究担当者〕中島 隆

〔研究内容〕

日本列島で最大の深成変成帯である領家帯について、この20-30年ほどの間に数多くのジルコン

U-Pb 年代が報告され、それまでほとんど K-Ar 法による冷却年代しか得られていなかったのが、直接マグマ活動の年代が求められることで、深成変成作用のダイナミックなプロセスが論じられるようになった。しかし U-Pb 年代が報告されたのはほとんど花崗岩類に代表される深成岩類であり、変成岩類の U-Pb 年代は大きく立ち遅れていた。その理由は変成岩に含まれるジルコンに特有の問題によるものであった。

始生代のクラトンに見られるような超高温変成作用ではジルコンが形成されることもあるが、領家変成作用はそこまで高温でないでその条件下でジルコンが形成されることは稀であり、変成作用によって形成されたジルコンが例外的に観察できるのは、ミグマタイト中に含まれるジルコン粒において、変成される前の原岩に含まれていた残留ジルコンの周囲に部分熔融から晶出成長したリムの部分が認められる時に限られる。

しかし通常この二次成長リムは非常に幅が狭く、ICP-MS や SHRIMP などを用いるレーザーやイオンビームの径より広い部分を選んで照射しなければならない。ビームの一部がコアの部分にかかっているとコアの古いジルコンの年代との混合になってしまい、変成作用の年代をあらわさないで、測定前にカソードルミネッセンス像などでジルコン粒の内部構造を詳しく調べ、二次成長リムの有無やその厚さを確認した上で測定するジルコン粒と測定点を決定する必要がある。地質屋は岩石試料を年代測定ラボに送りつけて結果の数字だけを受け取っていたそれまでの年代測定の方法論が大きな変革を迎えた。

今回、中部地方三河地域と中国地方柳井地域の領家変成岩最高温部に産するミグマタイトのそれぞれリュウコゾームとメラノゾームからジルコンを別々に抽出し、上記の検討を入念に行なった上で極地研究所の SHRIMP を用いて U-Pb 年代を測定した。その結果、三河地域では $87.1 \pm 0.5\text{Ma}$ と $87.4 \pm 0.2\text{Ma}$ 、柳井地域では $97.3 \pm 0.7\text{Ma}$ と $97.4 \pm 0.4\text{Ma}$ の年代が得られた。これらはそれぞれの地域に分布する領家花崗岩類の年代と調和的であり、白亜紀西南日本で広域的に起こった深成変成作用の進行プロセスを描述するのに不可欠な素材データとなる。

十脚甲殻類の分類における形態形質の再評価

〔研究担当者〕小西光一

〔研究内容〕

近年の分子系統学の進展にともない、十脚甲殻類においても従前の分類体系との整合性を再検討すべき面が出てきており、分類群によってはこれまでの形態形質を精査することが必要となっている。しかしながら、たとえば深海性で稀産の分類群の場合、生体のみならず標本でもサンプル数は少なく、これらの付帯情報にも乏しいために、これまで十分な比較検討する場があったとは言えないのが現状である。

今年度は深海・稀産のセンジュエビ科 (Family Polychelidae) を対象とし、博物館に保管されているの標本の一部を調査するとともに、これまでに報告のある種において使われてきた形態形質の検討を行った。その結果、従前の判別形質、たとえば頭胸甲側縁の棘数などで、変異により必ずしも安定しな

いとみられる例もあり、今後はより多くの個体データを積み重ね、発育段階や地域差も考慮して再検討する必要があると思われた。これに加えてわが国においては、これまでの本科の和名に同物異名や逆の異物同名などの混乱があることも明らかになった。これらの歴史的経緯と現状を今後の本分類群の分類学的研究における情報として整理した。また近年の分子系統学による分類体系に基づき、現在までの分類形質も勘案した上で、日本および近海産の 6 属 14 種についての暫定的な検索表を作成した。これらの成果の一部は学術誌に投稿した。次年度は残った標本について調査を継続する予定である。

愛鷹火山の地質

〔研究担当者〕山口恭介

〔研究内容〕

愛鷹火山に関しては東京大学地震研究所の由井将雄・藤井敏嗣 (1989) により、テフロクロノジーの手法に基づいて地質図が示されている。また、その地質図をもとに、高橋・西・三島・金丸 (2015) により愛鷹火山で採取した岩石の全岩分析結果も示されている。今回、この地質図の見直しをするために、現地調査の後、採取した岩石の XRF 分析を実施した。その中で、愛鷹火山と同時期の噴火とみられている、箱根火山の岩石と、愛鷹火山の後に活動した新富士火山の岩石の分析も行い、比較検討を行った。本年度の分析は、愛鷹火山 80 個、富士火山 37 個、箱根火山 11 個である。

これまでの分析結果から、愛鷹火山東部の桃沢川の水神社付近に分布している、桃沢溶岩と呼ばれる岩石に特徴が見られた。他の愛鷹火山の岩石に比べると、高い P_2O_5 含有量と Sr 含有量が特徴的であり、今後の考察に生かすことを考えている。

今後は、更に調査範囲を広げながらサンプル数を増やして詳細な考察をしていきたいと考えている。また、桃沢溶岩の分布域より湧き出ている桃沢川周辺の地質を詳しく調べ、湧き出る仕組みについても考察していきたいと考えている。

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究

〔研究担当者〕中村進一

〔研究内容〕

2020 年から始まった神奈川県産 RD 種 (レッドデータ種) 調査において、筆者が分野リーダーとしてこれまでに蓄積したデータと調査期間中の現地調査のデータをもとに選定作業を進めた。チョウ類では前報 (2006 年) では、44 種類が選定されていたが、今回は 64 種が掲載種となった。

これは記録種の、49.6% と半数近くが選定された結果となり、現状の深刻さを反映している。

掲載種数が多いことともに、種類によっては個体数が激減していることに驚かされた。減少には、様々な要因があり、激化する様々な環境変化に起因すると推察される。近年顕著になった気候変動では温暖化やゲリラ豪雨、乾燥化が挙げられ、また地域によってはシカによる食草の被害、そして、急増する人間が関わる物流の遠距離移動や移動の速度上昇も外来種の拡散に寄与していると考えられ、アカボシゴマダラやムシクロツバメシジミなど、意図的に放逐されたものや、園芸植物に随伴して定着した外来種

とされるチョウが増加している。

温暖化の影響と思われる分布拡大種としては、ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウなどのように、かつて本県に生息をしていなかった種が2000年以降定着して、発生を繰り返している。最近では、イシガケチョウが住み着きはじめている。

一方、シカによる食害での影響を強く受けたと思われるのは、唯一、安定した発生をしていた山北町三国峠周辺のヒメシロチョウ生息地で食草（ツルフジバカマ）がシカ食害によって激減し、確認すら出来ない時期もあった。そのため、前報（2006年）では絶滅とした。幸い、今回の調査で辛うじて極少数の個体と食草が確認された。もう1種、神奈川県指定の天然記念物であるギフチョウは、現在では相模原市石砂山周辺のみにて生息しているが、シカによる食害の影響で食草のカントウカンアオイが激減して、発生数も激減している。シカへの緊急対策として保護柵の設置が始まっている。

今回、長期間確認記録が途絶えていたホシチャバネセセリの再確認を目的として調査を継続したが、残念ながら確認することが出来なかった。結果、前回の絶滅危惧種から絶滅種とした。

絶滅危惧種IAランクとされているクロツバメシジミは、豪雨等の影響か食草の自生するガケや斜面が崩落して生息場所を失いつつあり、そこへ同属の外来種ムシクロツバメシジミの食草が幅広く広がっており、競合によって食草を脅かすことと、生息ニッチの競合も危惧される。

前回リストで「絶滅」と判断をしていたツマグロキチョウが発見されたことは、手放しでは喜べない理由もある。それは、斜面地や荒れ地等にアレチノカワラケツメイ（北米原産の外来種）が出現して；それを食草として発生をしている可能性がある。その真相も、今後調査を重ねて解明して行きたい。

現状、様々な環境変化のスピードが速まり、想定しなかった種が絶滅危惧となり得るので、引き続き長いスパンで生息状況を把握していく活動をしていきたいと思っている。

地衣類の共生系の再形成手法の改良

[研究担当者] 石原 峻

[研究内容]

本研究では、真菌類（地衣菌）と藻類（共生藻）からなる共生体である地衣類を用いて、その共生系を培養環境下で人工的に形成させる実験系（地衣体再形成手法）の改良や検証を行うことを目的としている。

これまでにゴンゲンゴケ *Hypotrachyna osseocalva* の地衣体から地衣組織培養物を作製して地衣菌と共生藻を脱共生化させ、これらを植え替えて継代組織培養物（以前は“分離培養物”と表記）とし、さらに継代組織培養物を糖無添加の Lilly-Barnett プレート培地に植え替え、明期18時間、暗期6時間の光条件の下で3つの生育基物条件（寒天培地上、スライドガラス上、バルサ材上）で培養する地衣体再形成実験を行った。一部で培養物の形態の変化やUV光照射による蛍光が見られたものの、1年半以上が経過しても明確な地衣体再形成は確認されなかった。

昨年度末の2025年3月からは、新たな生育基物条件として、ケヤキとスギ、サクラの樹皮付きの木材から樹皮ごと切り出して2-3cm四方の大きさに成形した木片を樹皮の面を上にしてプレート培地上に置き、さらにその上に継代組織培養物を置いてヘラ付き葉匙で粗く潰し、光条件下で地衣体再形成実験を開始した。今年度は、この培養物の植え替えと観察を1, 2ヶ月おきに6ヶ月以上にわたって継続した。その結果、樹皮上に菌や藻類の塊が現れ、菌と藻が隣接している箇所もあったが、明確な地衣体再形成は確認されなかった。また、ケヤキやスギの樹皮の表面には、白い菌糸体が形成されていた。再形成培養物のサンプルを木片ごと凍結乾燥させて低真空卓上SEM（卓上顕微鏡 TM4000plus, 日立ハイテク製）で観察してみたところ、菌塊表面の薄褐色の菌糸は縮れており、その表面は粘液質の物質に覆われているかのように凸凹しており、何本かの菌糸同士で癒合しているように見えたが、一方で白い菌糸体の菌糸は、その表面は滑らかで、癒合しておらず、アセトン洗浄したゴンゲンゴケ地衣体の泡芽やその崩壊部で見られた菌糸にやや類似していた。

この白い菌糸体に着目して、樹皮表面に再び白い菌糸体を形成させるために、2026年3月に新たな再形成培養を開始した。白い菌糸体のサンプルを再び得られれば、培養元のゴンゲンゴケの地衣体とのDNAの同一性を確認した上で、この白い菌糸体を用いた地衣体再形成に取り組む予定である。

富士山南面における変形菌とトビムシの相互関係

[研究担当者] 矢野倫子

[研究内容]

自然生態系において、枯死木に発生する変形菌とダニ目、双翅目、鞘翅目などの動物群との相互作用に関する研究はこれまでに報告されてきたが、変形菌とトビムシ類との相互作用に関する研究は限られている。そこで本研究では、両者の関係を明らかにすることを目的とした。

2024-2025年度にかけて、森林生態系における変形菌とトビムシ類の相互関係を把握するため、両者を同時に採集する吸引方法を工夫した。室内では、採取標本を顕微鏡下で観察し、変形菌の種ごとにトビムシ類の個体数密度および孢子摂食行動を分析・比較した。その結果、調査地の枯死木に発生する変形菌中に、10科のトビムシ類を同定し、そのうち8科で、変形菌類の孢子や子実体の一部を摂食することが観察された。さらに、3種の変形菌類 (*Cribraria cancellata*, *C. macrocarpa*, *Trichia decipiens*) について、子実体中におけるトビムシ類の個体数密度および摂食率の変動を解析した結果、*C. macrocarpa* では、子実体が存在する場所におけるトビムシ類の個体数密度が有意に高かった。一方、無摂食個体の密度も他の2種より有意に高く、トビムシ類は、孢子摂食のみを目的として子実体を訪れているわけではない可能性が示唆された。本研究は野外観察と採集に基づき、変形菌類とトビムシ類との関係を定量的に評価した研究である。

本研究の成果は、Mycoscience 誌において論文として受理された。現在、さらに変形菌類の形態的特質とそれらを訪問するトビムシ類の関心に着目し、解析した論文を作成中である。

【論文】

Yano, M. & T. Nakamori, 2026. Population density and spore-feeding behavior of collembolans in the presence or absence of myxomycete fruiting bodies. *Mycoscience*. 67(2):32 – 42. doi: 10.47371/mycosic.2025.12.002

日本におけるコケ植物生チャワントケ目菌の多様性調査

[研究担当者] 細野天智

[研究内容]

菌類は生態系において様々な生物と相互作用をしていることが知られている。その一つにコケ植物と関わって生きるコケ植物生菌がある。これは菌界のほとんどの門に存在するが、特に子囊菌門から多く知られ、チャワントケ目からは約 200 種が報告されている。ただし、これらの種の報告は欧米が主であり、アジアからは限られている。特に日本においてはこれまで 3 種のみしか報告がなく、その多様性は未知である。本研究では、日本のコケ植物生チャワントケ目菌の多様性を明らかにすることを目的に調査を実施した。

本年度は屋久島含む日本各地で調査を実施し、神奈川県、千葉県、栃木県、福島県、群馬県、長野県、山梨県、島根県、山口県、鹿児島県、沖縄県にて、36 標本のコケ植物生チャワントケ目菌を採集および協力者から標本提供頂いた。本研究の成果として、3 種のコケ植物生チャワントケ目菌（マルミノキンシゴケチャワントケ *Lamprospora dicranellae*, ハタケゴケチャワントケ *Neottiella ricciae*, スギゴケチャワントケ *Octospora humosa*）を日本新産種として報告した。

【学術発表】

細野天智, 鶴沢美穂子, 折原貴道 (2025) 子囊殻様の特異な形態を持つコケ植物生菌 *Octosporrella brevibarbata* (チャワントケ目, ピロネマキン科) の日本新産報告. 2025 年 5 月 18 日, 一般社団法人日本菌学会第 69 回大会, 千葉.

細野 天智 (2026) コケ植物生菌の世界 ～ 日本で見つけ始めたコケと生きるキノコたち. 2026 年 1 月 17 日～2 月 8 日, 特別展「ぐんまの自然の『いま』を伝える」, 群馬県立自然史博物館, 群馬.

【原著論文】

Hosono, A., M. Ohmae, M. Uzawa, T. Furuki, Y. Degawa & T. Orihara (2026) Bryophilous Pezizales in Japan: First records of three rare species—*Lamprospora dicranellae*, *Neottiella ricciae*, and *Octospora humosa* agg. *Ascomycete.org*, 18: 3-12. doi: 10.25664/art-0425

【研究助成金獲得状況】

一般社団法人日本菌学会 「公益財団法人発酵研究所 令和 6 年度 (2024 年度) 学会・研究部会助成」に基づく学会員への研究助成 (分野 B). 2024 年 4 月 -2026 年 3 月 研究課題: 日本におけるコケ植物生チャワントケ目菌の多様性調査.

未記載植物寄生菌 *Exobasidium* の同定

[研究担当者] 長尾英幸

[研究内容]

本年度は 3 種の *Exobasidium* 属菌 (もち病菌) の採集と同定を行った。

1. クロフネツツジ (*Rhododendron schlippenbachii* Maxim.) 平もち病 (新病害) を 6 月 21 日に岩手県盛岡市上田岩手大学植物園で採集した。本菌は展開葉に寄生し、肥大しない円形病斑を起こした。徒手切片による病態解剖を行い、病斑部分の観察を行った。培養株の遺伝子同定の結果はミツバツツジ類平もち病菌 *Exobasidium yoshinagae* と *E. dubium* に相同性は近かったが、同種と同定するほど高くはなかった。大韓民国では *E. yoshinagae* の報告 (Park et al. 2006) がある。子実層の形態を含め検討を続ける。

2. アマギツツジ (*Rhododendron amagianum* Makino) 平もち病 (新病害) を 6 月 29 日に静岡県伊豆市菅引 (天城山 - 万三郎岳入口) で採集した。本菌は展開葉に寄生し、肥大しない円形病斑を起こした。徒手切片による病態解剖を行い、病斑部分の観察を行った。培養株の遺伝子同定の結果はもち病菌との相同性が確認できなかったため、来年度再採集の予定。

3. シラタマノキ (*Gaultheria pyrolloides* Hook. f. et Thomson ex Miq.) 平もち病 (新病害) を 7 月 22 日に福島県福島市浄土平 (磐梯朝日国立公園) で採集した。本菌は展開葉に寄生し、肥大しない円形病斑を起こした。徒手切片による病態解剖を行い、病斑部分の観察を行った。培養株の遺伝子同定の結果は既知のもち病菌とは一致しなかったが、ハナヒリノキ属、ネジキ属およびスノキ属もち病菌が相同性上位であった、中華人民共和国での報告 *Exobasidium pyrolloides* ZhenYing Li & L. Guo と形態と病徴が一致したが、遺伝子の登録はないため、相同性は確認できなかった (Li & Guo 2008)。

菌株保存機関への寄託及び本博物館への標本寄贈を併せて行う予定である。これらの情報を含めた論文などを投稿準備中である。採集許可を頂いた関係機関に感謝申し上げる。

成果の発表に関しては、1. ヤブツバキふくろもち病菌の新組合せ記載 (転属) を 10 月 14 日に屋久島で採集したヤクシマツバキに発生したふくろもち病 (新宿主) を併せて論文投稿中; 2. カンザブロウノキもち病菌の遺伝子系統樹の位置を論文投稿中。

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

[研究担当者] 山口喜盛

[研究内容]

県内に生息する希少コウモリ類の分布状況と昼間の休息場を把握するために、県西部および北部地域において調査を行った。

①発生音によって識別ができるキクガシラコウモリ類については、各地においてバットディテクター (ソングメーター) を使用して、音声解析を行った。また、昼間の休息場である洞穴や用水路、隧道などで目視による確認を行った。

その結果、キクガシラコウモリとコキクガシラコウモリの新たな生息地を確認した。キクガシラコウ

モリについては新たなコロニーを確認した。

②これまでにわかっているヤマコウモリの春期のねぐらにおいて、越冬期の利用状況を調べたところ、2カ所において越冬期のねぐら利用が確認された。

③これまでアブラコウモリ以外のコウモリ類の記録がない大磯丘陵において、ハーブトラップによる捕獲調査とバットディテクターによる音声調査を行ったところ、新たにユビナガコウモリの生息を確認した。

神奈川県内におけるムササビの分布

[研究担当者] 青木雄司

[研究内容]

神奈川県のムササビ分布については、2006年発行の神奈川自然誌資料に「神奈川県におけるムササビの分布」として青木らによって報告された。それから15年以上経過したが、分布に変化が起きているのかを明らかにすることを本調査の目的としている。

今年度の調査については、以下の通り実施した。

- ・分布の最前線と考えられる場所の調査を実施した。
- ・前年度に引き続き、採集した糞を標本として整理した。
- ・データの整理を実施した。

イズハナダイ属魚類の日本初記録および形態的な類似種との比較

[研究担当者] 本田康介

[研究内容]

ハナダイ科イズハナダイ属魚類の1種 *Plectranthias inermis* Randall, 1980 に同定される琉球列島産の1標本を、本種の日本初記録として報告し、新標準名をレンガハナダイを提唱した。また同時に、本館の所蔵標本を活用して、レンガハナダイと形態的に酷似し、色彩以外の形態的特徴での種の識別ができなかったチゴハナダイ *Plectranthias altipinnatus* Katayama and Masuda, 1980 との詳細な形態比較を行った。その結果、①背鰭第10棘（最後棘）長の背鰭第1棘長に対する割合、②臀鰭第2棘長の頭長に対する割合、③背鰭基底長の体長に対する割合、の3点において、両種は形態的に識別可能であることを明らかにした。

なお、相模湾内の伊豆半島東岸からは、チゴハナダイ及びレンガハナダイと形態的に似る未記載種の可能性の高い標本が複数得られており、新種記載に向け、継続して研究中である。

その他、【令和7年度出版論文】のとおり、琉球列島宮古諸島においてイトウダイ科ホソエビス *Neoniphon argenteus* (Valenciennes, 1831) の、相模湾においてボラ科タイワンメナダ *Moolgarda seheli* (Fabricius, 1775) の、それぞれ新分布記録を報告した。

また【令和7年度国内学会発表】のとおり、令和7年度に開催された第79回魚類史研究会や第59回日本魚類学会における本館の和田英敏学芸員（魚類担当）等との共同発表において、2024年に筆者らが本館の「神奈川県立博物館研究報告」において発表した「相模湾産魚類目録（改訂）」を基礎として、相模湾における1940年代以前の魚類相と現在の魚

類相の比較を行い、出現する魚類の南方化傾向が見られること等を報告した。

【令和7年度出版論文】

1. 本田康介・和田英敏, 2025. 宮古諸島初記録のイトウダイ科魚類ホソエビス. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 57: 40-43. (査読あり).
2. 本田康介・和田英敏, 2025. 琉球列島から得られたハナダイ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias inermis* レンガハナダイ（新称）の日本初記録および *P. altipinnatus* チゴハナダイとの形態比較. 魚類学会誌, 72(2): 215-222 (査読あり).
3. 福地伊芙映・田中翔大・本田康介・和田英敏, 2026. 相模湾から得られたタイワンメナダ. 神奈川自然誌資料, 47: 105-107 (査読あり).

【令和7年度国内学会発表】

1. 和田英敏・有年由貴子・瀬能宏・本田康介・藍澤正宏, 2024. “古標本” から辿る1940年までの相模湾産魚類相と現在までの変遷. 第79回魚類自然史研究会, 2024. 12. 14 (神奈川)
2. 和田英敏・有年由貴子・瀬能宏・本田康介・藍澤正宏・畑 晴陵, 2025. 1940年以前に得られた古標本および文献資料に基づく相模湾産魚類目録および近年の魚類相との比較. 第59回日本魚類学会, 2025. 11. 23 (東京)

宮崎県沿岸含む日向灘の魚類相および海産魚類生物地理区の解明

[研究担当者] 緒方悠輝也

[研究内容]

本年度は、宮崎県を含む東九州沿岸域の生物地理学的な位置づけを明らかにすることを目的に、魚類相調査および標本資料の収集・蓄積に注力し、調査で得られた魚類標本および写真資料について、博物館への登録・配架作業を進めた。その際、新たに確認された種や生物地理学上重要な種については、適宜、論文として公表した。また、過去に神奈川県や小笠原諸島で行った調査で集めた標本等についても、分類学的・生物地理学的に重要な知見を順次公表することを目指した。さらに、地域社会への還元として、宮崎県門川町周辺の水生生物のガイドブックの編集・出版にも携わった。

次年度も引き続き、宮崎県および関連地域における標本・写真資料の収集と博物館への登録を継続し、さらなる知見の公表を目指す。

【発表論文】

- ・日比野友亮・緒方悠輝也・松重一輝・栗原 巧・是枝伶旺・和田英敏・星野和夫, 2026. 九州におけるカマキリ *Rheopresbe kazika* (スズキ目カジカ科) の分布. 九州大学総合研究博物館研究報告第23号: 79-92.
- ・岩倉 基・栗原 巧・緒方悠輝也・村瀬敦宣, 2025. 門川湾から得られた標本に基づくハナツノハギの宮崎県からの記録. 宮崎の自然と環境 10: 58-60.
- ・Kurihara T, Y Ogata & A. Murase, 2025. Southernmost specimen-based records of the Ishikawa Icefish *Neosalangichthys ishikawae* from Miyazaki Prefecture, Japan. *Biogeography* 28: 7-12.
- ・緒方悠輝也・釜井涼太, 2026. 相模湾および相模

湾内流入河川におけるシロウオ（ハゼ科）の分布と生息状況. 神奈川自然誌資料 (47): 29-33.

・緒方悠輝也・三井翔太・中村勇也・山田博和・村崎謙太, 2025. 市民科学的手法により発見された外来魚: 神奈川県東京湾からの西大西洋固有のタイ科魚類 *Lagodon rhomboides* の記録と耳石を含む標本記載. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 59: 8-13.

・緒方悠輝也・武田 樹・林 公義・山田和彦, 2025. 三浦海岸に打ちあがった相模湾2例目のアカナマダ. 観音崎自然博物館研究報告たたらはま 29: 27-28.

・Ogata Y, H. Wada & H. Saito, 2026. Northernmost and third Japanese records of *Kuhlia sandvicensis* (Perciformes: Kuhliidae) from Chichi-jima island, Ogasawara Islands. Biogeography 29: 14-20.

・Ota Y, R. Sakamoto, Y. Ogata, T. Kurihara & A. Murase, 2025. Comparing ichthyofaunal composition between *Zostera japonica* beds (Plantae, Alismatales, Zosteraceae) and adjacent bare ground within a small temperate estuary in southern Japan. Acta Ichthyologica et Piscatoria 55: 385-392.

・田林 藍・阪本竜也・緒方悠輝也・村瀬敦宣・長友伸二郎, 2025. 串間市で撮影された水中写真に基づく宮崎県初記録のフエフキダイ科魚類カグツチヨコシマクロダイ. 宮崎の自然と環境 10: 61-62.

【出版物】

・村瀬敦宣・緒方悠輝也・阪本竜也・栗原 巧・岩倉 基, 2026. 森が水を育むまち 門川町周辺の水生生物ガイドブック. 宮崎大学農学部附属次世代農学教育研究センター延岡フィールド.

3.10. 名誉館員

神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員称号授与要綱に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員等を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名（認定年月日）」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士 (2000年4月1日) (2011年逝去)
青木淳一 (2006年4月1日) (2022年逝去)

斎藤靖二 (2023年4月1日)
平田大二 (2023年6月1日)

学芸員

高橋秀男 (2000年4月1日) (2019年逝去)
村岡健作 (2000年4月1日) (2025年逝去)
生出智哉 (2000年4月1日) (2021年逝去)
松島義章 (2002年4月1日) (2021年逝去)
中村一恵 (2004年4月1日) (2015年逝去)
今永 勇 (2005年4月1日)
奥野花代子 (2009年4月1日)

山口佳秀 (2012年4月1日)
高桑正敏 (2012年4月1日) (2016年逝去)
新井一政 (2013年4月1日)
笠間友博 (2019年4月1日)
勝山輝男 (2019年4月1日)
広谷浩子 (2022年4月1日)
瀬能 宏 (2024年4月1日)

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2026年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は下表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料実績に関しては、当館ウェブサイト年報第31号Ⅲ資料3. 統計資料に掲載した。この登録件数は、資

料番号を付したものを計数したもので、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、登録点数は、枝番を付したのもも個別に計数した数である。

収蔵資料の登録実績

分野	2025年度の登録件数	登録件数の合計	2025年度の登録点数	登録点数の合計
【資料】〈標本〉				
維管束植物	2,570	362,567	2,598	369,210
植物群落	0	264	0	264
コケ	0	9,519	0	9,519
菌類・変形菌類	767	34,315	767	34,315
藻類	4	4,579	4	4,579
植物その他	0	1,728	0	1,730
魚類	6,148	91,070	9,237	165,041
哺乳類	33	6,646	33	6,715
鳥類	51	3,459	51	3,468
両生類	33	1,669	33	1,669
爬虫類	89	1,206	89	1,206
軟体動物	173	39,065	173	39,065
甲殻類	433	22,922	433	22,922
動物その他	9	225	9	225
昆虫	4,481	97,362	4,481	97,362
クモ	0	1,358	0	1,358
化石	401	24,860	1,296	31,728
岩石・火山灰・隕石・砂	235	19,462	235	19,895
鉱物	18	40,503	18	40,536
地質・ボーリング	4	16	4	16
地学その他	0	38	0	38
はぎ取り	0	75	0	111
衛星画像	0	1,110	0	1,110
地図類画像	19	538	19	546
小計	15,468	764,556	19,480	852,628
【資料】〈アーカイブズ〉				
維管束植物画像	24	2,035	24	2,043
魚類写真	11,201	257,247	17,856	345,391
哺乳類写真	0	400	0	1,109
鳥類写真	0	1,168	0	1,649
両生類写真	178	865	178	1,304
爬虫類写真	60	263	61	607
昆虫写真	0	2,257	0	2,260
クモ写真	0	1	0	1
衛星処理画像	1	174	1	174
景観画像	0	18,159	0	18,160
博物館活動	2,079	61,953	2,079	61,970
地層	95	95	159	159
菌類細密画	0	458	0	539
甲殻類細密画	0	1,518	0	1,518
小計	13,638	346,593	20,358	436,884
収蔵資料合計	29,106	1,111,149	39,838	1,289,512

4.1.2. 購入資料

購入、収集委託、模型・複製品の製作、資料の修復・修理など、資料収集委員会の審議を経て執行したものを記載した。

【魚類】 合計 27 点

世界の淡水魚類 27 点

【両生類】 合計 2 点

ゴライアスガエル（はく製） 1 点

アフリカウシガエル（交連骨格） 1 点

【爬虫類】 合計 4 点

アメリカドクトカゲ（はく製） 1 点

メガネカイマン（交連骨格） 1 点

アオダイショウ（はく製） 1 点

イリエワニ（交連骨格） 1 点

【鳥類】 合計 3 点

ヤイロチョウ（仮はく製） 1 点

タゲリ（仮はく製） 1 点

ハヤブサ（仮はく製） 1 点

【哺乳類】 合計 16 点

ツキノワグマ（なめし皮） 4 点

ニホンジカ（なめし皮） 1 点

ハナゴンドウ（晒骨格） 1 点

鰭脚類（なめし皮） 10 点

【衛星画像】 合計 3 点

海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ

M7001 関東南部 (D7001S-2) 1 点

M7002 遠州灘 (D7002S-2) 1 点

M7004 鹿島灘 (D7004S-2) 1 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2025 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数 [寄贈者 (敬称略)]」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する

資料名、合計件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。登録件数は、標本 14,214 件、アーカイブズ 9,988 件である。

【維管束植物】 合計 2,385 件

【菌類・変形菌類】 合計 591 件

シロツブタケ（広義）ほか 4 件

ザラツキカタカワタケ 1 件

アメリカウラベニイロガワリ（広義） 1 件

コアラホウキタケ 1 件

スティクティス属の一種ほか 19 件

トガリツキミタケ 1 件

ケナワタケ 1 件

シロキクザタケ 1 件

ツガサルノコシカケほか 13 件

シロキツネノサカズキほか 2 件

カキシメジモドキ 1 件

ジャガイモタケ 1 件

カスガトマヤタケ 1 件

シロクロハツほか 7 件

Entrophospora pallida 1 件

マンネンタケ 1 件

ウラムラサキシメジ類似種 1 件

カバイロコナテングタケ 1 件

ハイイロイタチタケ 1 件

トリコデルマキン属の一種ほか 2 件

バイタケ（地方名） 1 件

トリコデルマキン属の一種 1 件

クロニセホウライタケ 1 件

コノハシメジ 1 件

ジャガイモタケほか 12 件

ジャガイモタケ 1 件

カスレホシミノタマタケほか 2 件

シラタマタケ 1 件

オオショウロほか 2 件

チチショウロ 1 件

ステファノスポラ属の一種 1 件

キチャモリノカサ 1 件

アシナガヌメリほか 8 件

サトタマゴタケ 1 件

スギタケ属の一種ほか 7 件

オオシトネタケ 1 件

トガリアミガサタケ 1 件

セイヨウショウロ属の一種ほか 3 件

アワタケヤドリ 1 件

アカダマタケ 1 件

ヤミイロクヌギタケ 1 件

アオゾメツチダマモドキ 1 件

ハルノベニチャタケ（青木仮称）ほか 2 件

ジャガイモタケほか 9 件

Elaphomyces citrinus 類似種 1 件

ゼニゴケツブチャワントケ 1 件

ヤケアトスイライカビ 1 件

ジャガイモタケ 1 件

ツチクラゲほか 2 件

ミドリコケビョウタケ 1 件

ツチヒラタケ属の一種ほか 2 件

カブラテングタケ類似種ほか 12 件

ジャガイモタケほか 8 件

コノハシメジ 1 件

カヤバノクヌギタケほか 4 件

ドクシロテングタケ（池田仮称） 1 件

クロハツモドキ類似種 1 件

キハマダイダイゴケ（仮称）ほか 30 件

ステファノスポラもどき（仮称）ほか 13 件

ツチダンゴ属 *Ceratogaster* 節の一種ほか 3 件

ニカワショウロ（通称） 1 件

ヒメノガステル属の一種 1 件

ヘタタケ 1 件

ユキラッパタケ 1 件

ウズタケ 1 件

トゲダイダイサラゴケ 1 件

チチタケ属（狭義）の一種 1 件

テングタケ（広義）ほか 5 件

クサウラベニタケ（広義） 1 件

ベニタケ属の一種（セコチウム型、小型） 1 件

シラタマタケ 1 件

チチショウロ 1 件

アカショウロ 1 件

アロラマイセス属の一種 1件
 ヤマドリタケモドキほか 2件
 アカキツネガサ類似種 1件
 アミガサホウライタケ 1件
 アカネショウロ 1件
 イボコガネテングタケ類似種 1件
 アカヒダワカフサタケほか 15件
 カバイロチャワンタケ 1件
 ニカワショウロ (通称) 1件
 ツベルクラリア属の一種ほか 2件
 トリコデルマキン属の一種 1件
 ミドリコケビョウタケほか 2件
 キハマダイダイゴケ (仮称) ほか 4件
 ジュウモンジシダのさび病菌ほか 40件
 ザラミノシメジ属の一種 1件
 サザレイシタケ 1件
 アカネショウロほか 2件
 ウメムラセミタケ 1件
 タマチョレイタケ科の一種ほか 4件
 モリノカレバタケ属 *Impudici* 節の一種 1件
 トリコデルマキン属の一種 1件
 シラタマタケほか 5件
 シロツブタケ (広義) ほか 22件
 シロツブタケ (広義) 1件
 ステファノスポラもどき (仮称) ほか 3件
 ミヤマタンポタケ (関西型) 1件
 チチショウロ 1件
 ガウチエリア属の一種 1件
 オオショウロ 1件
 チチショウロほか 3件
 ゲルロネマ属の一種 1件
 ネットアイアシグロタケほか 5件
 ニガクリタケ (広義) 1件
 カブラテングタケ類似種 1件
 チャヒラタケ属の一種ほか 20件
 ジャガイモタケ 1件
 アカキツネガサ 1件
 コナカブリテングタケほか 2件
 アカキツネガサ類似種 1件
 ハグロチャツムタケ (青木仮称) 1件
 ベニタケ属の一種 (トリュフ型) 1件
 ケゼニゴケニセチャワンタケ 1件
 ヒメノガステル属の一種 1件
 スクレロガステル属の一種ほか 3件
 ヒメノガステル属の一種 1件
 ジョウゴゴケモドキほか 10件
 チヂレツチガキ類似種 1件
 ステファノスポラ属の一種ほか 2件
 ドクカラカサタケ 1件
 アクイロウロコツルタケ 1件
 タマバリタケ属の一種ほか 9件
 ナミガタウメノキゴケほか 7件
 シロペンキタケほか 8件
 ニクイロアナタケほか 3件
 キアミアシグチ 1件
 オシロイタケ 1件
 ヒステランギウム属の一種 1件
 シラタマタケほか 5件
 アナアキアカダマタケ 1件
 キツチダンゴ 1件
 セイヨウショウロ属の一種 1件
 ナガミノツルタケほか 2件
 シロホウライタケほか 11件
 テングタケモドキ類似種 1件
 クモタケ 1件
 ヤミイロクヌギタケほか 2件
 フジウスタケ類似種ほか 4件
 コブリビロードツエタケ 1件
 ダイダイウラベニタケ類似種 1件
 タデ類黒穂病菌 1件
 ツチナメコほか 3件
 シロツチガキほか 15件
 スッポンタケ 1件
 レデックラ属の一種 1件
 アカショウロ 1件
 シロアナコウヤクタケ類似種ほか 43件
 ニオイヒメアミタケほか 2件
 シトネタケ 1件
 コガネキクバナイグチ 1件
 ウラムラサキシメジ 1件
 モリノコダマタケ 1件
 スズメタケほか 13件
 ジャガイモタケ 1件
 ヤミイロクヌギタケ 1件
 ケンビビョウキン類似種 1件
 ベニタケ属の一種 (セコチウム型) ほか 2件
 アカショウロ 1件
Ciborinia gracilipes (Cooke) Seaver 1件
Graphilbum pleomorphum G. Okada & Tubaki 1件
Chiua aff. *olivaceoreticulata* Yan C. Li & Zhu L. Yang 1件
Tuber indicum Cooke & Massee ほか 2件
Peziza aff. *depressa* Pers. 1件
Rhizocybe sp. 1件
Pachyphlodes sp. 1件
Octaviania nonae Orihara 1件
Amblyosporium botrytis Fresen. 1件
Neottiella ricciae (P. Crouan & H. Crouan) Korf & W.Y. Zhuang ほか 3件
Octosporella sp. 1件
Octospora cf. *humosa* ほか 2件
Octaviania celatifolia Orihara 1件
Didymobotryum rigidum (Berk. & Broome) Sacc. 1件
Thelocarpon sp. ほか 2件
Cystolepiota aff. *sistrata* (Fr.) Singer ex Bon & Bellu 1件
Descolea aff. *reticulata* (G. Cunn.) Kuhar, Nouhra & M.E. Sm. ほか 2件
Amblyosporium botrytis Fresen. ほか 2件
Nemania sp. ほか 3件
Neottiella ricciae (P. Crouan & H. Crouan) Korf & W.Y. Zhuang ほか 3件
Resupinatus aff. *urceolatus* (Wallr. ex Fr.) Thorn, Moncalvo & Redhead 1件
Epigeocarpum japonicum Yamato, B.T. Goto, Niezgoda, Magurno & Blaszk. 1件
Neottiella ricciae (P. Crouan & H. Crouan) Korf & W.Y. Zhuang 1件
Octaviania decimae Orihara 1件
Mycogone sp. 1件
Verticillium sp. 1件
Alpova japonicus A. Ishik. 1件
Astrosphaeriella cf. *stellata* (Pat.) Sacc. 1件
Rhizocybe sp. 1件
Lophodermium jiangnanense Y.R. Lin & S.J. Wang 1件
 [藻類] 合計4件
 [魚類] 合計5,944件
 センニンフグほか 27件 [さかなクン (宮澤正之)]
 オオミミズハゼほか 6件 [安芸昌彦]
 マメウツボ 1件 [安藤楓渉]
 セイタカヒイラギ属未定種ほか 294件 [井田 齊]
 イシガキフグ 1件 [一寸木肇]
 ギギほか 4件 [宇高光将]
 コンテリボウズハゼ 1件 [宇高光将]
 クロカサゴ 1件 [羽田野桃子 (小笠原水産センター)]
 タマガンゾウビラメほか 11件 [益田 一 (益田海洋プロダクション)]
 インドアカタチ 1件 [園山貴之 (新江ノ島水族館)]
 オキナワハゼ属未定種 16件 [塩崎 漣]
 チワラスボほか 4件 [横山 充]
 アラメソトイワシ 1件 [下瀬 環]
 クロオビスズキほか 18件 [加藤 晃]

カワヤツメほか 114 件 [加藤柊也]
 チカメエチオピアほか 11 件 [海洋研究開発機構 (via. 藤原義弘・小枝圭太・佐藤真央)]
 ヤリタナゴほか 84 件 [皆川優作]
 ナンヨウアゴナシ 1 件 [岩井克友]
 ヤマトタチモドキ 1 件 [菊池 健 (八丈ビジターセンター)]
 クモウツボほか 8 件 [京谷蒼馬]
 フカミトラザメほか 2 件 [橋本 浩 (東京都島しょ農林水産総合センター 八丈事務所)]
 カワアナゴほか 127 件 [古屋朝光]
 イソミミズハゼほか 5 件 [五十子大]
 ダルマガレイ科未同定属未同定種ほか 20 件 [工藤孝浩]
 タモロコほか 101 件 [荒尾一樹]
 アメマスほか 8 件 [佐藤正人]
 カンキョウカジカほか 6 件 [佐藤正人 (秋田県水産振興センター)]
 ウメイロほか 142 件 [桜井 雄]
 タマガンゾウビラメほか 30 件 [三井翔太]
 ソコギス科未同定属未同定種ほか 11 件 [三浦寛子]
 ニシンほか 2 件 [山下俊輔]
 ナガレミミズハゼほか 5 件 [山下龍之丞]
 ツマリトビウオほか 3 件 [山本湊介]
 タビラクチほか 9 件 [蒔田悠生]
 タイリクバラタナゴほか 150 件 [手良村知功]
 キツネアナゴほか 3 件 [酒井恭平]
 ナマズ 1 件 [秋田勝己]
 セダカヤッコほか 293 件 [緒方悠輝也]
 セトカジカほか 169 件 [小嶋純一]
 ボロサクラダイほか 6 件 [小路川卓征]
 トガリムネエソほか 8 件 [松山侑樹]
 モンダルマガレイ 1 件 [新江ノ島水族館]
 トビハタほか 2 件 [新江ノ島水族館 (崎山直夫)]
 ホソミミズハゼほか 16 件 [森本光流]
 ダイオウカサゴ 1 件 [深瀬一輝]
 タカベほか 18 件 [進藤太一]
 ホシキカイウツボ 1 件 [星野一三雄]
 キシマイシヨウジほか 62 件 [西川士朗]
 ホウセキキントキ 1 件 [西川志朗]
 オニカマス 1 件 [西川志朗・松山侑樹]
 ミナミアナゴほか 3 件 [西野 敬]
 キマイラミミズハゼほか 1,108 件 [斉藤洪成]
 ヒイロナガミミズハゼほか 4 件 [石原大亮]
 セトミノカサゴほか 233 件 [前田達郎]
 タイワンイトマキエイほか 4 件 [草野洋佑 (小田原市漁業協同組合)]
 ウグイほか 645 件 [村瀬敦宣]
 セダカズメダイほか 816 件 [村瀬敦宣・緒方悠輝也]
 ニホンヤモリザメほか 6 件 [村野滉樹]
 イトモロコほか 39 件 [大井章豊]
 ナガミミズハゼほか 8 件 [大森春樹]
 サガミハダカほか 2 件 [大澤史明]
 タカベほか 4 件 [中村潤平]
 トゲカナガシラほか 9 件 [中島田正希]
 ダルマガレイ科未同定属未同定種 1 件 [中平颯星]
 シマシロクラハゼほか 15 件 [中澤翔太]
 ヒゲミミズハゼほか 6 件 [潮上太郎]
 リュウグウノツカイほか 20 件 [田中志成]
 アナゴ科未同定属未同定種 1 件 [島谷侑樹]
 オオクチャリガレイほか 6 件 [棟方航平]
 ツノハウネンエソほか 19 件 [棟方航平]
 セホシトラギスほか 2 件 [湯野川恭]
 マエソ 1 件 [藤原昌高]
 ミナミミズレウツボ 1 件 [藤田温真 (新江ノ島水族館)]
 イシガキダイほか 127 件 [如月 迅]
 ツルグエほか 36 件 [八木拓郎]
 セアカコバンハゼほか 58 件 [尾山大知]
 カナフグ 1 件 [尾川泰将]
 センニンガジほか 5 件 [福地伊芙映]
 カラドジョウほか 35 件 [北野 忠]

セトミノカサゴほか 55 件 [本田康介]
 イナズマベラほか 733 件 [末松知宙]
 ボウズコンニャク 1 件 [木熊慶吾]
 オオミミズハゼほか 32 件 [野村智之]
 ヘラツノザメ 1 件 [鰐渕理太]
 アミメフグ 1 件 [齋藤大志]
 ダイオウカサゴほか 15 件 [高瀬 歩]
 コマハゼほか 7 件 [小路川卓征]
 トガリムネエソほか 68 件 [西川志朗]
 ヒゲセジロハゼほか 5 件 [棟方航平]
 シロヒゲセジロハゼ 1 件 [並木 涼]
 クロコマハゼ 1 件 [門田高太]

[哺乳類] 合計 13 件

タヌキ 1 件
 ゴマフアザラシ 1 件
 ハンドウイルカほか 9 件
 ヒゲクジラ亜目の一種 1 件
 セミクジラ科の一種 1 件

[鳥類] 合計 39 件

キジほか 2 件
 ガビチョウ 1 件
 トラツグミ 1 件
 シロハラほか 3 件
 コサギほか 13 件
 コゲラ 1 件
 オオバン 1 件
 オニオオハシ 1 件
 イソヒヨドリ 1 件
 タゲリほか 3 件
 メンフクロウほか 2 件
 クロツグミ 1 件
 コジュケイ 1 件
 オオコノハズク 1 件
 カワウ 1 件
 ヤイロチョウ 1 件
 タゲリほか 3 件
 ツミ 1 件
 クマタカ 1 件

[両生類] 合計 28 件

トノサマガエルほか 2 件
 ヌマガエルほか 3 件
 ニホンアカガエルほか 12 件
 ウシガエルほか 2 件
 ツチガエル ほか 2 件
 シュレーゲルアオガエル 1 件
 ベルツノガエルほか 6 件

[爬虫類] 合計 84 件

ツシマスベトカゲ 1 件
 ニホンマムシほか 14 件
 シマヘビ 1 件
 イシガキトカゲ 1 件
 アオダイショウ 1 件
 ジムグリ 1 件
 ニホンヤモリ 1 件
 フトアゴヒゲトカゲ 1 件
 ハルマヘラ・ジャイアント・ゲッコーほか 63 件

[軟体動物] 合計 173 件

Epitonium georgettinum (Kiener, 1838) ほか 2 件
Epitonium clathrus (Linnaeus, 1758) ほか 3 件
 オオイトカケほか 3 件
Amaea oyasionensis (Ozaki, 1958) ほか 8 件
 クリンイトカケほか 4 件
Amaea ferminiana (Dall, 1908) 1 件
Epitonium clathrus (Linnaeus, 1758) ほか 5 件
 ツノダシヘナタリほか 2 件
 オオイトカケほか 8 件
 エゾイトカケ 1 件

サクライトカケほか 4件
 ナガイトカケほか 3件
Epitonium 属の一種 1件
Leptothyra 属の一種ほか 2件
 クワガタイトカケほか 4件
Amaea 属の一種ほか 3件
 フトヘナタリほか 5件
 スキヒメカタベほか 2件
Epitonium 属の一種 1件
 センニンガイほか 2件
 ヒメカタベガイ科・種未同定 1件
 ハスイトカケほか 3件
 ミヒカリヒメカタベほか 5件
Globiscala bullata (G. B. Sowerby II, 1844) ほか 23件
 イトカケヘナタリほか 4件
 オホーツクイトカケ 1件
Epitonium 属の一種 1件
 ヘナタリほか 4件
 チリメンヒメカタベほか 2件
 トサチャイロヒレイトカケ 1件
Epitonium 属の一種ほか 14件
 クリイロキリイトカケほか 6件
 ハグルマヒメカタベほか 4件
 ネジガイ 1件
 ナガイトカケほか 30件
Cypraeovula 属の一種 1件
Globarene cidaris (Reeve, 1843) ほか 8件

[甲殻類] 合計 428 件

カザリムラサキエビほか 6件
 アカイソガニ 1件
 チゴイワガニほか 20件
 オキナワヤワラガニほか 5件
 タテジマヨコバサミほか 3件
 スネリウスヨコバサミ 1件
 トゲサメハダオウギガニほか 3件
 アカテガニほか 167件
 スエヒロウスハオウギガニ 1件
 トゲサメハダオウギガニほか 2件
 タマオウギガニ 1件
 ツブトゲオウギガニ 1件
 トゲサメハダオウギガニほか 20件
 トサカオウギガニほか 21件
 ツブヒラオウギガニほか 4件
 エドワードベニオウギガニ 1件
Paractaea rufopunctata (H. Milne Edwards, 1834) ほか 18件
 トサカオウギガニほか 6件
 ズワイガニほか 106件
 オオヒメオウギガニほか 2件
 ノコギリヒヅメガニほか 2件
 ウスハオウギガニほか 4件
 カノコオウギガニほか 33件

[昆虫] 合計 4,036 件

ネグロミズアブほか 16件
 アカアシハヤバチほか 2,593件
 イソハサミムシほか 4件
 ウチワヤンマほか 5件
 アキアカネほか 878件
 ヤスマツヒメアナバチほか 4件
 トラフトンボほか 5件
 マダラコシボソハナアブほか 3件
 トゲミケハラブトハナアブほか 13件
 ヘリヒラタアブ 1件
 トワダオオカほか 3件
 デコハマダラミバエほか 57件
 アシマダラハナダカチビハナアブ 1件
 キイロコウカアブ 1件
 ヤマジガバチ 1件
 ヒロズハヤバチほか 5件

アシブトハナアブ 1件
 キイロヤマトンボ 1件
 ツマグロコシボソハナアブほか 13件
 サトセナガアナバチほか 3件
 ハルササハマダラミバエ 1件
 タイワンモンキジカバチ 1件
 マダラミバエ 1件
 シロスジベッコウハナアブ 1件
 サッポロヒゲナガハナアブほか 16件
 キンイロコオロギバチほか 12件
 クロハラナガハナアブ 1件
 クロヒラタアブほか 9件
 アシブトハナアブほか 3件
 ホソヒラタアブほか 6件
 エゾジガバチモドキほか 46件
 ニホンカワトンボ 1件
 ムカシヤンマ 1件
 ツマグロコシボソハナアブほか 46件
 ハマベハサミムシほか 2件
 セナガアナバチ科未同定種 1件
 キンイロアナバチ亜種ほか 12件
 アリバチ科未同定種 1件
 ヤマサナエ 1件
 ナミジガバチモドキほか 20件
 キンイロコオロギバチほか 74件
 トゲジガバチモドキほか 2件
 キンイロコオロギバチ 1件
 フジジガバチ亜種 1件
 キアシホソリミズアブ 1件
 ミケハラブトハナアブモドキほか 3件
 ハラアカハラナガハナアブ 1件
 タイワンジカバチほか 4件
 タイワンジカバチほか 46件
 クロイワジガバチモドキほか 6件
 ベッコウハナアブほか 3件
 サトセナガアナバチほか 12件
 タイワンジカバチほか 6件
 アメリカジガバチほか 2件
 クロアナバチ亜種ほか 2件
 ババアワフキバチほか 2件
 セナガアナバチ科未同定種 1件
 アルマンアナバチ 1件
 クロアナバチ亜種ほか 59件
 サトセナガアナバチ 1件
 ツヤクモカリバチ 1件
 ナミコオロギバチ本土琉球亜種 1件
 ベンガルルリジガバチほか 4件
Allognosta shibuyai ほか 2件
Allognosta shibuyai 1件
Nysson basalis taiwanus ほか 2件
Allognosta shibuyai 1件
Trypoxylon formosicola ほか 5件
Cephalochrysa stenogaster 1件

[動物その他] 合計 9 件

アカサングほか 9件

[化石] 合計 277 件

カグラザメ属の一種 1件
 パラバシリクス (三葉虫) ほか 270件
 アメリカアサガラ属 (エゴノキ科) ほか 3件
 ギロブティキウス・アガッシジほか 3件

[岩石・火山灰・隕石・砂] 合計 186 件

中華人民共和国の砂 1件
 層状デイサイト (砥石) ほか 3件
 玄武岩溶岩 (溶結スパター中の岩塊) 1件
 黒鉱ほか 3件
 スコリアほか 170件
 神奈川県三浦市南下浦町菊名の砂ほか 6件
 結晶片岩 1件
 ざくろ石流紋岩 1件

〔鉱物〕 合計 16 件

石英（水晶）ほか 4 件
石膏ほか 12 件

〔地図類画像〕 合計 1 件

東亜輿地図「鳥得」（1:1,000,000） 1 件

〔維管束植物画像〕 合計 2 件

ヤマエンゴサク 1 件
キンキエンゴサク 1 件

〔魚類写真〕 合計 9,984 件

シロワニ 1 件 [ESCORT]
シロワニ 22 件 [KAIZIN]
シロワニ 70 件 [NHK]
バリステス・ポリレピス 21 件 [ウィリアム・ストーリー]
シロワニ 2 件 [ウラシマン]
ナミダカサゴ 1 件 [さかなクン]
シロワニ 22 件 [ディーブブルー]
バリステス・ポリレピス 1 件 [ノリー・ストーリー]
シロワニ 1 件 [ボニンウェーブ]
シロワニ 171 件 [マリンワールド海の中道]
ハナフエダイ 3 件 [阿久津駿斗]
アカカサゴほか 7 件 [伊藤昌平（株式会社 FullDepth）]
コンテリボウズハゼ 1 件 [宇高光将]
シロワニ 1 件 [永井 豪]
インドアカタチ 1 件 [園山貴之]
コダマタツ 1 件 [遠藤広光]
オキナワハゼ属未同定種 1 件 [塩崎 漣]
ダイダイイソミミズハゼ 6 件 [塩崎 漣]
ドジョウ 1 件 [横尾拓海]
チョウチョウウオ 1 件 [下光利明]
シロワニ 13 件 [下条敬明]
メナダ 1 件 [下村亮太]
コンテリボウズハゼ 1 件 [加藤健一]
カワヤツメ 99 件 [加藤終也]
キビレカワハギ 1 件 [外山太一郎]
ヒブダイ 1 件 [笠間友博]
セホシトラギス 2 件 [梶浦信勝]
コンテリボウズハゼ 1 件 [梶原謙太郎]
シロウオ 1 件 [釜井涼太]
コンテリボウズハゼ 2 件 [関 航志]
テリエビス 12 件 [館澤采良]
ヒレナガスズメダイ 3 件 [岩倉 基]
ワタユキウツボ 1 件 [近藤ゆうい]
アオブダイ 1 件 [杓水悠太]
ニシキベラ 7 件 [栗原 巧]
タマガンゾウビラメ 32 件 [古屋朝光]
シロワニ 130 件 [古川智裕]
タカノハダイ 5 件 [古尾谷匠]
ヌマチチブ 11 件 [後藤アトムサンティアゴ]
イッセンヨウジ 1 件 [向井貴彦]
クロヨシノボリ 1 件 [荒尾一樹]
マダラハタ 1 件 [高橋広志]
シロワニ 2 件 [高橋桃花]
マタナゴ 1 件 [高橋莉乃]
ソラスズメダイ 40 件 [黒川大吉]
アカマユトラギス 1 件 [今関真二郎]
シロワニ 4 件 [佐藤 仁]
ソラスズメダイ 5 件 [佐藤光瑠]
パラケイリヌス・リネオープンクタータス 1 件 [佐野滝雄]
ヒゲモジャオコゼ 4 件 [佐野利枝]
チカメエチオピア 3 件 [坂本幸博]
ヤマブキベラ 4 件 [阪本竜也]
イエロークラウンド・バタフライフィッシュ 2 件 [三浦 陽]
ヒメクロコバンハゼ 8 件 [山下龍之丞]
ヘリゴイシウツボ 1 件 [山口小夏]
ツキチョウウオ 32 件 [山口明男]

ダルマガレイ科未同定属未同定種 6 件 [山崎哲也]

シロワニ 3 件 [山田守彦]
トラフグ 4 件 [山田和彦]
マタナゴ 1 件 [山内美咲]
ドジョウ 2 件 [志村悠晴]
ネズミダラ 1 件 [児玉隆治]
タマメイチ 12 件 [寺田雄祐]
チョウチョウウオ 11 件 [篠原 悠]
シロワニ 2 件 [柴山淳志]
ソコイトヨリ 250 件 [緒方悠輝也]
ヤツメウナギ科未同定属未同定種 2 件 [緒方悠輝也・岩倉 基]
マダイ 2 件 [緒方悠輝也・黒川大吉]
ゴマヒレキントキ 1 件 [緒方悠輝也・篠原 悠]
ホシヒメコダイ 1 件 [緒方悠輝也・棟方航平]
ユメカサゴ 1 件 [緒方悠輝也・平山蒼惟]
シロワニ 15 件 [小笠原ダイビングセンター]
イソマグロ 5 件 [小枝圭太]
ブルーギル 6 件 [小野田壮]
ハナゴンベ 6 件 [小林修一]
シロワニ 7 件 [小林哲也]
ドジョウ 5 件 [小澤竜太]
ソラスズメダイ 144 件 [松野清伯]
モツゴ 1 件 [松澤歩夢]
シロワニ 9 件 [沼口麻子]
シロワニ 38 件 [森下 修]
シロワニ 2 件 [森 健司]
ネズッポ科未同定属未同定種 4 件 [森山 敦]
シロワニ 14 件 [森田康平]
セホシサンカクハゼ 58 件 [深谷真央]
バリステス・ポリレピス 1 件 [神津島釣り情報管理人 TOM]
シロワニ 2 件 [菅野孝弘]
イソミミズハゼ 1 件 [是澤太一]
シロワニ 1 件 [成田謙介]
シロワニ 1 件 [清和凌河]
メガネウマツラハギ 3 件 [西川志朗]
シロウオ 1 件 [西村樹希]
センハダカ 4 件 [西村明日翔]
ギンザメ 1 件 [西野 敬]
マルバラユメザメ 1 件 [西野勇馬]
センネンダイ 2 件 [斉藤洪成]
セトアマダイ 2 件 [石崎宏人]
シマヒレヨシノボリ 7 件 [川口晃志郎]
シマヒレヨシノボリ 1 件 [川中太陽]
カワヤツメ 175 件 [前田達郎]
イソハゼ 1 件 [倉田拳翔]
ダイミョウサギ 76 件 [村瀬敦宣]
ダンドラトラギス 562 件 [大久保宙]
イドミミズハゼ 7 件 [大森春樹]
ナノハナフブキハゼ 19 件 [谷口勝政]
ルリボウズハゼ 1 件 [谷上冬馬]
タカベ 6 件 [中根隆之介]
カンパチ 150 件 [中村潤平]
センウマツラハギ属未同定種 1 件 [中村達也]
マアジ 2 件 [中野光希]
カグツチヨコシマクロダイ 1 件 [長友伸二郎]
ナツハリゴチ 1 件 [辻奈々子（高瀬 歩氏経由）]
タイワンザメ 347 件 [田中 猛]
アワイロコバンハゼ 1 件 [田中志成]
シロワニ 1 件 [土屋 瞳]
ブルーギル 2 件 [東 蒼人]
ボラ 4 件 [棟方航平]
シマヒレヨシノボリ 12 件 [藤井琉穂]
ヒメウバウオ 1 件 [藤原恭司]
シロワニ 4 件 [藤原博之]
ワタユキウツボ 1 件 [藤田温真]
ソウシハギ 3,430 件 [内野啓道]
アオベニハゼ 2,129 件 [内野美穂]
シロワニ 1,284 件 [南 俊夫]
セレベスゴチ 97 件 [如月 迅]
ドジョウ 4 件 [馬場翔大]

パラボタス・ポリレピス 1件 [粕谷浩之]
 セダカギンポ 1件 [畠中智康]
 クロハタ 1件 [八木拓郎]
 シロワニ 8件 [尾山 匠]
 タネハゼ 23件 [尾山大知]
 キツネアナゴ 5件 [武井優之介]
 ダイナンギンポ 8件 [武田 樹]
 テンジクハナダイ 10件 [平山蒼惟]
 チンアナゴ 14件 [望月 淳]
 シロワニ 19件 [北山真実]
 キツネダイ 1件 [北川玲央菜]
 シロワニ 12件 [堀越優紀]
 マタナゴ 1件 [本間 結]
 ソラスズメダイ 64件 [末松知宙]
 ホシノハゼ 5件 [末木海椰]
 シロワニ 1件 [木戸拓人]
 シロワニ 3件 [木村陽子]
 ボラ 6件 [靱井将大]
 ヨロイメバル 1件 [野村智之]

ナマズ 1件 [柳 丈陽]
 ドロゾメエソ 4件 [有馬啓人]
 ホシヒメコダイ 4件 [林 風優]
 ヒナハゼ 11件 [林 翔太]
 ニシキベラ 12件 [鈴木 響]
 クサフグ 7件 [鈴木美智代]
 タイリクバラタナゴ 4件 [鈴木玲留]
 ケショウギンポ 3件 [廣津智朗]
 シロワニ 18件 [櫻田紋菜]
 マタナゴ 1件 [濱口幸志朗]
 クロイシモチ 1件 [蛭名美結]
 ダイオウカサゴ 3件 [高瀬 歩]
 マタナゴ 1件 [高野心遥]

[爬虫類写真] 合計 1件
 ニホンマムシ 1件

[地層] 合計 1件
 大涌谷 1件

4.1.4. 職員採集その他による資料（新たに登録されたもの）

標本収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物	185	魚類	204	甲殻類	5	鉱物	2
植物群落	0	哺乳類	20	動物その他	0	地質・ボーリング	4
コケ	0	鳥類	12	昆虫	445	はぎ取り	0
菌類・変形菌類	176	両生類	5	クモ	0	地学その他	0
藻類	0	爬虫類	5	化石	124	衛星画像	0
植物その他	0	軟体動物	0	岩石・火山灰・隕石・砂	49	地図類画像	18
						合計	1,254

アーカイブズ収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物画像	22	両生類写真	178	衛星処理画像	1	菌類細密画	0
魚類写真	1,316	爬虫類写真	59	景観画像	0	甲殻類細密画	0
哺乳類写真	0	昆虫写真	0	博物館活動	2,079		
鳥類写真	0	クモ写真	0	地層	95		
						合計	3,750

4. 2. 図書資料収集状況

今年度受け入れした和書の冊数は、購入が 57 冊、寄贈が 1,531 冊、編入が 2 冊、管理換が 0 冊であった。洋書については、購入が 0 冊、寄贈が 51 冊であった。受入図書の合計は 1,641 冊である。

2025 年度受入図書（冊数）

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	57	1,531	2	0	1,590
洋書	0	51	0	0	51
合計	57	1,582	2	0	1,641

2026 年 3 月 31 日現在の所蔵資料総数

分 野		登録数	分 野		登録数
国内刊行図書		37,429 (冊)	寄贈国外雑誌		729 (タイトル)
国外刊行図書		5,137 (冊)	ビデオソフト		332 (巻)
購入国内雑誌		13 (タイトル)	CD-ROM		77 (タイトル)
購入国外雑誌		0 (タイトル)	マイクロフィルム		34 (リール)
寄贈国内雑誌		3,483 (タイトル)			
			合計	47,234	(点)

4. 3. 資料利用状況

4. 3. 1. 研究目的の利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を閲覧、計測、撮影、掲載などに利用することが可能である。2025 年度について、研究目的の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

種別			利用	閲覧			撮影			解析			その他			合計		
				人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本				12	40	53				8	19	29	20	59	82	
		画像									1	1	1	1	1	1	1	
		属性							2	420	420	5	7	16	7	427	436	
		小計				12	40	53	2	420	420	14	27	46	28	487	519	
	鳥類	標本				1	12	12								1	12	12
		画像																
		属性							1	911	911				1	911	911	
		小計				1	12	12	1	911	911				2	923	923	
	両生類 爬虫類	標本																
		画像																
		属性							1	130	130				1	130	130	
		小計							1	130	130				1	130	130	
	魚類	標本				1	2	2	85	2,228	4,586	1	1	1	87	2,231	4,589	
		画像							76	3,001	5,183	2	47	86	78	3,048	5,269	
		属性	2	2,557	6,564				12	2,951	3,448				14	5,508	10,012	
		小計	2	2,557	6,564	1	2	2	173	8,180	13,217	3	48	87	179	10,787	19,870	
	昆虫	標本				1	16	16	10	1,682	1,537				11	1,698	1,553	
		画像										1	6	6	1	6	6	
		属性																
		小計				1	16	16	10	1,682	1,537	1	6	6	12	1,704	1,559	
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本							7	21	62				7	21	62	
		画像																
		属性																
		小計							7	21	62				7	21	62	
植物	標本	66	66	66											66	66	66	
	画像																	
	属性																	
	小計	66	66	66											66	66	66	
菌類	標本	4	4	71											4	4	71	
	画像																	
	属性																	
	小計	4	4	71											4	4	71	
古生物	標本				3	22	172								3	22	172	
	画像																	
	属性																	
	小計				3	22	172								3	22	172	
地球環境	標本																	
	画像																	
	属性																	
	小計																	
景観画像	画像																	
	属性																	
	小計																	
博物館活動	画像																	
	属性																	
	小計																	
合計				72	2,627	6,701	18	92	255	194	11,344	16,277	18	81	139	302	14,144	23,372

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、学術発表利用（学会等発表、論文発表での画像掲載等）を「その他」に含めた。
標本：実物標本、レプリカ等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.3.2. 研究目的以外の利用

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を借用

し、展示、教材利用、掲載・放映などに利用することができる。2025年度について、研究目的以外の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

利用			展示			教材			掲載・放映			その他			合計		
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	4	6	6	11	45	100	6	25	25	1	1	1	22	77	132
		画像							2	2	2				2	2	2
		属性															
		小計	4	6	6	11	45	100	8	27	27	1	1	1	24	79	134
	鳥類	標本	1	2	2	1	12	12	1	12	12				3	26	26
		画像				1	1	1							1	1	1
		属性															
		小計	1	2	2	2	13	13	1	12	12				4	27	27
	両生類 爬虫類	標本	2	10	10				1	3	3				3	13	13
		画像															
		属性															
		小計	2	10	10				1	3	3				3	13	13
	魚類	標本	4	11	37				3	5	5				7	16	42
		画像	4	24	67	1	17	17	27	75	102				32	116	186
		属性															
		小計	8	35	104	1	17	17	30	80	107				39	132	228
	昆虫	標本	1	2	2				1	2	2				2	4	4
		画像															
		属性															
		小計	1	2	2				1	2	2				2	4	4
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本	1	1	1				1	1	1				2	2	2
		画像															
		属性															
		小計	1	1	1				1	1	1				2	2	2
植物		標本	1	1	1										1	1	1
		画像				1	1	1	1	1	1				2	2	2
		属性															
		小計	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	3	3
菌類		標本															
		画像															
		属性															
		小計															
古生物		標本	3	26	28	2	5	5	2	4	6	2	5	5	9	40	44
		画像	1	1	1				2	3	3				3	4	4
		属性															
		小計	4	27	29	2	5	5	4	7	9	2	5	5	12	44	48
地球環境		標本	11	73	116										11	73	116
		画像	3	4	4	3	7	7	16	20	49				22	31	60
		属性															
		小計	14	77	120	3	7	7	16	20	49				33	104	176
景観画像		画像							1	1	1				1	1	1
		属性															
		小計							1	1	1				1	1	1
博物館活動		画像							1	1	1				1	1	1
		属性															
		小計															
ライブ ラリー	印刷資料	図書							1	1	1				1	1	1
		画像							1	2	2				1	2	2
		属性															
		小計							1	2	2				1	2	2
合計			36	161	275	20	88	143	66	157	215	3	6	6	125	412	639

標本：実物標本等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2025年5月12日から17日まで、フッ化スルフルによる殺虫、殺卵を目的とした燻蒸を行った。なお、例年燻蒸期間中は休館の措置が取られる。

燻蒸装置を使った燻蒸

燻蒸業者の事業所にある燻蒸庫に資料を運搬し、酸化プロピレン・アルゴンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。ボーリングコア、はぎ取り標本、化石、哺乳類標本、書籍などを対象に2回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れ支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会（博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会）

講演名	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	人数
特別展開連講演会 「吉田初三郎の鳥瞰図を語る」	10/13(月祝)	講義室	一般	大澤真理子 武田周一郎 新井田秀一	府中市美術館 学芸員 神奈川県立歴史博物館 学芸員 当館 学芸員	68
企画展開連座談会 「ラウンドテーブル・どうする？自然史アーカイブズ」	2/28(土)	講義室	アーカイブズ資料管理に携わっている方や、こうした資料の管理に関心のある方	大坪 奏 田口公則 話題提供：佐藤崇範 コーディネーター：佐久間大輔	当館 学芸員 当館 学芸員 能登里海教育研究所 大阪市立自然史博物館	26
合計						94

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

行事名	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	人数
令和7年度第1回魚の会講演会 「サケ科魚類に魅せられて」	5/11(日)	西側講義室	会員一般	井田 齊	北里大学 名誉教授	55
日本展示学会シンポジウム 「地域をみせるー『街かど博物館』が物語る小田原ー」	6/21(土)	SEISA ミュージアムシアター	学会員一般	【趣旨説明】 大島光春 【特別講演】 邱 君妃 林 依静 温 欣琳 【討論会】 Ⅱ-1：パネリストによる講演 浅岡竜馬 露木清隆 森川高弘 Ⅱ-2：総合討論 コーディネーター：大山由美子	当館 学芸員 国立民族学博物館・学術資源研究開発センター機関研究員 桃園市立大溪木芸生態博物館 コレクション・展示チーム チーム長 桃園市立大溪木芸生態博物館 教育普及チーム チーム長 小田原市経済部商業振興課 主査 街かど博物館 寄木ギャラリー 館長 街かど博物館 鈴廣のかまぼ博物館 館長 丹青研究所	90
令和7年度第2回魚の会講演会 「イカなのに歩く？！海底をのんびり歩くハナイカの不思議」	8/3(日)	西側講義室	会員一般	大村文乃	三重大学生物資源学研究科リサーチフェロー	25
日本地質学会特別招待講演・セッション 「地図で見る箱根火山と伊豆半島沖海底火山」	8/31(日)	SEISA ミュージアムシアター	学会員一般	萬年一剛 南 宏樹	神奈川県温泉地学研究所 海上保安庁海洋情報部沿岸調査課	102
令和7年度第3回魚の会講演会 「旅する魚類学：マングローブ編ーホシマダラハゼにかかった罾と対峙してー」	11/16(日)	西側講義室	会員一般	小林大純	千葉県立中央博物館分館 海の博物館 研究員	27
神奈川県温泉地学研究所共催国際シンポジウム 「箱根山噴火から10年：水蒸気噴火へ向けた火山の観測研究と情報発信の世界的な進展」	12/6(土)	SEISA ミュージアムシアター	一般	Sally Potter Ya-Chuan Lai 清水 洋 萬年一剛	Canary innovation Ltd., New Zealand Tatun Volcano Observatory, Taiwan 文部科学省火山調査研究推進本部火山調査委員会委員長 神奈川県温泉地学研究所	会場：106 オンライン：14
令和7年度第4回魚の会講演会 「アフリカの魚たちと考える：魚類の社会、子育て、協力、そして人間性」	3/1(日)	西側講義室	会員一般	佐藤 駿	京都大学白眉センター/理学部動物生態学研究室特定助教	40
合計（オンライン除く）						445

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講座等）

行事名	実施日	実施場所	対象者	人数
神奈川県水源環境保全課主催イベント「シュロバツタ作り」の体験教室	7/5(土) 7/6(日)	西側講義室	一般	99
神奈川県水源環境保全課主催イベント「葉巻笛」の体験教室				150
箱根ジオパーク夏休み子どもジオ講座 「箱根細工」を生んだ「火山」と「豊かな木材」実験&体験学習教室	8/11(月祝)	東側講義室	主に小学生や中学生とその保護者	138
合計				387

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分けて記載した。同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。

当日受付の講座

2 講座延べ 2 日間実施、参加者延べ数 301 名。

当日受付の講座

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	参加者数
1	すなとあそぼう	4/20(日)	講義室	どなたでも	石浜佐栄子	206
2	夏休み昆虫ひろば	8/16(土)	講義室	どなたでも	渡辺恭平	95
合計						301

事前申込が必要な講座

募集 53 講座のうち、実施は 51 講座、参加者延べ数 663 名。

事前申込が必要な講座

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
1	植物図鑑の使い方～春の花編～	4/12(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人・教員	大西 亘	25	24	20
2	植物ジュニア学芸員養成講座～目指せ植物マスター～	4/13(日)	実習実験室および館周辺	小学 5 年生～高校生	大西 亘	10	10	8
3		5/25(日)	館周辺					7
4		7/6(日)	真鶴町					6
5		9/28(日)	酒匂川周辺					6
6		11/9(日)	秦野市					中止
7		12/14(日)	真鶴町					6
8	河原の岩石・鉱物を観察しよう	4/27(日)	酒匂川 (松田町)	小学 4 年生～成人	夏目 樹	25	76	24
9	オタマジャクシを顕微鏡で観察してみよう	5/3(土祝)	実習実験室	小学生～中学生	松本涼子	10	74	9
10	おやこで貝がらをしよう (1)	5/5(月祝)	実習実験室	小学生とその保護者	佐藤武宏	24	29	11
11	おやこで貝がらをしよう (2)					24	24	12
12	磯の生きものウォッチング (1)	5/31(土)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏	30	157	中止
13	博物館学入門―展示模型の製作―	5/31(土)	実習実験室	大学生～成人	大島光春	12	16	13
14		6/1(日)						12
15	博物学者のノート拝見～アーカイブズを楽しむ～	6/1(日)	講義室	高校生～成人	大坪 奏	10	14	12
16	磯の生きものウォッチング (2)	6/14(土)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏	30	162	31
17	ヘビの骨格を組み立てよう 巳年にちなんだ企画	7/5(土)	実習実験室	中学生～成人	松本涼子	10	17	8
18		7/6(日)						8
19	きのこさがし	7/12(土)	実習実験室および館周辺	小学生～中学生	折原貴道	25	111	23
20	動物のからだのつくりを知ろう 哺乳類の骨学入門	7/26(土)	実習実験室	高校生～成人・教員	鈴木 聡	12	24	11
21	いろいろな羽根を観察してみよう	8/3(日)	実習実験室	小学 1 年生～3 年生とその保護者	加藤ゆき	40	47	23
22	羽根の持ち主さがしに挑戦			小学 4 年生～6 年生・中学生とその保護者		40	31	15
23	あなたのパソコンで地形を見る (教員優先)	8/5(火)	実習実験室	教員を優先とした成人	新井田秀一	12	20	12
24	古生物学入門―哺乳類の歯―	9/6(土)	実習実験室	大学生～成人	大島光春	18	19	15
25	きのこの観察と同定	9/20(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人	折原貴道	25	59	17
26	絵本『せいめいのれきし』片手に展示を楽しむワークショップ	9/27(土)	実習実験室および常設展示室	成人	田口公則	12	19	10
27	地形地質と鳥瞰図の観察会 南足柄	9/28(日)	大雄山駅周辺 (南足柄市)	中学生～成人	新井田秀一	25	69	23
28	ゾウの化石 頭骨を見てみよう	9/28(日)	実習実験室	高校生～成人	樽 創	10	6	6
29		10/26(日)						5
30		11/23(日)						5
31	先生のための地層と化石入門～砂まじりの茅ヶ崎を歩く～	10/4(土)	実習実験室	教員・成人	田口公則 大島光春	18	18	16
32		10/5(日)	茅ヶ崎市					16
33	あなたのパソコンで地形を見る (一般向け)	10/5(日)	実習実験室	成人	新井田秀一	6	21	6
34	川と用水路の生き物を調べよう	10/5(日)	荻野川周辺 (厚木市)	小学 3 年生～成人	荻部治紀	20	29	16
35	植物図鑑の使い方～樹木編～	10/18(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人・教員	大西 亘	24	12	12
36	地形地質と鳥瞰図の観察会 横浜・桜木町	10/18(土)	野毛山公園周辺 (横浜市)	中学生～成人	新井田秀一	25	69	21
37	本当は怖いアメリカザリガニ―最悪の水辺の外來種について勉強しよう―	10/19(日)	はるひ野 (川崎市)	小学 3 年生～成人	荻部治紀	20	15	8
38	小田原景勝鳥瞰図に描かれた建造物の石材の見学会	11/2(日)	小田原城址公園周辺 (小田原市)	小学 4 年生～成人	山下浩之	30	30	21
39	はっぱであそぼう	11/9(日)	講義室	5～6 歳の子どもの保護者	石田祐子	24	8	8
40	貝殻のふしぎを調べよう (ホタテ)	11/9(日)	小田原駅周辺	小学 4 年生～成人	田口公則	18	10	6
41	クジラ・イルカの形態学 鯨類の“かたち”に注目	11/15(土)	実習実験室	高校生～成人	西村双葉	10	14	12
42	貝殻のふしぎを調べよう (アサリ)	11/16(日)	横浜駅周辺	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	18	5	4
43	貝殻のふしぎを調べよう (巻貝)	11/23(日祝)	横浜駅周辺	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	18	15	10
44	鳥類標本作製講座	12/6(土)	実習実験室	大学生～成人	加藤ゆき	10	11	10
45		12/7(日)						10
46	もっと魚を知りたい人のための魚類学講座	1/10(土)	実習実験室	小学 5 年生～成人	和田英敏	15	19	15
47		1/11(日)						15
48	初めてのシダ シダ植物の観察ポイント	1/18(日)	実習実験室	中学生～成人	石田祐子	12	32	11

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
49	ボランティア入門講座	1/18(日)	講義室	中学生～成人	企画普及課	28	15	15
50	岩石プレバート作成講座 身近な道具で岩石プレバートをつくる	1/31(土)	実習実験室	小学4年生～成人	山下浩之	20	91	20
51	ほねほねバズルで学ぶ動物の骨のかたちとくらし	2/14(土)	実習実験室	小学生～中学生	鈴木 聡	20	63	20
52	親子でノジュール割りに挑戦 ポリビア産の古生代の化石を調べよう	2/21(土)	実習実験室	小学4年生～6年生とその保護者	田口公則	25	54	9
53	早春の地形地質観察会	2/28(土)	相模湖周辺 (相模原市)	中学生～成人	西澤文勝	25	78	24
合計						815	1,617	663

5.1.3. よろずスタジオ・折り紙プレゼント

学習指導員による博物館主催の「よろずスタジオ」は、日曜日の午後、昨年度に引き続き8講座で行った。友の会と博物館との共催による「よろずスタジオ」も開催した。

折り紙プレゼントは、昨年度と同様、こどもの日とクリスマス前の11月の日曜日に行った。こども

の日は、当館に展示している恐竜等の折り紙を6種類配布し、クリスマス前はそれにツリーとトナカイのセットを合わせて8種類配布した。また、ミュージーズ・フェスタ2026でも折り紙プレゼントを行い、普段から作りためた12種類の折り紙を配布した。

博物館主催 よろずスタジオ

イベント名	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜の折り紙ひろば	3	東側講義室	子どもと その保護者 その他一般	学習指導員 企画普及課 ボランティア 〔博物館教育プログラ ムボランティア 小田原短期大学学生〕	制限なし (ただし*印の イベントは制限 なし)	378	185
博物館のぬり絵ひろば	3					332	166
そらとぶたね	2					233	111
博物館バズル	3					299	143
ハコブ帽子のぬり絵	4					333	154
博物館検定*	2	東側講義室・展示室				245	113
けんぴきょうで大発見！*	2	実習実験室				490	203
生きものスケッチ	2					172	83
合計	21					(8講座のべ21回実施)	2,482

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数
どうぶつの手と足クイズ	4/6(日)	東側講義室	子どもと その保護者 その他一般	大島光春	制限なし	59
夏の虫探しの極意	6/29(日)			渡辺恭平		73
葉っぱであそぼう	9/7(日)			友の会スタッフ		64
くじら	11/30(日)			西村双葉		63
お酢と重曹の噴火実験	3/22(日)			西澤文勝		76
合計						335

折り紙プレゼント

イベント名	実施日	実施場所	対象者	担当者	定員	参加人数
こどもの日 折り紙プレゼント	5/5(月祝)	エントランスホール	希望者	学習指導員	657	646
クリスマス 折り紙プレゼント (恐竜の折り紙にトナカイとツリーを加えた)	11/22(土)	エントランスホール	希望者	学習指導員	880	326
ミュージズ・フェスタ 2026 折り紙プレゼント	3/14(土)	エントランスホール	希望者	学習指導員	720	450
	3/15(日)		希望者	学習指導員	660	420
計 3 イベント					合計	1,842

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員による「夏休み自由研究なんでも相談」は、夏休みの自由研究について相談に来た小・中学生に対応した。

学芸員による「夏休み自然科学相談デー」は、夏

休みの子どもの自由研究相談を中心に、来館者の自然科学等に対する質問に答えるために、分野ごとに特定の日にちを相談デーとして定め、通常のレファレンスとは別に、個別のレファレンス対応を行った。

自由研究を支援する催し物

催し物名	実施期間	相談場所	対象者	担当者	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/19(土) ～8/17(日)	ミュージアムライブラリー	小・中学生	学習指導員	34
夏休み自然科学相談デー	7/21(月祝) ～8/24(日)	ミュージアムライブラリー・ 実習実験室・東側講義室	どなたでも	学芸員	23

夏休み自由研究なんでも相談
 [相談者の地域]

県内		県外	
市町村	件数	都道府県	件数
小田原市	7	東京都	6
秦野市	1	静岡県	3
伊勢原市	1	山梨県	1
海老名市	1	小計	10
座間市	1		
平塚市	1		
茅ヶ崎市	2		
藤沢市	5		
鎌倉市	1		
横須賀市	1		
横浜市	2		
川崎市	1		
小計	24		

[学年別]

学年	件数
小学1年生	4
小学2年生	3
小学3年生	3
小学4年生	6
小学5年生	6
小学6年生	2
中学1年生	6
中学2年生	2
中学3年生	0
高校1年生	2
高校2年生	0
高校3年生	0
合計	34

[分野別]

相談分野		件数
生物分野	古生物	8
	昆虫	3
	植物	2
	哺乳類	2
	両生類	1
	小計	16
地学分野	岩石鉱物	6
	気象	1
	宇宙	1
	その他	1
	小計	9
その他	物理・化学	7
	その他	2
	小計	9
合計		34

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座・イベント

講座等名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加数
企画展関連ワークショップ すなやまのふしぎなもよう	4/13(日)	西側講義室	どなたでも	石浜佐栄子 田口公則 夏目 樹	—	—	集計 なし
企画展関連講座 すなとあそぼう	4/20(日)	東側講義室	どなたでも	石浜佐栄子 田口公則 大島光春 西澤文勝 夏目 樹 大坪 奏	—	—	206
特別展関連講座 あなたのパソコンで地形を見る (教員優先)	8/5(火)	実習実験室	教員を優先とした成人	新井田秀一	12	20	12
ミュージアム・リレー第358走 特別展「初三郎式、かながわの描き方—地形表現の科学—」	8/22(金)	特別展示室	中学生以上	新井田秀一	20	28	14
特別展開連地図学会定期大会関連講演会 「地図で見る箱根火山と伊豆半島沖海底火山」	8/31(日)	SEISA ミュージアムシアター	学会員・一般	萬年一剛 南 宏樹	—	—	102
第144回 サロン・ド・小田原 鳥瞰図や地図を楽しむ。特別展「初三郎式、かながわの描き方」より	9/13(土)	西側講義室	どなたでも	新井田秀一	—	—	32
特別展開連 展示解説	9/23(火)	特別展示室	どなたでも	新井田秀一	—	—	9
	10/11(土)					—	17
	10/25(土)					—	26
	11/8(土)					—	36
	11/9(日)					—	47
特別展開連講座 地形地質と鳥瞰図の観察会 南足柄	9/28(日)	南足柄市	中学生～成人	新井田秀一 西澤文勝 石浜佐栄子	25	69	23
特別展開連講座 あなたのパソコンで地形を見る (教員優先)	10/5(日)	実習実験室	成人	新井田秀一	6	21	6
特別展開連講演会 吉田初三郎の鳥瞰図を語る	10/13(月)	講義室	どなたでも	大澤真理子 武田周一郎 新井田秀一	70	83	68
特別展開連講座 地形地質と鳥瞰図の観察会 横浜・桜木町	10/18(土)	横浜市	中学生～成人	新井田秀一 夏目 樹 田口公則	25	69	21
特別展開連講座 小田原景勝鳥瞰図に描かれた建造物の石材の見学会	11/2(日)	小田原市	小学4年生～成人	山下浩之 新井田秀一 西澤文勝	30	30	21
ミュージアム・リレー第369走 企画展「自然史アーカイブズをひらく」	2/27(金)	特別展示室	中学生以上	大坪 奏 田口公則	20	28	22
企画展関連座談会 ラウンドテーブル・どうする？自然史アーカイブズ	2/28(土)	講義室	アーカイブズ資料管理に携わっている方や、こうした資料の管理に関心のある方	大坪 奏 田口公則 佐藤崇範 佐久間大輔	40	29	26
ミュージアム・フェスタ2026 開催イベント 記念写真でアーカイブ！	3/14(土)	特別展示室	どなたでも	大坪 奏 西村双葉 石浜佐栄子 田口公則	—	—	180
	3/15(日)						
ミュージアム・フェスタ2026 開催イベント 企画展ギャラリートーク	3/14(土) 3/15(日)	特別展示室	どなたでも	大坪 奏 田口公則	—	—	20
企画展関連講座 自然史のアーカイブズを見てみよう	4/26(日)	西側講義室	高校生～成人	大坪 奏 田口公則	2026年度事業で実施		
第146回 サロン・ド・小田原 自然史アーカイブズ—書いて描いて撮った探究者の記録—	5/9(土)	西側講義室	どなたでも	大坪 奏 田口公則 川島逸郎 星野和子			
企画展関連 ワンポイント解説	5/10(日)	特別展示室	どなたでも	大坪 奏 田口公則 西村双葉 和田英敏			

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

博物館内で対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数
6/3(火)	大学	森林微生物学実習	日本大学生物資源科学部森林学科	折原貴道	23
6/17(火)～ 7/27(日)	大学	地球科学実験（招待券対応）	神奈川大学理学部	—	36
7/9(水)	その他	標本と解剖に関する講義「自然史博物館の概要と役割」	日本さかな専門学校	和田英敏	84
9/12(金)	小学校	「大地のつくりと変化」	小田原市立早川小学校	石浜佐栄子	24
9/26(金)	大学	生態学実習Ⅰ	横浜国立大学大学院環境情報研究院	大西 亘	16
10/23(木)	その他	海棲哺乳類についての講義	専門学校ルネサンス・ベット・アカデミー静岡校	西村双葉	17
10/24(金)	高校	化石に関する体験実習ならびに博物館の見学	星槎高校	田口公則	25
10/31(金)	小学校	「流れる水のはたらき」	小田原市立早川小学校	石浜佐栄子	26
11/1(土)	大学	卒業研究基礎	東海大学生物学部	和田英敏	11
11/5(水)	小学校	「流れる水のはたらき」	箱根町立湯本小学校	石浜佐栄子	15
11/19(水)	小学校	「大地のつくり」	小田原市立酒匂小学校	石浜佐栄子	49
11/21(金)	小学校	「大地のつくりと変化」	小田原市立足柄小学校	石浜佐栄子	82
11/22(土)	大学	菌類研究に関する講演と野外実習	関東学院大学	折原貴道	10
12/12(金)	小学校	「大地のつくり」	小田原市立豊川小学校	石浜佐栄子	100
12/12(金)	中学校	博物館見学・箱根巡検	武蔵中学校	西澤文勝 夏目 樹	180
12/17(水)	大学	2025 年度春学期「社会的組織の経営（ミュージアム）」学生企画案の提案	慶應義塾大学総合政策学部	大島光春 加藤ゆき 石浜佐栄子 西村双葉 夏目 樹	6
1/8(木)	その他	動物の歴史・進化・分類	専門学校ルネサンス・ベット・アカデミー静岡校	鈴木 聡	18
2/4(水)	中学校	展示説明・講義	共立女子中学高等学校	山下浩之	5
3/11(水)	小学校	流れる水のはたらき	小田原市立芦子小学校	石浜佐栄子 西澤文勝	91
合計					818

依頼元に出向いての対応・オンライン対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/29(木)	大学	さく葉標本の作り方	東京都立大学都市環境学部地理環境学科	石田祐子	オンライン
10/27(月)	小学校	箱根巡検	自由学園初等部	西澤文勝	箱根巡検
11/10(月)	小学校	「たねはかせになろう」	大田区立清水窪小学校	大西 亘	大田区立清水窪小学校
11/15(土)	その他	地引き網実習	社会福祉法人共育ちの会 つかはらちびっこ共育園	和田英敏	梅沢海岸
11/27(木)	小学校	化石について調べよう	小田原市立矢作小学校	田口公則	オンライン
12/12(金)				西澤文勝	大磯海岸
2/25(水)	中学校	火山の成り立ちについて	箱根町立箱根中学校	西澤文勝	箱根町立箱根中学校
3/13(金)	中学校	地学教室	厚木市立森の里中学校	田口公則	厚木市立森の里中学校

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

2025 年度は中学生を対象とした職場体験、および高校生を対象としたインターンシップをおこなった。活動内容として、博物館の社会的役割や組織体

制に関する講義のほか、学芸員や行政職員、学習指導員の業務体験プログラム等を実施した。

職場体験およびインターンシップ

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
8/30(水)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	県立光陵高等学校 県立小田原城北工業高等学校 相模女子大学高等部 横浜清風高等学校	渡辺恭平 学習指導員	6
1/23(金)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立白鷗中学校		1
合計					7

5.2.3. 教員の各種研修受入

博物館内で対応したもの

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
8/1(金)	「土地のつくりと変化」と座間市の地形・地質について	座間市小学校教育研究会	石浜佐栄子	12

依頼元に出向いての対応

実施日	内容	依頼元	対応者	実施場所
7/30(水)	中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校・理科）	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター
7/31(木)	授業づくり研修講座（高等学校・理科）～地学分野の基本的な実習～（基礎講座）	総合教育センター	西澤文勝	総合教育センター
8/4(月)	中堅教諭等資質向上研修講座（中学校・理科）	総合教育センター	西澤文勝	総合教育センター
8/5(火)	授業づくり研修講座（中学校・理科）～地学分野の基本的な実習～（基礎講座）	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館館園実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2025年度は、17大学・大学院から28名の実習生を受け入れた。

本年度も昨年度と同様、実習生全員を集めて実施する前期日程を1日、各専門分野に分かれて実施す

実習日と主な実習内容

全員共通日程（1日間）

〔期日〕8月1日（金）

〔内容〕オリエンテーション、書類提出、館長講話、学芸部長・管理課長・企画普及課長・情報資料課長・ライブラリー司書による館の概要・各種業務について講義、展示に関する課題演習。

分野別実習（7日間）

◎植物分野（2名）

〔担当〕田中徳久・大西 亘・石田祐子

〔期間〕8月2～8日

◎菌類分野（4名）

〔担当〕折原貴道・大西 亘・大坪 奏

〔期間〕9月2～5, 9～11日

◎動物グループ（8名）

〔担当〕佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・西村双葉

〔期間〕8月2～4, 6～9日（補講8月24日）

◎魚類グループ（6名）

〔担当〕和田英敏

〔期間〕8月16～18, 20～23日（補講9月12, 13, 21日）

◎昆虫グループ（2名）

〔担当〕荏部治紀・渡辺恭平

〔期間〕8月13～16, 22～24日

る後期日程を7日の計8日間開催した。担当者と日程は下記のとおりであった（ただし、日程は当初予定されたものであり、個々の実習生、博物館側のやむを得ぬ事情により、実際の実施日程は下記と異なる場合がある）。

◎古生物グループ（4名）

〔担当〕田口公則・大島光春

〔期間〕8月4, 6～9, 12, 13日（補講 8月14日）

◎地学グループ（2名）

〔担当〕山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・西澤文勝・夏目 樹

〔期間〕8月2, 4～7, 10, 11日（補講 8月12, 13日；古生物と合同）

博物館館園実習受け入れ状況

大学・学部等		人数
神奈川大学	理学部生物科学科	1
東京海洋大学	海洋生命科学部海洋政策文化学科	1
	大学院 海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻	1
法政大学	生命科学部応用植物科学科	1
宮崎大学	農学部森林緑地環境科学科	1
北海道大学	理学部地球惑星科学科	1
琉球大学	理学部海洋自然科学科生物系	1
八洲学園大学	生涯学習部生涯学習学科	2
明治大学	文学部史学地理学科 考古学専攻	1
	農学部食料環境政策学科	1
帝京科学大学	生命環境学部自然環境学科	1
工学院大学	先進工学部生命化学科	1
東京都立大学	大学院 都市環境科学研究科地理環境学域	1
東京農業大学	農学部生物資源開発学科	1
	農学部動物科学科	1
	地域環境科学部森林総合科学科	2
北里大学	海洋生命科学部海洋生命科学科	3
筑波大学	生命環境学群生物学類・多様性コース	1
日本大学	生物資源科学部動物資源科学科	1
	生物資源科学部海洋生物資源科学科	1
	生物資源科学部応用生物科学科	1
東海大学	生物学部海洋生物科学科	2
福山大学	生命工学部海洋生物科学科フィールド生態環境コース	1
	合計	28

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物

館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。今年度は7大学7件217名の見学実習を受け入れた。

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
6/6(金)	博物館実習	明治大学	田口公則	26
6/29(日)	博物館学芸員養成課程講義「博物館展示論」・「博物館資料保存論」における博物館見学	都留文科大学	西村双葉	39
7/12(土)	博物館学「情報・メディア論」	北里大学海洋生命科学部	和田英敏	43
8/30(土)	博物館実習	日本女子大学	大島光春	10
10/11(土)	博物館見学実習	桜美林大学	佐藤武宏	13
11/19(水)	博物館実習Ⅰ（事前説明会・招待券対応）	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	56
12/14(日)	博物館実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	30
合計				217

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を活かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2025年度のライブラリー利用者は90,170人で、1日平均利用者数は314人であった。また、有料コピーサービスを来館者には直接、来館できない利用者には郵送で、それぞれ実施している。これらのコピーサービスには、延べ123件の申込があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	20	24	28	31	23	26	25	19	20	21	25	287
利用者数	6,400	7,090	7,134	9,532	16,396	7,907	6,890	6,393	4,726	5,351	4,976	7,375	90,170
平均利用者数	256	355	297	340	529	344	265	256	249	268	237	295	314

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、より身近でひらかれた博物館、学校との連携を図る博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を活かし、児童・生徒をはじめ一般の方々に對して、レファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援を行っている。また学校をはじめ、各種団体利用者の予約受付や下見対応、博物館の見どころを紹介するガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務も行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスをしたり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受

付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応については、「3.4 レファレンス対応人数」（33 ページ）参照。

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は団体利用者の来館等に対応し予約の申し込みを受け付けている。2019年以前は電話・FAX・直接の予約申し込みを受けていたが、コロナ禍以降、FAXだけの予約申し込みに変更した。来館される方々の地域や年齢などは多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

下見のために来館した団体に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したDVDの貸し出しも行っている。この下見見学は学校・幼稚園・保育所や福祉関係の施設・団体の関係者が多い。また、学童や子ども会、ボーイスカウトなどの団体関係者の下見も多い。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間15～20分程度で、展示室の構成や主な展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介するとともに、利用にあたっての注意事項についても説明をしている。また団体だけでなく、一般来館者向けに「みどころガイド～博物館のここがイチオシ!～」をゴールデンウィーク期間中に4日間、夏季期間中に6日間、実施している。

学習指導員によるガイダンスの月別対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	11	13	21	23	14	25	25	29	14	9	12	28	224
人数	564	603	994	793	491	1,069	874	1,188	700	499	370	927	9,072

学習指導員によるみどころガイド～博物館のここがイチオシ！～の実施状況

参加者数	午前(10:00)		午後(13:00)		計			参加者数	午前(10:00)		午後(13:00)		計		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	計		大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	計
4/29(火祝)	12	6	0	0	12	6	18	8/11(月祝)	3	1	14	11	17	12	29
5/3(土祝)	16	7	25	15	41	22	63	8/12(火)	33	24	29	27	62	51	113
5/4(日祝)	0	0	17	10	17	10	27	8/13(水)	25	17	20	8	45	25	70
5/6(火振)	12	10	17	12	29	22	51	8/14(木)	18	9	10	4	28	13	41
GW 計	40	23	59	37	99	60	159	8/15(金)	8	8	15	3	23	11	34
								8/16(土)	35	19	36	13	71	32	103
								夏計	122	78	124	66	246	144	390
								全計	162	101	183	103	345	204	549

5.5.3. 団体利用状況

2025 年度の団体利用人数は、961 団体、40,176 人で、入館者数全体 275,110 人に対する割合は 14.6% であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係（保育所を含む）と学校以外で分類した。

団体の種別内訳

	神奈川県内から			県外・海外から			合計		
	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数
学校教育	329	34.2%	18,219	189	19.7%	10,610	518	53.9%	28,829
幼稚園・保育所	84	8.7%	3,258	13	1.4%	416	97	10.1%	3,674
小学校	161	16.8%	11,521	113	11.8%	7,188	274	28.5%	18,709
小中一貫校	3	0.3%	75	1	0.1%	69	4	0.4%	144
中学校	14	1.5%	1,073	4	0.4%	451	18	1.9%	1,524
中高一貫校	10	1.0%	523	8	0.8%	559	18	1.9%	1,082
高等学校	18	1.9%	627	14	1.5%	798	32	3.3%	1,425
特別支援学校・学級	25	2.6%	495	12	1.2%	521	37	3.9%	1,016
大学・短大	14	1.5%	647	24	2.5%	608	38	4.0%	1,255
学校以外	281	29.2%	5,989	162	16.9%	5,358	443	46.1%	11,347
合計	610	63.5%	24,208	351	36.5%	15,968	961	100.0%	40,176

団体の地区別利用状況（上段：件数、下段：人数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	%
小田原	件数	7	4	8	8	8	4	9	12	4	5	6	2	77	8.0%
	人数	378	63	127	253	137	73	396	509	174	123	199	111	2,543	6.3%
足柄下	件数	0	2	0	1	2	0	2	2	1	0	0	0	10	1.0%
	人数	0	36	0	8	24	0	67	44	9	0	0	0	188	0.5%
足柄上	件数	1	0	0	2	2	1	0	3	4	5	5	1	24	2.5%
	人数	11	0	0	17	33	40	0	74	172	217	99	50	713	1.8%
二宮・大磯・平塚	件数	5	2	3	3	10	4	6	4	3	2	5	6	53	5.5%
	人数	243	63	189	59	180	177	138	160	31	16	202	88	1,546	3.8%
秦野・伊勢原・厚木	件数	5	6	9	8	7	7	12	3	4	5	10	9	85	8.8%
	人数	345	437	245	196	127	405	401	149	200	167	239	197	3,108	7.7%
県央・相模原	件数	9	9	15	6	3	13	8	16	2	4	5	12	102	10.6%
	人数	408	549	1,052	168	48	875	404	864	120	216	98	288	5,090	12.7%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	件数	0	5	5	11	16	5	14	22	6	2	7	11	104	10.8%
	人数	0	127	124	260	398	116	665	1,223	383	55	263	463	4,077	10.1%
横須賀・三浦・逗子	件数	1	2	0	2	4	2	1	3	2	1	1	0	19	2.0%
	人数	28	202	0	80	82	209	26	159	53	221	102	0	1,162	2.9%
横浜	件数	2	4	12	10	17	10	15	16	6	5	3	4	104	10.8%
	人数	217	422	577	330	414	516	458	399	125	281	131	128	3,998	10.0%
川崎	件数	0	0	1	3	1	2	0	3	2	17	2	1	32	3.3%
	人数	0	0	28	176	39	203	0	105	88	1,072	38	34	1,783	4.4%
県内全域・地区不明	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京都	件数	4	10	16	12	12	14	21	18	11	5	10	3	136	14.2%
	人数	140	679	1,157	607	717	379	949	695	551	143	189	198	6,404	15.9%
千葉県	件数	0	0	0	2	2	14	30	16	4	1	0	1	70	7.3%
	人数	0	0	0	88	59	618	1,269	1,162	306	35	0	27	3,564	8.9%
静岡県	件数	1	6	2	11	10	4	13	3	2	6	3	11	72	7.5%
	人数	38	315	208	348	196	72	460	97	45	277	124	219	2,399	6.0%
山梨県	件数	0	0	2	0	1	2	4	2	0	0	0	1	12	1.2%
	人数	0	0	118	0	21	42	131	35	0	0	0	20	367	0.9%
埼玉県	件数	3	5	4	4	2	4	7	10	4	0	1	2	46	4.8%
	人数	287	321	172	342	52	288	291	554	289	0	43	49	2,688	6.7%
茨城県	件数	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	5	0.5%
	人数	0	0	0	0	0	23	79	50	0	0	0	0	152	0.4%
その他の道府県・外国	件数	0	0	2	0	0	3	1	1	0	3	0	0	10	1.0%
	人数	0	0	177	0	0	84	67	17	0	49	0	0	394	1.0%

（次ページへ続く）

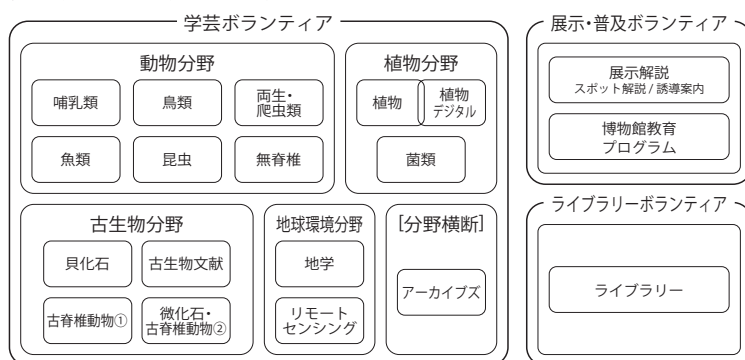
(前ページから続く)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	%
神奈川県計	件数	30	34	53	54	70	48	67	84	34	46	44	46	610	63.5%
	人数	1,630	1,899	2,342	1,547	1,482	2,614	2,555	3,686	1,355	2,368	1,371	1,359	24,208	60.3%
他道府県・外国計	件数	8	21	26	29	27	42	79	51	21	15	14	18	351	36.5%
	人数	465	1,315	1,832	1,385	1,045	1,506	3,246	2,610	1,191	504	356	513	15,968	39.7%
全体合計	件数	38	55	79	83	97	90	146	135	55	61	58	64	961	100.0%
	人数	2,095	3,214	4,174	2,932	2,527	4,120	5,801	6,296	2,546	2,872	1,727	1,872	40,176	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「展示・普及ボランティア」「ライブラリーボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。

博物館ボランティアの活動分野



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、

専門的な技術や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. 展示・普及ボランティア

展示室で来館者に対して案内や展示の解説をする「展示解説」と、子ども向けワークショップイベントの補助をする「博物館教育プログラム」がある。「展示解説」は、各自の都合の良い日に来館し、各ボランティアの得意な分野について「スポット解説」として案内や解説を行なっている。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

2015年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている。（2025年度：延べ34名）

5.6.3. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活動を行って

いる。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数は右表、活動状況は次ページの表のとおりである。

2025年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男	女
実人数 ※	393	215	178
1) 学芸ボランティア	394	209	185
2) 展示・普及ボランティア	22	17	5
3) ライブラリーボランティア	2	0	2

※ 1)～3)の分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。
実人数のうち、保険加入は289名。

2025 年度「博物館ボランティア」登録者の内訳および月別の活動状況

分野			登録数(延べ)			活動状況(延べ)																
			合計	男性	女性	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
学芸	植物	植物	29	9	20	315	43	10	29	32	19	27	38	25	18	24	23	27				
		菌類	53	30	23	342	40	25	35	39	35	22	26	21	26	25	20	28				
	動物	哺乳類	68	26	42	146	15	10	9	22	5	5	14	10	7	13	15	21				
		鳥類	26	10	16	256	16	33	26	25	26	2	27	25	23	12	18	23				
		両生・爬虫類	8	3	5	95	7	8	7	8	5	2	8	8	7	10	13	12				
		魚類	71	51	20	692	46	68	41	61	65	54	60	55	62	64	50	66				
		昆虫	54	40	14	168	14	8	13	9	10	16	13	23	24	17	9	12				
		軟体・甲殻類	7	4	3	41	4	3	4	5	3	3	3	2	5	4	2	3				
	古生物		56	28	28	410	48	18	57	34	25	21	35	37	18	31	32	54				
	地球環境	地学	13	5	8	160	9	7	8	22	11	9	15	17	14	20	11	17				
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	アーカイブズ		9	3	6	102	6	8	12	15	5	4	10	3	5	12	15	7				
	延べ人数		394	209	185	2,727	248	198	241	272	209	165	249	226	209	232	208	270				
展示・普及	展示解説		18	15	3	68	7	4	9	9	8	4	5	2	1	6	7	6				
	誘導案内		2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	博物館教育プログラム		2	1	1	29	2	1	5	4	1	3	2	1	2	4	1	3				
	延べ人数		22	17	5	97	9	5	14	13	9	7	7	3	3	10	8	9				
ライブラリー		2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
全体延べ人数		418	226	192	2,824	257	203	255	285	218	172	256	229	212	242	216	279					

※植物は植物デジタルを含む。古生物は古生物文献を含む。

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2025 年度の実施内容は表のとおりである

[日時] 2026 年 1 月 18 日（日）～ 2 月 9 日（日）までの間の 2～3 日間（分野別の講座が 1～2 日間）

[講座定員] 学芸 7 分野 28 名

[受講人数] 学芸 7 分野 15 名

講座日程

共通講義（初日：2026 年 1 月 18 日（日））

時間	内容
10:00～10:05	開会あいさつ
10:10～10:40	講義「博物館活動とボランティア」
10:45～12:00	展示室見学
13:05～14:20	バックヤード見学
14:30～14:50	ボランティアに関する説明と諸注意
15:00～	各分野の紹介と顔合わせ
15:30	終了（分野別に随時解散）

分野別実習（1 月 20 日～2 月 9 日の 1～2 日間）

分野	実施日	内容	定員	受入	受講	登録
植物	1/21(水)、23(金)	植物標本の作製等	4	1	1	1
植物デジタル	1/28(水)、30(金)	植物標本の取り扱いと整理、デジタル標本の作成等	2	1	1	1
哺乳類	1/25(日)	中型哺乳類の標本作製	2	4	4	4
魚類	1/21(水)	魚類液浸標本の作製・整理など	6	2	2	2
古生物（貝化石・古脊椎動物）	1/20(火)	活動内容紹介・活動体験（資料ラベル・箱の整理等）	3	1	1	1
古生物（脊椎動物化石・植物化石・微化石）	1/28(水)	標本の見方、取り扱いの方法、DB など	5	2	2	2
アーカイブズ	1/23(金)、2/9(日)	概要説明、資料の整理・データ整理の体験	6	4	4	4
合計			28	15	15	15

5.6.6. ボランティア研修

2025 年度は実施しなかった。

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く当館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを周知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2025 年度の広報活動は、催物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供及び公式 X アカウントによる広報を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展や講座、観察会などの各種催し物を周知する「催物案内」、イベントの開催に合わせたポスターやチラシなどを次の表のとおり作成・配布した。

作成印刷物一覧

作成年月	印刷物名	仕様（規格、印刷、色数）	印刷部数	主な配布先	配布件数
2025 年 6 月	特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」ポスター	B2 判 オフセット印刷 4 色刷り	240	A, B, C, D, F, G, H	910
	特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」チラシ	A4 判 オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	20,000	B, C, D, E, F, G, H	
	特別展「初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―」招待券	70mm×148mm オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	9,300	A, B, C, D, E, F, G, H	
2026 年 1 月	企画展「自然史アーカイブズをひらく」ポスター	B2 判 オフセット印刷 4 色刷り	200	B, C, D, F, G, H	1,080
	企画展「自然史アーカイブズをひらく」チラシ	A4 判 オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	22,000	B, C, D, E, F, H	
2026 年 2 月	2026 年度催物案内	A3 判 オフセット印刷 両面 1 色刷り	22,000	B, C, D, E, F, H	700
2026 年 3 月	ミュージズ・フェスタ 2026 当日イベントタイムスケジュール（2 日間）	A4 判 館内簡易印刷（片面 1 色刷り）	1,000	館内配布	—

主な配布先の凡例。A: 小田原市立小中学校 ;B: 県内図書館 ;C: 博物館園 ;D: 県政情報窓口 ;E: マスメディア ;F: 小田急電鉄・箱根登山鉄道 ;G: 大雄山線 ;H: その他

5.7.2. マスメディア等への情報提供

特別展・企画展においては、前日に記者内覧会を実施した。

この 1 年間の紹介記事件数は、掲載が確認できたものだけでも 155 件あった。内訳は、新聞 16 件、

広報誌・情報誌・雑誌等 19 件、テレビ 6 件、ラジオ 7 件、ウェブサイト等インターネット 92 件、その他 15 件であった。

5.7.3. SNS を利用した広報

県内外へ広く活発な広報活動を行うため、次のとおり公式 X による情報発信を行った。

公式 X アカウントによる情報発信

広報アカウント「@seimeinohoshiPR」では、特別展や常設展、博物館の活動状況、開館状況、ウェブコンテンツ等の情報発信を行うとともに、緊急時や

災害時等に情報発信媒体として活用した。また、混雑情報発信アカウント「@seimeinohoshiCI」では、当館の混雑状況の情報発信を行った。

X による情報発信

アカウント	実施期間	合計ポスト数
広報アカウント：@seimeinohoshiPR	2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日	201
混雑情報発信アカウント：@seimeinohoshiCI	2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日	230

5.8. 来館者アンケート

来館者の来館回数、満足度等のアンケートを行った。また、イベント開催中にアンケートを実施することで、広報物（チラシ等）の効果を調べる基礎資料とした。

5.8.1. 館内での満足度調査

〔調査方法〕

入館券の投函と電子申請システムを併用して行った。

1 階エントランスホールに投票箱と電子申請システムの二次元コードを印刷したポスターを設置し、来館者に回答を求めた。

〔調査期間〕

2025 年 7 月 19 日～8 月 31 日（44 日間）

〔回答数〕

5,295 件（うち投函 5,202 件、電子申請システム 93 件）

〔調査項目〕

4 項目（満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満）

〔調査結果〕

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
回答数	4,005	1,038	199	53
%	75.6%	19.6%	3.8%	1.0%

5.8.2. ミューズ・フェスタ 2026 参加者へのアンケート

[調査方法]

ミューズ・フェスタ本部にて、アンケート用紙により調査を実施した。

[調査期間]

2026 年 3 月 14 日～2026 年 3 月 15 日の開館中(2 日間)

[回答数]

246 件

[調査項目]

年代／居住地／利用交通機関／広報物の利用について

[アンケート結果]

問 1 あなたの年代はどれですか

9 歳以下	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
57	38	4	63	66	7	6	5	246
23.2%	15.5%	1.6%	25.6%	26.8%	2.9%	2.4%	2.0%	100.0%

上記、9 歳以下と回答した人の年齢内訳

1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	合計
1	0	0	3	1	7	11	11	23	57
1.7%	0.0%	0.0%	5.3%	1.7%	12.3%	19.3%	19.3%	40.4%	100.0%

問 2 お住まい

神奈川県	東京都	静岡県	茨城県	大阪府	長野県	回答なし	合計
197	24	19	1	1	1	3	246
80.1%	9.8%	7.7%	0.4%	0.4%	0.4%	1.2%	100.0%

上記、神奈川県と回答した人の市町村内訳

横浜市	川崎市	鎌倉市	相模原市	厚木市	大和市	座間市	綾瀬市	愛川町	平塚市	藤沢市
25	13	2	15	2	1	2	1	1	10	12
12.7%	6.6%	1.0%	7.6%	1.0%	0.5%	1.0%	0.5%	0.5%	5.1%	6.1%
茅ヶ崎市	秦野市	伊勢原市	大磯町	小田原市	南足柄市	大井町	開成町	湯河原町	回答なし	合計
10	12	7	2	65	1	7	5	2	2	197
5.1%	6.1%	3.6%	1.0%	33.0%	0.5%	3.6%	2.5%	1.0%	1.0%	100.0%

問 3 ご来館の際の交通機関 (複数回答可)

電車	バス	自家用車	その他	回答なし	合計
59	10	142	5	36	252
23.4%	4.0%	56.3%	2.0%	14.3%	100.0%

問 4 ミューズ・フェスタについての情報を何でお知りになりましたか (複数回答可)

企画展チラシ	県のたより	広報小田原	J:COM 小田原	新聞	当館公式ウェブサイト	神奈川県ウェブサイト	当館公式 X
12	4	11	0	1	57	19	10
4.6%	1.5%	4.2%	0.0%	0.4%	22.0%	7.3%	3.9%
Facebook	その他 SNS	友人・家族から	その他	来館して初めて知った	回答なし	合計	
1	21	44	11	60	8	259	
0.4%	8.1%	17.1%	4.2%	23.2%	3.1%	100.0%	

5.8.3. 講座参加者へのアンケート (記入式)

[調査方法]

講座参加者にアンケートを実施し、世代、講座への参加回数、感想等を調査した。

[調査対象]

博物館講座のうち、ボランティア入門講座、雨天中止講座を除く 39 講座について、講座終了後にアンケートを行った。なお、講座が 2 日間以上にまたがっている場合は、その講座の最終日の終了後に調査した。

[有効回答数]

530 件

[調査項目]

回答者の世代 / 過去の講座への参加 / 講座を知ったきっかけ / 講座に対する感想 / また参加したいか

[アンケート結果]

講座参加者の世代等の内訳

未就学児	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生	学生	一般成人	65 才以上	教員	合計
1	45	54	20	13	13	259	87	38	530
0.2%	8.5%	10.2%	3.8%	2.5%	2.5%	48.9%	16.4%	7.2%	100%

過去の講座への参加について

今回が初めて	過去 1 年以内に参加有	それ以前に参加有	未回答	合計
297	140	92	1	530
56.0%	26.4%	17.4%	0.2%	100%

どこで（何で）講座を知りましたか（複数回答あり）

県のたより	学校で配られた情報	その他の情報誌	博物館 HP	家族・友人	友の会	博物館催物案内	当館公式 X	そのほか	合計
28	0	6	265	76	12	127	7	27	548
5.1%	0.0%	1.1%	48.4%	13.9%	2.2%	23.2%	1.3%	5.0%	100%

講座に参加しての感想（複数回答可）

内容が おもしろかった	内容が つまらなかった	内容が わかりにくい	教え方が良かった	もっとはやくてよかった	もっとゆっくりがいい	説明がわかりにくい	講座の内容が違った	合計
477	0	4	328	12	13	10	16	860
55.5%	0.0%	0.5%	38.1%	1.4%	1.5%	1.2%	1.9%	100%

また参加したいですか（複数回答あり）

もっと上のレベルに参加したい	同じ内容なら参加したい	もっと下のレベルへ参加したい	もう参加したくない	合計
227	290	38	1	556
40.8%	52.2%	6.8%	0.2%	100%

5.8.4. インクルーシブな空間開発に向けた実証実験・利用者調査

〔調査概要〕

（株）乃村工藝社が開発した、持ち運び可能なカームダウンブースを常設展示室 1 階（エスカレータ下）に設置。この場所は 1 階生命展示室の一番奥の場所で、展示観覧ルートのちょうど中間地点に相当する。ご利用される方や興味を持たれた方を対象にアンケート調査を実施し、必要性や効果を検証するための基礎資料を収集した。

〔調査方法〕

行動調査、対面でのアンケートおよびインタビューを調査員 1～2 名で 2 日間行った。調査日時は 3 月 21 日（土）10:00～16:30、22 日（日）9:00～16:30。

〔調査結果〕

アンケートの有効回答数は 15 件、行動調査は 50 件であった。

〔アンケート結果〕

利用してみて気になったことはありますか？（n=15）

ある	ない
4	11
26.7%	73.3%

外出先にこのようなブースが必要だと思いますか？（n=15）

とても必要	必要	どちらでもない	不要	全く不要
5	10	0	0	0
33.3%	66.7%	0%	0%	0%

これまでにカームダウンブース（ルーム）を利用したことがありますか？（n=15）

ある	ない
0	15
0%	100.0%

このようなブースが必要だと思う場所を教えてください（複数回答）（n=15）

ショッピングセンター スーパーマーケット	スポーツ施設 スタジアム等	展示会 イベント会場	駅・空港	図書館・区役所等 公共施設	美術館 博物館	学校 勤務先	病院 介護施設
7	6	9	1	5	7	4	1
46.7%	40.0%	60.0%	6.7%	33.3%	46.7%	26.7%	6.7%

利用者の年代（n=15）

0～3 歳	4～6 歳	小学生低学年	小学生高学年	中学生	高校・大学生	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
1	2	4	0	2	1	1	1	3	0	2
6.7%	13.3%	26.7%	0%	13.3%	6.7%	6.7%	6.7%	20.0%	0%	13.3%

利用者の付き添いの年代（n=10）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
2	1	5	2	0	0
20.0%	10.0%	50.0%	20.0%	0%	0%

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」第55号を刊行した。本号には6編の論文が投稿され、査読等を経て6編が掲載された。本誌は49号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及びJ-STAGEで公開している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川自然誌資料」第47号を刊行した。本号には16編の論文が投稿され、査読等を経て16編が掲載された。本誌は第41号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及びJ-STAGEで公開している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容を当館ウェブサイトで紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報」第30号(2024年度)を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）

[号数] 第55号（電子出版）

[発行日] 2026年3月24日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト (<https://nh.kanagawa-museum.jp/publications/bull>) ならびにJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bkpmnh/-char/ja>)

[編集担当] 夏目 樹・石田祐子

[編集委員会] 田中徳久（編集委員長）・佐藤武宏（編集副委員長）・大島光春・石浜佐栄子・松本涼子

[内容]

山下浩之・西澤文勝：箱根火山由来の火山岩類の全岩化学組成

田中徳久：標本データベースを用いた神奈川県における帰化植物の増加率の変遷

渡辺恭平：日本産トガリヒメバチ亜科（ハチ目、ヒメバチ科）の6新種の記載を伴う分類学的研究(英文)

和田英敏・棟方航平・西川士朗：伊豆諸島御蔵島と伊豆大島から確認された日本初記録のアカムトラギス（新称）*Parapercis rubromaculata*（ワニギス亜目トラギス科）

石浜佐栄子・田口公則・西澤文勝・夏目 樹・大島光春・石田祐子：企画展「すな－ふしぎをみつこう－」開催報告－インクルーシブな視点からの展示物検討と体感展示の実践

佐藤武宏・高橋京子・高橋博行・田口公則：自然科学に関する講演聴講が幼児教育者の意識に与える効果

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 第47号（電子出版）

[発行日] 2026年3月19日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト (<https://nh.kanagawa-museum.jp/publications/nhr/>) およびJ-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nkpmnh/-char/ja>)

[編集担当] 鈴木 聡・和田英敏

[編集委員会] 佐藤武宏（編集委員長）・中島広喜・嶋本習介

[内容]

小嶋紀行：丹沢山地唐沢峠におけるササバギンランの不時開花の記録：形態と生育環境特性に着目して

千代田創真・秋山 礼・大友洋平：三浦半島における2020年以降のヤンバルトサカヤスデ（オビヤスデ目ヤケヤスデ科）の分布拡大と発生状況

渡辺恭平・田邊結太・小林 駿：希少なハナバチ類の生息が示唆する「仙石原すすき草原」の保全上の重要性

西澤文勝・山下浩之：箱根町宮城野林道沿いにおける箱根火山明神ヶ岳溶岩グループの一記載

緒方悠輝也・釜井涼太：相模湾および相模湾内流入河川におけるシロウオ（ハゼ科）の分布と生息状況

田邊結太・渡辺恭平：神奈川県内の河川敷でヤナギ類に訪花するハナバチ相

藤田温真・園山貴之・和田英敏：相模湾から得られた北限記録のワタユキウツボ（ウナギ目：ウツボ科）および本種の成長にともなう色彩変化に関する新知見

加登岡大希・和田英敏：マルバラユメザメ（ツノザメ目：オンデンザメ科）の相模湾からの記録および日本における分布と生息状況

油井琉星・越川 龍・柴田祐輔・野田悠太・長谷部勇太・北野 忠：ミトコンドリアDNAの遺伝解析にもとづく金目川水系におけるドジョウ属の生息状況

廣瀬 舜・松本 敬・堀江真帆・湯浅拓輝・中江雄一郎・一ノ瀬友博：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおけるニホンアナグマ *Meles anakuma* Temminck, 1842 の観察記録

小林龍太郎・鈴木大輔・安房田智司：神奈川県愛川町におけるアカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* の継続的な観察による生息記録

京谷蒼馬：カザリムラサキエビの神奈川県における初記録（十脚目：テッポウエビ科）

佐藤武宏・貞家遼平：伊豆半島初記録となるカクレイワガニ *Geograpsus grayi* (H. Milne Edwards, 1853)（十脚目：イワガニ上科：イワガニ科）

乾 直人・丸山智朗・花井元哉：神奈川県内から67年ぶりに記録されたカワスナガニ（ムツハリアケガニ科）

田中徳久：2019年にコマロフ植物研究所・国立科学博物館・東京都立大学牧野標本館で見出した神奈川県地域植物相の重要な記録となる標本

荒尾一樹：東京湾の葛西人工干潟から標本に基づき記録された魚類 41 種

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 31 巻 2 号 通巻 119 号

[発行日] 2025 年 6 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

石浜佐栄子：表紙「きれいになって鳴きましたーサハラ砂漠の鳴き砂?ー」

石田祐子：「みんなに伝わる展示を目指して」

渡辺恭平：「神奈川県にいた! 珍虫クサレダマバチ!」

田口公則：「企画展の保存記録ー展示のかたちと記憶をデジタルで繋ぐー」

田口公則：「貝化石の崖に隠れていた「名もなき石切り場」

小林瑞穂：ライブラリー通信「イカとタコは似たもの同士?」

自然科学のとびら 31 巻 3 号 通巻 120 号

[発行日] 2025 年 9 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

松本涼子：表紙「ハコネサンショウウオの成体 (雄) *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn, 1782)」

新井田秀一：「「初三郎式、かながわの描き方」こぼれ話」

折原貴道：「世界のトリュフと日本のトリュフ、それらの採集の心得」

石田祐子：「西湘高校寄贈標本に秘められたストーリー」

土屋定夫：ライブラリー通信「「日本古書通信」が終わってしまう!!」

自然科学のとびら 31 巻 4 号 通巻 121 号

[発行日] 2025 年 12 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

加藤ゆき：表紙「放鳥から 20 年 コウノトリ」

大坪 奏：「記録資料を残そうー自然史のアーカイブズとは?ー」

渡部 孟 (元 真鶴町立遠藤貝類博物館長)：「相模湾産スナガニ類 2 種の鳴き声ー昭和天皇もお聞きになられたー」

松本涼子：「匠の技ー恐竜の歯のレプリカ工房ー」

小林瑞穂：ライブラリー通信「図書館探偵団」

自然科学のとびら 32 巻 1 号 通巻 122 号

[発行日] 2026 年 3 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

渡辺恭平：表紙「ゴミアシナガサシガメの成虫」

大坪 奏：「古い記録資料を「博物館資料」にするためにーボランティアが支える整理作業ー」

西澤文勝：「先代学芸員が切り取った「自然」

大西 亘：「真鶴町貴船神社のマナズルザクラ同定顛末記」

甫飯久美子：ライブラリー通信「フラワーセンターからの賜物」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 第 30 号

[発行日] 2025 年 9 月 15 日

[発行部数] 400 部

[編集担当] 田村 哲・石持みずき・夏目 樹

[内容]

沿革・事業報告 (運営管理機能・情報発信機能・シンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・情報システム・連携機能)・資料

6.2. 不定期刊行物

博物館の学術活動のうち、総合研究の成果公表を目的とした「神奈川県立生命の星・地球博物館調査研究報告 (自然科学)」、論文形式でない成果物の公表を目的とした「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」、当館の主なコレクションの紹介を目的とした「神奈川県立博物館資料目録 (自然科学)」を不定期刊行している。

2025 年度は元日本板鰐類研究会会長の田中 猛氏より寄贈された現生軟骨魚類の顎骨標本等をまとめた目録「神奈川県立博物館資料目録 (自然科学)」第 12 号を電子出版した。また、この電子出版に際し、神奈川県立博物館資料目録 (自然科学) の電子出版に対して Online ISSN (2760-4535) を取得した。

6.2.1. 神奈川県立博物館資料目録（自然科学）

[号数] 第12号（電子出版）

[発行日] 2025年12月24日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト (<https://nh.kanagawa-museum.jp/publications/other/catalogue.html>)

[編集担当] 和田英敏

[編集委員会] 田中徳久（編集委員長）・佐藤武宏（編集副委員長）・大島光春・石浜佐栄子・松本涼子

[内容]

瀬能 宏：田中 猛氏寄贈現生軟骨魚類顎骨標本目録

6.3. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
【改訂第2版】生命の星・地球博物館 展示解説書	1,800	328	よみもの ナウマンゾウがいた!	800	17
地球環境を考える 地球 SOS	500	5	木の洞をのぞいてみたら―樹洞の生きものたち―	1,000	17
パレオパラドキシアとデスモスチルス 絶滅した生物	500	17	水生昆虫大百科 およげ! ゲンゴロウくん―水辺に生きる虫たち―	1,000	19
貝殻に残された情報から貝殻の進化・環境の変化を探る 貝からの伝言	500	21	益田一と日本の魚類学～魚類図鑑に生涯を捧げた DANDY～	1,400	13
偉大なアマチュア自然科学者の軌跡 櫻井コレクションの魅力	400	26	どうする?どうなる! 外来生物 とりもどそう私たちの原風景	1,000	20
日本の魚学・水産学事始め フランツ・ヒルゲンドルフ展	1,000	22	植物誌をつくろう! ～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～	700	31
オオカミとその仲間たち―イヌ科動物の世界―	1,100	25	アオバトのふしぎ～森のハト、海へ行く～	900	43
カニの姿―酒井コレクションから―	1,200	15	絶海の自然―硫黄列島をゆく―	1,100	96
サルがいて、ヒトがいて―野生動物との共存を考える―フットのひとりごと	400	2	かながわご当地菌類ガイドブック	1,000	26
神奈川県植物誌 2001	9,800	0	生命の星・地球博物館の30年	1,000	44
化石どうぶつ園―北アメリカ漸新世の哺乳類―	1,100	8	初三郎式、かながわの描き方―地形表現の科学―	1,000	920
神奈川県レッドデータ 生物調査報告書 2006	2,000	12	合計		1,727

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、博物館の活性化、生涯学習時代における学習支援、研究活動の高度化等を推進するため、収蔵資料（標本・画像ほか）に関する情報を基本として、博物館に蓄積されている膨大な量の知的情報を総合的に管理する博物館活動のプラットフォームとして構築されたものである。

このシステムには、1995年3月より稼動している「収蔵管理システム」、「展示情報システム」というサブシステムがあり、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱である資料の収集・管理、研究、展示活動を支援している。また、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせは、2012年9月より「Web公開システム」で行っている。

このシステムは、当博物館と県立歴史博物館が共同で開発し、2000年度および2005年度には機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入した。これにより、クライアントPCのWindows Updateを効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。

2020年度の機器更新では、「収蔵管理システム」のバージョンアップにより、「収蔵資料データベース」として収蔵資料のデータがウェブサイトにて公開された。「Web公開システム」はソフトウェアを変更し、マルチデバイスに対応したウェブサイトが提供可能となった。セキュリティソフトは、教育局から各パソコンに配信される方法に変更された。

2021年度は、経年劣化に伴う教育委員会ネットワークのLAN工事を行った。基幹配線はOM2の光ケーブル、支線はCat6のUTPケーブルに変更した。

2025年度の機器更新では、各システムのサーバをデータセンターへ移設したほか、「収蔵管理システム」「収蔵資料データベース」の機能改修、Webサイトの一部のデザイン改修、「Web公開システム」の変更を行った。また、運用支援業務において「展示情報システム」に地層分野の検索メニューを追加した。

2026年3月31日現在の、当博物館の博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/100BASE-T/1000BASE-SXによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ハードディスク容量		
CPU ルーム	Update サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M7	16GB×2	1	Windows Update の管理・ アクティブディレクトリーの管理
		Windows Server 2022 Standard	12TB×2 (RAID1)		
	職員用端末	ESPRIMO D7011/H	8GB	1	
		Windows 11 Professional	500GB		
データセンター	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M7	16GB×2	1	収蔵資料管理システム (アプリサーバ)
		Red Hat Enterprise Linux 9.4	12TB×3 (RAID5)		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M7	16GB×2	1	収蔵資料管理システム (サーチサーバ)
		Red Hat Enterprise Linux9.4	12TB×2 (RAID1)		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M6	16GB	1	展示情報システムの管理
		Red Hat Enterprise Linux9.4	8TB×2 (RAID1)		
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M6	16GB	1	ホームページの管理
		Red Hat Enterprise Linux9.4	8TB×2 (RAID1)		
	CMS サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M6	16GB	1	ホームページ更新管理
		Red Hat Enterprise Linux9.4	8TB×2 (RAID1)		
ミュージアム ライブラリー	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D7014/R	8GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 11 Professional	512GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D7014/R 他	8GB	3	
		Windows 11 Professional	512GB		
研究室・ バックヤード	研究用 WS	富士通 CELSIUS W5010	16GB	1	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 10 Professional	500GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D7014/R 他	8GB`32GB	44	
		Windows 11 Professional	512GB		
	画像処理用	富士通 CELSIUS W5014	32GB	1	
		Windows 11 Professional	512GB		

2025年度リースを反映させて作成した。リース機器のみの数量であり、備品、消耗品はカウントされていない。
機種名・使用OS・ソフトは機器更新時の納入明細より作成。

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵管理システム

博物館情報システムの中核となる「収蔵管理システム」は、収蔵資料に関する情報（資料番号、資料名、採集地、採集年月日、採集者など）を、サーバで一元的に管理し、資料の画像、さらには画像そのものも資料として管理している。また、資料に添付するラベルの印刷など、資料整理業務の効率化も図られている。

このシステムは、『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』および『神奈川県植物誌 2018』の証拠標本を含む『維管束植物』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真をデータベース化した『魚類写真』など、42 のデータベースから構成される。なお、2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵管理システムで取り扱われている。標本・アーカイブズ登録状況は 47 ページに記載した。また、書籍の情報については下表に示した。

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への意欲を持つ利用者に対して、研究成果に基づく博物館独自の情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。

展示情報システムの一部は、2004 年 7 月より当館ならではのコンテンツとして、ウェブページで公開している。

2023 年度は、衛星画像のタイトルを『衛星画像と地図』に変更し、「地図」メニューを追加した。「地

これらの情報は、2020 年 10 月よりウェブページの収蔵資料データベースにて公開を行った。なお、アクセス実績等は、当館ウェブサイト年報第 31 号資料Ⅲ 3. 統計資料に掲載した。また、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

資料登録状況

分野	2024 年度までの登録件数	2025 年度の登録件数	合計
図書	38,360	2,712	41,072
雑誌（タイトル数）	4,139	53	4,192
別刷り	340	15,813	16,153
合計	42,839	18,578	61,417

図」メニューでは、「地形図」といった一般的な地図だけでなく、「海図」や「地質図」のように特別な目的を持って作られた地図や豊かな色彩で作られた鳥瞰図（絵図）を検索できるようになった。

2025 年度は、「地層」メニューを追加した。「地層」メニューでは、神奈川県内に分布する様々な地層や岩体を検索できるようになった。

なお、2020 年度から 2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ライブラリーでの端末の使用を中止したが、2022 年 12 月に再開した。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	植物	神奈川に自生している植物、2,969 種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639 種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82 種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126 種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,170 点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164 種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を 770 枚、うち学芸員のおすすめ写真を 63 枚解説と共に提供する。
	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類 49 種の画像や解説文、骨格画像を 426 枚、10 種の 3D データを提供する。
	地層	神奈川県内に分布する様々な地層や岩体 159 点の画像や動画、解説文を提供する。
	鳥類	神奈川に生息する鳥、218 種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329 種の画像や解説文を提供する。
酒井コレクション細密画		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
菌類細密画		菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129 点の画像を提供する。
衛星画像と地図	衛星画像	衛星画像や鳥瞰図など 650 枚、うち学芸員のおすすめ 31 枚解説と共に提供する。
	地図	衛星画像や一般図や絵図など、758 点の画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書、雑誌が検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1. ウェブサイト

小田原市と共同で1995年10月から開設していたウェブサイトは、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブサイトのデザインを大幅に改良した。2020年9月にはそれまで使用していたCMSアプリケーションを入れ替えて、マルチデバイスに対応したウェブサイトが作成可能となった。また2021年3月末にはセキュリティ強化のため、httpからhttpsへ変更を行った。2025年度は、CMSアプリケーションのサポート終了に伴い2025年9月にシステム更新とウェブサイトデザインの改良を

行った。

ウェブサイトへのアクセス数については、2021年1月から2025年8月まではCMSアプリケーションのアクセスログを取得し、2025年10月からはGoogle Analyticsによりアクセス数を算出している。下の表に2025年度のトップページへのアクセス数とサイト内のページビュー数を示した。なおシステム更新の影響により2025年9月はアクセス数を取得していない。

また、2025年度のウェブサイトの更新件数は、663件であった。

月別ウェブサイトアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
トップページ アクセス数	52,203	58,932	52,639	72,578	87,989	—	39,960	44,442	40,776	46,937	42,437	51,495	53,672	590,388
サイト内 ページビュー数	108,366	114,957	112,263	167,319	185,977	—	93,979	105,744	87,688	116,660	107,307	119,201	119,951	1,319,461

7.3.2. 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年から運用している。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概 要	アクセス数
魚類写真資料データベース https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類174,189件(217,476点)の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	—
FishPix https://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類174,189件の画像を提供している。	—

アクセス数：システム更新のため、2025年度のアクセス数は採取不能；国立科学博物館による。

7.4. 情報提供

7.4.1. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数はGBIF全体では2026年4月21日現在36億5877万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データベース整備事業では、S-Net（サイエンスミュージアムネット）として国立科学博物館経由でGBIFに提供されたデータが国内向けに公開されている。2006年度から、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携を図り、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2025年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全2館、全体で13,000件の自然史標本情報の提供を行った。

2025年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館
相模原市立博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの2025年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
植 物	3,500件
昆 虫	3,800件
魚 類	3,500件
両生類・爬虫類	300件
甲殻類・軟体動物	1,000件
合 計	12,100件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1997（平成 9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、ミューズ・フェスタ 2026 に出展したり、博物館との共催でサロン・ド・小田原（3 回）や、よろずスタジオ（5 回）を開催した。また、博物館のミニ企画展示コーナーで 3 月 15 日（土）～5 月 6 日（火・休）まで「友の会の皆さまと共に一学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんか」を開催した。

事務局

1. 第 29 回 総会・総会イベントを開催した。
2. 役員会を 7 回開催し、以下の事項を検討・実施した。
役員会開催日／4 月 19 日（土）※リモート開催、5 月 10 日（土）、7 月 5 日（土）、9 月 20 日（土）、12 月 20 日（土）、2026 年 2 月 7 日（土）、2026 年 3 月 21 日（土）
 - 1) 友の会の運営について
 - 2) 会員への発送作業などについて
 - 3) 総会、および総会イベントについて

- 4) 講座の企画・実施などについて
- 5) 友の会通信の構成などについて

広報部

1. 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
2. X（旧 Twitter）@kpmtomo による情報提供
3. 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
4. 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 第 128 ～ 131 号）発行
5. 「自然科学のとびら 友の会版」を 4 回（通巻 第 119 ～ 122 号）発行

企画部

1. 講座担当者会議を 2 回開催し、以下の事項を企画・実施した。
講座担当者会議開催日／11 月 1 日（土）、2026 年 3 月 7 日（土）※ 2 回共にリモート開催
友の会が主催する講座や観察会を企画、博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 32 講座（そのうち中止 4 件）1,304 人が参加した（別表のとおり）。

8.1.2. 観察会・講座等

行事名		開催日	開催場所	参加数
1	よろずスタジオ「どうぶつの手と足クイズ」（古生物分野）	4/6（日）	東側講義室	59
2	植物観察会「身近な植物観察入門」	4/26（土）	博物館周辺	9
3	総会	4/26（土）	東西両講義室	23
4	総会イベント「学芸員による身近な自然観察会」	4/26（土）	博物館周辺	46
5	植物観察会「大雄山最乗寺のナベワリ」	5/10（土）	南足柄市 大雄山最乗寺	中止
6	植物観察会「身近な植物観察入門」	5/24（土）	博物館周辺	6
7	地質観察会「パンニングで鉱物探し」	5/31（土）	東京都狛江市 和泉多摩川付近	中止
8	植物観察会「箱根精進池から芦之湯へ」	6/3（火）	箱根町	中止
9	生物間共生講演会 13 「植物と土を結ぶ菌根菌って何？」	6/8（日）	東西両講義室	69
10	地話懇話会「アクティブシニアの石材さんぽ―神奈川の石切場と石造物を訪ねて―」	6/14（土）	西側講義室	51
11	友の会地話懇話会特別バージョン「Live 中継！海洋底掘削コア保管庫に眠るレガシーコアから海洋地殻の成り立ちにせまる」	6/20（金）	西側講義室	27
12	第 143 回 サロン・ド・小田原「岩石の研究―顕微鏡から覗く岩石の世界―」	6/28（土）	西側講義室	28
13	よろずスタジオ「夏の虫探しの極意」（昆虫分野）	6/29（日）	東側講義室	73
14	地話懇話会「植物の化石化過程」	8/27（水）	西側講義室	18
15	よろずスタジオ「葉っぱであそぼう」（植物分野）	9/7（日）	東側講義室	64
16	第 144 回 サロン・ド・小田原「特別展で展示する絵図の解説」	9/13（土）	西側講義室	32
17	菌事勉強会「神奈川県農業技術センター見学会」	9/24（水）	平塚市上吉沢	10
18	植物観察会「身近な植物観察入門」	9/27（土）	博物館周辺	8
19	植物観察会「身近な植物観察入門」	10/25（土）	博物館周辺	8

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

	行事名	開催日	開催場所	参加数
20	植物観察会「荒崎の海岸植物」	11/11(火)	横須賀市長井	15
21	生物間共生講演会 14「植物と菌類の共生Ⅱ、アーバスキュラー菌に迫る？」	11/29(土)	東西両講義室	33
22	よろずスタジオ「くじら」(動物分野)	11/30(日)	東側講義室	63
23	地質観察会「箱根火山前期中央火口丘溶岩と地形の観察」	12/13(土)	箱根町	21
24	植物観察会「初冬の皇居東御苑を楽しむ」	12/17(水)	東京都千代田区	18
25	第145回 サロン・ド・小田原「トンボやゲンゴロウなどの水生昆虫の危機—ネオニコチノイド系農薬と地球沸騰の影響—」	1/17(土)	西側講義室	53
26	地話懇話会「街角地質学～日本の近代化を支えた石材～」	1/24(土)	東西両講義室	90
27	地話懇話会特別バージョン『街中石材散歩 in 東京』	1/25(日)	東京駅周辺	39
28	地図を楽しもう	2/1(日)	実習実験室と博物館周辺	5
29	ミュージズ・フェスタ 2026	3/14(土)・15(日)	館内	340
30	よろずスタジオ「お酢と重曹の噴火実験」(地学分野)	3/22(日)	東側講義室	76
31	植物観察会「日影沢で早春の植物を楽しむ」	3/24(火)	東京都八王子市	20
32	地話懇話会「酒匂川の土手散歩」	3/25(水)	開成町酒匂川	中止
合計				1,304

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供(講演)、第2部の交流会(ワークショップ)を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待して開催してきた。2025年度は第1部の話題提供のみを行った。

第143回サロン・ド・小田原「岩石の研究—顕微鏡から覗く岩石の世界—」
 [開催日] 2025年6月28日(土)
 [会場] 博物館西側講義室
 [話題提供] 夏目 樹(当館学芸員)
 [参加者数] 28名

第145回サロン・ド・小田原「トンボやゲンゴロウなどの水生昆虫の危機—ネオニコチノイド系農薬と地球沸騰の影響—」
 [開催日] 2026年1月17日(土)
 [会場] 博物館西側講義室 / オンライン (Zoom)
 [話題提供] 荻部治紀(当館学芸員)
 [参加者数] 16名 / 37名 (オンライン)

第144回サロン・ド・小田原「鳥瞰図や地図を楽しむ。特別展『初三郎式、かながわの描き方』より」
 [開催日] 2025年9月13日(土)
 [会場] 博物館西側講義室 / 特別展示室
 [話題提供] 新井田秀一(当館学芸員)
 [参加者数] 32名

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会 (WESKAMS)

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は53施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS(ウエスカムズ)」と名付け、その事務局を当館にしている。

WESKAMSの目的を達成するための事業について協議・検討する場として、2025年度は「館園長・協力会員会議」を1回、情報交換会を1回開催した。

また、WESKAMSに加盟するミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

今年度開催された会議

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
8/22(金)	情報交換会	県立生命の星・地球博物館	6館園6名、協力会員1名
2/27(金)	館園長・協力会員会議	県立生命の星・地球博物館	5館園5名、協力会員2名

今年度開催されたミュージアム・リレー

回数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第 353 走	4/18(金)	①箱根ビジターセンター	①本館に集合後、園内の自然学習歩道に出て、見ごろを迎えたマメザクラやミツバツツジなど様々な植物の種類や特徴、それを食べる鳥や動物などの説明と合わせて実や葉などのおい・手触りを体感するなど、五感を動員した観察会となった。その後館内に戻り箱根山全体のジオラマにより地形等の説明があった。	9	0	3
第 354 走	5/9(金)	①箱根美術館	①美術館の概要や庭園（神仙郷）のガイドランスを受けた後に、苔庭や溶岩流を活用した石楽園などの自然環境を基調にした庭園を見学した。その後、本館内日本間の来賓室（通常非公開）で創立者の理想郷建設の想いについて説明を受けた。さらに本館展示室で鎌倉・室町時代から江戸時代の陶磁器等の所蔵品を鑑賞した。	9	0	5
		②箱根写真美術館	②写真家の館長は富士山の写真をライフワークとして取り組んでいる。昨年3月に開館 22 年を経てリニューアルオープンしギャラリースペース等を拡張。1 階展示室で富士山の神秘的な造形美や時空間を捉えた数々の写真を鑑賞し解説を受けた後、2 階展示室で開催中の企画展「Impressions」の作品を鑑賞した。	9	0	4
		③箱根強羅公園	③公園と周辺開発の歴史の説明を受けた後、熱帯植物館・ブーゲンビレア館等を見学し、植物の解説を受けた。その後、「白雲洞茶苑」から大文字焼が行われる明星ヶ岳の景観を眺望しながら歴史の説明を受けた。さらに、フランス式庭園内のプロムナードを散策し、バラ園やシンボルのヒマラヤ杉の説明を受けた。	9	0	4
第 355 走	6/4(水)	①箱根ジオミュージアム	①館内展示で近年の噴火活動のパネル解説、災害対策としての火山震動や火山ガスの常時監視の説明を受けた後、「蒸気井」温泉の説明や GEO ホールで箱根火山誕生の歴史について地形模型等で解説を受けた。その後、屋外観察として、2022 年3月から監視員誘導による入場が可能となった大涌谷自然研究路のシェルターや噴気等を遠望し、周囲の箱根外輪山や富士山等の地形の説明を受けた。	15	0	3
第 356 走	7/9(水)	①箱根ドルハウス美術館	①館の都合により中止	-	-	-
		②箱根駅伝ミュージアム	②今年で 101 回目を迎えた箱根駅伝の歴史について、館内のテーマごとの展示ゾーンを見学しながら、時代や社会の変化と重ね合わせた駅伝の内容や展開、優勝校の変遷や放送媒体の変化に合わせた PR 戦略としての近年のユニフォームの移り変わりなど、長年集積されたデータに基づくさまざまなエピソードを交えた、「箱根駅伝」のコンテンツの魅力が再認識できるユニークな解説を受けた。	1	0	3
第 357 走	8/1(金)	①箱根湿生花園	①園の概要や経緯の説明の後、園内に整備された 8 つの地区ごとの植物について、特徴や生育させるための工夫等の詳細な解説を受けながら園内を周遊・散策した。その後、仙石原湿原植生復元区のエリアを散策し復元の取り組みの説明を受けた。最後に、企画展として開催中の「世界の食虫植物展」を見学し食虫植物の定義や種類別の虫の捕まえ方の説明を受けた。	9	0	3
第 358 走	8/22(金)	①県立生命の星・地球博物館	①開催中の特別展「初三郎式、かながわの描き方」について、最初に吉田初三郎の人物・経歴や初三郎式鳥瞰図が描かれた時代背景等の説明があった。その後、特別展示室に移り、コーナーごとの展示の見どころについて各エリアを観覧し、現物展示を行っている鳥瞰図や立体地形模型等を確認しながら解説を受けた。	14	0	7
第 359 走	9/10(水)	①箱根ガラスの森美術館	①ヴェネチアン・グラス美術館の中で開催中の特別企画展「香りの装い〜香水瓶をめぐる軌跡〜」の展示作品の解説を受けながら鑑賞した。時代の移り変わりとともに宝石や白磁、ガラスなど厳選した約 80 点の様々な香水瓶が紹介され、3000 年以上の時を超えて人と香りが歩んだ軌跡を巡る内容となっている。また、庭園内で秋の風物詩である「ススキ」のクリスタル・ガラスや噴水等、様々なオブジェを見学した。	17	0	5
第 360 走	9/19(金)	①小田原城天守閣	①常設展示室で小田原城の歴史的な位置づけや城下の特徴等の説明を受けた後、戦国大名の北条氏が 5 代 100 年にわたり関東を統治した税制や福祉の施策、インフラ整備等について解説を受けた。さらに企画展示室で明治時代から現代に至る小田原城の歴史について、古写真等を見ながら解説を受けた。最後に最上階の展望デッキを回遊し眺望を体感した後、天守に祀られた摩利支天像の解説を受けた。	16	0	5
		②小田原市郷土文化館	②昭和 100 年と開館 70 周年を記念し、市が長年発行してきた広報紙を通して昭和時代の人々の暮らしや出来事を振り返る企画展「広報紙でタイムスリップ！昭和の小田原へ」の展示内容について、市報が伝えてきた時々のニュースや所蔵する資料から、小田原の昭和時代を紐解く数々のトピックスの解説を受けた。	7	0	5
第 361 走	10/1(水)	①箱根関所	①幕末期の箱根関所の姿を平成 19 年に完全復元。京口千人溜で現在の場所に開所が設置された地政学的な経緯等について説明があった。その後、厩・大番所を見学し、関所の役人の数や構成、江戸方向からの出女等の厳しい検査の説明を受け、通常は入れない上番休息所で関所の役割や実情の説明を受けた。また、お玉が池の名称や関所が手形を要する場所と印象付けられたエピソードを聞いた。	11	0	3
		②恩賜箱根公園	②公園入口の中央門で、箱根離宮の歴史と県立公園になるまでの経過の説明後、正面園路を歩きながら、元はハコネザサの群生地の一部を生垣に使用、湿度が高く馬酔木やコケ類が多い植生などの説明を受けた。その後、湖畔展望館で箱根離宮時代の西洋館と日本館の役割や神奈川県に下賜された歴史等の説明を受けた。	7	0	3
第 362 走	10/24(金)	①真鶴町立遠藤貝類博物館	①開館の経緯の説明後、真鶴半島と相模湾周辺の海域の状況説明を受けた。近年の黒潮の大蛇行等での海洋環境変化による魚類・貝類への影響、最北端として見られるサンゴ層形成の説明を受けた。その後、海の生物を楽しく学ぶ「海のミュージアム」として実施している、海の生態系を支えるプランクトンを顕微鏡で観察しながら解説を受け、真鶴半島の豊かな自然の世界を体感した。	6	0	5
第 363 走	11/7(金)	①箱根神社宝物殿	①常設展示室で箱根神社の由来を記した縁起（絵巻）や創建者の万巻上人の木造坐像のほか、国・町の重要文化財等を観覧しながら神社の歴史的経緯の解説を受けた。その後、企画展示室で特別企画展「武士の鑑と箱根信仰ー曽我兄弟・赤穂義士・荒木又右衛門」で展示された神社の収蔵品である貴重な宝物類を観覧しながら解説を受けた。	11	0	6
第 364 走	11/21(金)	①箱根町立郷土資料館	①常設展示により主に観光開発をテーマにした江戸時代から現在までの箱根の歴史について解説を受けた。江戸時代には「箱根七湯」の温泉場があり、町民が絶景や名所を訪ねる風潮により観光地化が進んだ。明治以降は関係者の協力で新道開削や馬車鉄道等の交通機関の整備、外国人の来遊や高級別荘地の登場等でさらなる発展を見せた。高度成長期以降は全域にわたり急速に観光地化が進んだ。	1	0	4
		②小田原文学館	②敷地・建物は、明治の政治家 田中光顕の別邸として建てられたものを市が取得し、本館を小田原文学館として、別館を白秋童謡館として開設。本館で開催中の企画展「超低空を飛ぶひと 川崎長太郎 私小説一筋 60 年の軌跡」をはじめ小田原出身やゆかりのある文学者について解説を受けた後、敷地内に一部復元移築した尾崎一雄邸を、別館で北原白秋の小田原時代の活動や作品等の解説を受けた。	11	0	2

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第 365 走	12/4(木)	①箱根ラリック美術館	①アール・ヌーボーからアール・デコの時代に活躍したフランスを代表するジュエリーとガラスの工芸家ルネ・ラリックが、生涯にわたり手がけた大胆さと繊細さを兼ね備えた数多くの作品や業績について、当時の時代背景や作品の特徴の移り変わりを含めた常設展示のコーナー別に解説を受けた。	5	0	4
第 366 走	12/12(金)	①県立おだわら諏訪の原公園	①ミカン栽培の果樹園にて、柑橘類全般の解説と園内に植生する柑橘類の分類方法（実の色・大きさ、皮の触感、葉の匂い等）の解説を受けた後、数種類の柑橘類を検証した。その後、色・形・茎の太さなどによる美味しいミカンの見分け方の説明を受けた後、参加者がミカンの味見をしながら収穫体験を行った。	3	0	4
		②小田原市尊徳記念館	②ミニ講座「二宮金次郎像の普及と変遷」として二宮金次郎（尊徳）の負薪読書の形の像が建てられた経緯や像を建てるねらい、普及の背景や像の購入等の方法、第二次世界大戦戦時下に金属回収令による「供出」から、大日本報徳社の提案により「応徴（擬人化され、強制的な動員に応える）」の考え方になった経緯などについて解説を受けた後、館内展示の見学・説明を受けた。	12	0	2
第 367 走	1/23(金)	①MOA 美術館	①開催中の「光る海 吉田 博展」の展示作品の概要や見どころについて解説を受けた。浮世絵版画の伝統的な技法に、油彩画のタッチと水彩画の色彩表現を用いた洋画技法を取り入れ、未開拓の新しい芸術を創造した木版画の展示作品を観覧した後、風景版画と、版画に描かれた場所の現在の姿を撮影したオリジナル映像が対比で投影された大画面のムービーを鑑賞した。	9	0	2
第 368 走	2/13(金)	①小田原フラワーガーデン	①園の特徴は花梅が多く 300 品種が植えられ、花のすぐ近くまで寄って観察できる。今年の梅まつりのテーマ「遅咲きの梅～華麗なる世界」について説明を受けた後、紅梅と白梅の違いや、花や産地が特徴的な珍しい品種などを鑑賞した。また、恒温のトロピカルドーム温室で熱帯・亜熱帯植物を観察した。	6	0	3
		②松永記念館	②本館前の庭園で、「電力王」と称された松永安左エ門（耳庵）の事績の解説を受けた後、箱根板橋周辺エリアに邸宅を構えた実業家の状況や近代の三茶人の交流のエピソードの紹介があった。その後、記念館敷地内の老樺荘（国登録有形文化財）で近代数寄屋風建築の意匠の特徴の説明を受けた。	5	0	2
第 369 走	2/27(金)	①県立生命の星・地球博物館	①開催中の企画展「自然史アーカイブズをひらく」について、動植物や地質などを研究する自然史科学において標本・論文など公表される資料とは別に、スケッチ・日記・手紙・写真等、保管された膨大な記録資料「自然史アーカイブズ」の説明があった。その後特別展示室内でコーナーごとの展示と当館で自然史アーカイブズと位置付けて保存する理由等の解説があった。	22	0	6
第 370 走	3/6(金)	①二宮町立ふたみ記念館	①ふたみ記念館設立の経緯と二見利節の画業を解説とビデオで紹介。その後、講師（平塚市元学芸員）の説明で、没後 50 年を記念してご家族や関係者の記憶に残る一人の画家の生きざまと、画業の経緯や影響を与えた画家、さらにさまざまな技法や画材に展開された作品の変遷や、戦後を生きた人々の姿の記録について解説があった。	23	0	3
		②町立湯河原美術館	②館の概要説明の後、平松礼二館で開催中の企画展「原点と現在」の作品を鑑賞しながら解説を受けた。その後、従来の枠にとらわれず信念を貫く生き方やスケールの大きな作品で「日本画の革命児」と称され、人々に強い衝撃を与えてきた川端龍子の 50 年以上にわたる挑戦の連続の生き方と画業について解説を受けた。	3	0	2

8. 4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、ともしびショップ・喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」（1 階）

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップであることから、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、モロッコからモササウルスの歯・アンモナイト・三葉虫・サメの歯、マダガスカルからアンモナイト、アメリカ・ユタ州から三葉虫、アメジスト・ローズクォーツ・水晶・メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトに合わせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思っただけのような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」（3 階）

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館

疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドウィッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。事前の予約があれば、障がい者に配慮した調理方法での提供も可能な範囲で対応している。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多い。

今後、博物館及び地域のレストランとしての特色を出すため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」（1 階）

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では 4 店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 第 31 号 (2025 年度)

発行日	2026 年 9 月 15 日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 佐藤武宏 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465) 21-1515 / FAX (0465) 23-8846 https://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	株式会社あしがら印刷

編集担当 太田 孝 (管理課)・石持みずき (企画情報部)・夏目 樹 (学芸部)

WEB 版では 8 ページの「職員名簿」・48 ～ 53 ページの「寄贈資料」について氏名を一部省略しています